

1 区溝・2 区井戸

No	種 類 器 種	出土状態	残存状況 法量(cm・g)	①胎土②焼成 ③色調④材質	成 ・ 整 形 の 特 徴	備 考	挿図No 写真No
1 溝-14	石製品 敲 石	埋没土	残 完形 全長 11.8 幅 5.3 厚さ 5.6 重量 435	④粗粒輝石安 山岩	横断面は三角形を呈する。両小口部に敲 打痕が認められる。		第48図 P L 30
1 溝-15	石製品 軽石製品 砥石か	埋没土	残 完形 全長 5.7 幅 5.5 厚さ 1.5 重量 22	④軽石	円板状を呈する。表・裏面は平坦面をなす。 側面も使用面となり、平坦面が形成されて いる。		第48図 P L 30
1 溝-16	石製品 石 白	埋没土	残 一部欠損 全長 <26.4> 幅 29.2 厚さ 13.7 重量 16,001	④粗粒輝石安 山岩	一部欠損する。分画は5あるいは6分画。 すり合わせ面は著しく磨耗している。側面 は敲打による成・整形を施す。		第49図 P L 30
1 溝-17	石製品 五輪塔	埋没土	残 完形 全長 29.0 幅 29.4 厚さ 15.9 重量 12,670	④粗粒輝石安 山岩	火輪。屋根反り、軒反りとも強い。軒端の 傾斜も著しい。上面の柄孔の径は7.6cm。深 さ7.1cm。また、上面に柄孔を横切る溝状の 切り込みあり。多孔質の石材をていねいに 成・整形している。		第49図 P L 30
1 溝-18	石製品 五輪塔	埋没土	残 完形 全長 25.1 幅 25.2 厚さ 18.3 重量 2,140	④粗粒輝石安 山岩	地輪。下面を除く各面ともていねいな成・整 形が施され、精美な形状を呈する。		第49図 P L 30
1 溝-19	石製品 板 碑	埋没土	残 基部破片 全長 29.2 幅 14.3 厚さ < 2.1> 重量 1,496	④緑泥片岩	中位から基部にいたる破片。器面は磨滅し 種子、紀年銘の有無は不明。		第49図 P L 30
1 溝-20	石製品 不 明	埋没土	残 一部欠損 全長 17.8 幅 19.6 厚さ 15.4 重量 6,900	④粗粒輝石安 山岩	図示した正面部分はいねいな面をつくり 出している。五輪塔の地輪に類似するが他 に比べ小型であり、用途不明である。		第49図
1 溝-21	石製品 不 明	埋没土	残 1/2 全長 <13.7> 幅 <12.4> 厚さ 5.0 重量 602	④粗粒輝石安 山岩	偏平な礫に両面から穿孔を施すための加工 が加えられている。用途不明である。		第49図 P L 30
3 溝-1	軟質陶器 火鉢か	底面	残 口縁部破 片 口 (28.6)	①粗砂・赤色 粘土粒②酸 化・軟質③灰 黄	内外面ともナデ、横ナデ。口縁部の先端と 内面はヘラ調整か。	在地系。中 世？	第49図 P L 30

2 区井戸出土の遺物

No	種 類 器 種	出土状態	残存状況 法量(cm・g)	①胎土②焼成 ③色調④材質	成 ・ 整 形 の 特 徴	備 考	挿図No 写真No
1 井戸-1	土師器 甕	埋没土	残 口縁～胴 部破片 口 (14.8)	①細砂②酸化 ③にぶい橙	口縁部横ナデ。胴部外面、刷毛目。内面、 刷毛目、ヘラナデ。	古墳時代前 期。混入品。	第55図
7 井戸-1	軟質陶器 内耳鍋	埋没土	残 口縁部破 片	①細砂多数② 還元・軟質③ 灰	内外面とも横ナデ。	在地系、中 世。	第55図 P L 31
7 井戸-2	軟質陶器 内耳鍋？	埋没土	残 胴部破片	①細砂多数② 還元・軟質③ にぶい赤褐	内外面ともナデ。	在地系、中 世。外面、 炭素吸着。	第55図

No	種類 器種	出土状態	残存状況 法量(cm・g)	①胎土②焼成 ③色調④材質	成・整形の特徴	備考	挿図No 写真No
7井戸-3	石製品 不明	埋没土	残 完形 全長 8.3 幅 6.8 厚さ 4.4 重量 125	④軽石	表・裏両面は平坦面を有するが、これが成形によるものか使用によって生じたものか判断できない。また、両面とも小穴を途中まで穿っている。用途不明。		第55図 P L 31
7井戸-4	石製品 凹石	埋没土	残 一部欠損 全長 <13.4> 幅 12.2 厚さ 4.6 重量 882	④粗粒輝石安山岩	片面の中央に小さなくぼみが集中している。これと反対側の面は多少摩擦を受けている。		第55図 P L 31
7井戸-5	石製品 凹石	埋没土	残 一部欠損 全長 <11.2> 幅 11.4 厚さ 5.2 重量 791	④粗粒輝石安山岩	表・裏両面に小さなくぼみが集中する。平面の一部と一方の側面は摩擦を強く受けている。		第55図 P L 31
7井戸-6	石製品 磨石	埋没土	残 完形 全長 13.4 幅 5.8 厚さ 5.0 重量 484	④粗粒輝石安山岩	横断面は三角形を呈する。三面のうち的一面は摩擦を受けている。また、稜線の一つは敲打による小さな割り込みを受けている。		第55図 P L 31
7井戸-7	石製品 五輪塔	埋没土	残 一部欠損 全長 <26.5> 幅 30.0 厚さ 22.1 重量 20,600	④馬見岡凝灰岩	水輪。側面の一部は欠損する。横断面に比して器高を有する。上下両面ともあまり彎曲しない。器面の調整はていねいである。		第55図 P L 31

## 2区土坑出土の遺物

No	種類 器種	出土状態	残存状況 法量(cm・g)	①胎土②焼成 ③色調④材質	成・整形の特徴	備考	挿図No 写真No
1土坑-1	石製品 砥石	埋没土	残 一部欠損 全長 <7.1> 幅 3.4 厚さ 2.9 重量 120	④砥沢石	糸巻状を呈していたか。使用面は4面。いずれも平滑であるが一部に凸面状の箇所がある。強い削痕を残す。		第71図 P L 32
3土坑-1	土師質土器 皿	埋没土	残 1/4弱欠損 口 (7.5) 底 4.2 高 2.3	①粗砂～細砂 ②酸化③(内)オリブ黒、(外)淡黄	先端はやや尖る。左回転口クロ成形。底部外面には糸切り離し後板目がつく。		第70図 P L 32
3土坑-2	軟質陶器 片口鉢	埋没土	残 胴部破片	①細砂・粗砂多量・片岩・雲母・骨針②還元・軟質③にぶい橙	斜め上方に向かって外反する。外面、粗雑なナデ。指頭圧痕。内面、使用による磨耗。	在地系。中世。	第70図 P L 32
4土坑-1	陶器 片口鉢	埋没土	残 胴部下位破片	①粗砂・白色鉍物粒②還元③灰	外面、粗雑なナデ。内面、横ナデ。下位には使用痕がみられる。	14C後。	第70図 P L 32
12土坑-1	陶器 片口鉢	埋没土	残 口縁～胴部破片 口 (22.0)	①細砂・白色鉍物粒②還元③灰	外面、口縁部横ナデ。胴部は粗雑なナデ。内面は横ナデ。下半に使用痕がみられる。	14C後半。器形の歪みは著しい。	第70図 P L 32
12土坑-2	石製品 砥石	埋没土	残 一部欠損 全長 <7.4> 幅 3.5 厚さ 2.2 重量 89	④砥沢石	糸巻状を呈する。使用面は4面。うち2面には研主体を面に打ちつけたような激しい凹凸を伴う刃傷を残している。		第71図 P L 32
51土坑-1	陶器 片口鉢	埋没土	残 口縁部破片	①細砂・白色鉍物粒②還元③灰	内外面とも横ナデ。	14C後半。	第70図 P L 32

## 2 区土坑

No	種類	出土状態	残存状況 法量(cm・g)	①胎土②焼成 ③色調④材質	成・整形の特徴	備考	挿図No 写真No
71土坑-1	石製品	埋没土	残 完形 全長 7.8 幅 4.1 厚さ 3.4 重量 131	④砥沢石	角錐状を呈している。側面には縦方向に削痕が残されている。四隅は面取りがなされている。下面は弱い凸面状を呈している。上位に直径0.4cmの円孔が貫通している。	すりこぎのように使用されたか。	第71図 P L32
76土坑-1	陶器 緑釉皿	埋没土	残 口縁部 1/3 口 (11.0)	①白色鉍物粒 微量②還元③ 灰	右回転ロクロ成形。口縁部先端の幅狭い範囲、内外面に灰釉がかかる。	古瀬戸(美濃?)15C。	第70図 巻頭口絵
76土坑-2	陶器 椀	埋没土	残 破片 口 (16.0)	①夾雑物ほとんどなし②還元③明褐	右回転ロクロ成形。高台を有していたと考えられる。外面と内面の先端に施釉。	産地、時期不明。	第70図
95土坑-1	土師質土器 皿	埋没土	残 口縁部破片 口 (11.0)	①細砂②酸化 ③黄褐	右回転ロクロ成形。	中世。	第70図
101土坑-1	軟質陶器 内耳鍋	埋没土	残 1/4 口 (27.6) 底 (19.2) 高 14.5	①細砂・白色鉍物粒・黒色鉍物粒②還元・軟質③灰	口縁部の先端は平坦面をなす。胴部は口縁部長に比して浅い。平底か。外面、口縁部は横ナデ。胴部はナデ。内面は横ナデ。	在地系。15C。	第70図 P L32
111土坑-1	土師質土器 皿	埋没土	残 破片 口 (11.8) 底 (5.2) 高 3.4	①粗砂～細砂・白色軽石 ②酸化③にぶい黄橙	左回転ロクロ成形。底部は回転さ切り離し後無調整。	器面の磨滅著しい。中世。	第70図 P L32
117土坑-1	古 銭	埋没土			咸平元寶。		第71図 P L32
156土坑-1	陶器 緑釉皿	埋没土	残 1/3弱 口 (10.0) 底 5.2 高 2.4	①黒色鉍物粒 少量②還元③ 淡黄	右回転ロクロ成形。口縁部の先端に鉄釉を施す。	瀬戸美濃陶器。15C。	第70図 巻頭口絵
163土坑-1	石製品 砥石	埋没土	残 一部欠損 か 全長 9.5 幅 7.4 厚さ 2.0 重量 310	④滑石質結晶片岩	長方形の板状品である。中央からやや小口に寄った位置に径1.3cmの小孔を穿っている。側面を含めた各面とも平滑に仕上げられている。表・裏面には筋状の細かな擦痕が多数認められる。		第71図 P L32
163土坑-2	鉄製品 釘	埋没土	残 破片 長 (2.9)		釘状の棒状品。残存長4.2cm。先端は尖る。断面は四角形で幅0.7cm、厚さ0.4cmを測る。		第71図
163土坑-3	鉄製品 棒状製品	埋没土	残 破片 長 < 4.1 幅 0.4 厚さ 0.4		断面四角形の棒状鉄。一端はつり針状に彎曲する。		第71図
163土坑-4	鉄製品 棒状製品	埋没土	残 破片		円環状の板金の一部である。幅0.6cm、厚さ0.2cmを測る。		第71図
164土坑-1	陶器 緑釉皿	埋没土	残 口縁部破片 口 (11.0)	①白色鉍物粒 微量②還元③ 灰	右回転ロクロ成形。先端の内外面に灰釉がかかる。	古瀬戸(美濃)。割れ口を漆継ぎしている。	第70図 巻頭口絵
170土坑-1	土師器 器台	埋没土	残 脚台部 底 9.8	①細砂・黒色鉍物粒②酸化 ③浅黄橙	外面は縦方向に棒状工具による磨き。内面は上半がヘラ削り。下半が棒状工具による磨き。	古墳時代前期。	第70図 P L32
170土坑-2	土師器 甕	埋没土	残 口縁～胴部 口 15.6	①粗砂②酸化 ③にぶい橙	口縁部横ナデ。胴部外面はヘラナデ後、縦方向に磨きを重ねる。内面は斜横方向のヘラナデ。	古墳時代前期。	第70図 P L32
170土坑-3	土師器 台付甕	埋没土	残 台部ほぼ 完存 底 9.4	①粗砂②酸化 ③にぶい橙	外面、縦方向の刷毛目。内面、ヘラナデ。	古墳時代前期。器面、磨耗著しい。	第70図 P L32
203土坑-1	土師器 罎	埋没土	残 1/2 口 (10.7)	①粗砂・白色軽石少量②酸化 ③明赤褐	口縁部外面は上半が横ナデ。下半は磨き。内面は横ナデ。胴部は外面がヘラ削り。内面はヘラナデ。	古墳時代前期。	第71図 P L32

No	種類	出土状態	残存状況 法量(cm・g)	①胎土②焼成 ③色調④材質	成・整形の特徴	備考	挿図No 写真No
203土坑-2	土師器 杯	埋没土	残 口縁～底 部1/4 口 (12.0) 高 4.9	①細砂②酸化 ③にぶい橙	口縁部は横ナデ。底部外面はヘラ削り。	古墳時代前期。	第71図 P L 32
204土坑-1	須恵器 甕	埋没土	残 胴部破片	①粗砂多数・ 軽石②還元・ 軟質③褐灰	内外面とも粗雑なナデ。	古代?	第70図
204土坑-2	須恵器 甕	埋没土	残 胴部破片	①粗砂多数・ 軽石②還元・ 軟質③褐灰	内外面ともナデ。	古代? 遺構 外-155に 類似。	第70図
204土坑-3	陶器 甕	埋没土	残 胴部破片	①粗砂大量② 還元・焼締め ③黄灰	内外面ともナデ。	常滑。中世。	第70図 P L 31
207土坑-1	軟質陶器 片口鉢	埋没土	残 破片	①粗砂少量② 還元・軟質③ 灰	底部は左回転の糸切り離し痕がみられる。 外面、口縁部横ナデ。胴部、縦方向のナデ。 内面に使用痕が認められる。	14C後半。	第70図 P L 32
226土坑-1	軟質陶器 片口鉢	埋没土	残 口縁部破 片	①細砂大の黒 色鉱物粒・白 色鉱物粒②還 元・軟質③灰	先端は外側に丸みを有する。内外面とも横 ナデ。	在地系。14 C後半。	第70図 P L 31
244土坑-1	石製品 石鉢	埋没土	残 1/2 口 <29.8> 底 <13.8> 高 12.8 重量 3,382	④粗粒輝石安 山岩	口縁部は平底の底部からやや内湾ぎみに立 ち上がる。内幅2.3cmの片口が付く。口縁上 端の器内は1.5cm、内面は使用による擦痕の ため平滑になっている。外面は製作時の工 具による細い敲打痕、ハツリ痕を残してい る。	炭素吸着。	第71図 P L 32

## 2区溝出土の遺物

No	種類	出土状態	残存状況 法量(cm・g)	①胎土②焼成 ③色調④材質	成・整形の特徴	備考	挿図No 写真No
1溝-1	土師質土 器 皿	埋没土	残 1/4 口 (11.2) 底 (6.2)	①粗砂②酸化 ③明赤褐	左回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離し 後無調整。	灯明皿。口 縁部先端内 外面に煤付 着。	第80図 P L 33
1溝-2	土師質土 器 皿	埋没土	残 口縁部破 片 口 (11.2) 底 (5.7) 高 2.6	①細砂②酸化 ③浅黄	右回転ロクロ成形。		第80図
1溝-3	土師質土 器 皿	埋没土	残 口縁～底 部破片 口 (11.0) 底 (4.9) 高 4.0	①粗砂少量② 酸化③にぶい 黄橙	右回転ロクロ成形か。	器面は磨耗 が著しい。	第80図
1溝-4	土師質土 器 皿	埋没土	残 口縁部破 片 口 (8.0)	①細砂②酸化 ③にぶい黄橙	左回転ロクロ成形。	灯明皿。内 外面に煤付 着。	第80図
1溝-5	土師質土 器 皿	埋没土	残 口縁部 3/4欠損 口 6.2 底 3.0 高 2.0	①細砂②酸化 ③にぶい黄橙	右回転ロクロ成形。底部回転糸切り離し 後無調整。その上に板目痕がつく。	灯明皿。口 縁部の先端 に煤付着。	第80図 P L 33
1溝-6	陶器 片口鉢	埋没土	残 底部破片 底 (13.8)	①粗砂・細砂・ 白色鉱物粒② 還元③灰	胴部外面は粗雑なナデ。内面は横ナデ。底 部とその周辺に使用痕。底部外面は砂底。	14C後半。	第80図 P L 33



## 2 区 溝

No.	種 器 類 種	出土状態	残存状況 法量(cm・g)	①胎土②焼成 ③色調④材質	成・整形の特徴	備 考	挿図No 写真No
1 溝-7	石製品 砥石	埋没土	残 完形 全長 10.9 幅 10.8 厚さ 7.0 重量 356	④軽石	礫の軽石の表・裏面、及び各側面を使用したため、原状は平面多角形を呈している。一部に敲打によると思われるくぼみもみられる。		第80図 P L 33
1 溝-8	石製品 不明	埋没土 Ng-10	残 完形 全長 20.2 幅 14.5 厚さ 10.1 重量 3,068	④粗粒輝石安山岩	片面の中央が平面形にあわせ長径9.6cm、短径6.5cm、深さ2.5cmの規模でくぼんでいる。		第80図 P L 33
1 溝-9	石製品 五輪塔	埋没土	残 一部残存 幅 17.4 厚さ <22.2> 重量 182	④粗粒輝石安山岩	空風輪の2分の1から3分の1の残存。空輪は大半が欠損し、形状も不明瞭である。柄の径は6.8cmを測る。	古い時期に欠損している。	第80図 P L 33
1 溝-10	石製品 五輪塔	埋没土	残 ほぼ完形 全長 32.2 幅 33.0 厚さ 15.6 重量 19,190	④粗粒輝石安山岩	火輪。上面は大半が欠損している。幅に比して器高が低く、扁平である。軒反りは強い。全体に明瞭な稜を形成する。上面の柄穴は径6.5cm、深さ3.8cmを測る。		第80図 P L 33
1 溝-11	石製品 石鉢	埋没土	残 口縁部破片 口 (30.6) 高 <7.6> 重量 535	④粗粒輝石安山岩	口縁部は斜め上方に向かって立ち上がる。先端は平坦面をなす。外面は細かな敲打仕上げ。内面には粗い工具痕を残し、未使用の状態を示す。		第80図 P L 33
1 溝-12	石製品 石鉢	埋没土	残 口縁部破片 口 (28.8) 高 <8.7> 重量 330	④粗粒輝石安山岩	口縁部は内湾ぎみに斜め上方に向かって立ち上がる。先端は平坦面をなす。外面はていねいな敲打仕上げ。内面は使用のため摩擦痕がみられる。		第80図 P L 33
2 溝-1	軟質陶器 内耳鍋	埋没土	残 口縁部破片	①細砂・白色 鉍物粒②還元・軟質③に ぶい褐	口縁部は受口状に屈曲して立ち上がる。先端は平坦。内外面とも横ナデ。	在地系。14 C後半。	第81図 P L 31
2 溝-2	軟質陶器 内耳鍋	埋没土	残 口縁部破片	①粗砂少量・ 長石②還元・ 軟質③浅黄	口縁部は内面に強い稜をなし、受口状を呈する。内外面ともナデ、横ナデ。	在地系。14 C後半。	第81図 P L 31
2 溝-3	軟質陶器 内耳鍋	埋没土	残 口縁部破片	①細砂・黒色 鉍物粒②還元・軟質③灰	器肉薄い。口縁部の先端は平坦面をなす。内外面とも横ナデ。	在地系。中 世。	第81図
2 溝-4	軟質陶器 内耳鍋	埋没土	残 胴部破片	①細砂多量・ 片岩?②還元・軟質③に ぶい褐	内外面ともナデ、横ナデ。	在地系。中 世。外面、 炭素吸着。	第81図
2 溝-5	軟質陶器 内耳鍋	埋没土	残 口縁部破片 口 (30.0)	①粗砂・片岩 ②酸化・軟質 ③灰	口縁部は短く、内面には受口状の稜をなす。外面、口縁部、横ナデ。内面、縦方向のナデ。	在地系。14 C後半。内 外面炭素吸 着。	第81図 P L 31
2 溝-6	軟質陶器 内耳鍋	埋没土	残 口縁部破片 口 (29.0)	①粗砂多数② 酸化・軟質③ 灰褐	口縁部は内面に弱い稜をもって外傾する。先端は丸みをもつ。	在地系。15 C。外面に 炭素吸着。	第81図 P L 31
2 溝-7	陶 器 壺	埋没土	残 胴部破片	①粗砂多数② 還元③褐灰	外面には釉がかかる。内面はナデ。	常滑。中世。 2 区 9 溝 -2 と同一 個体か。	第81図 P L 31
2 溝-8	陶 器 徳利	埋没土	残 底部破片	①夾雑物ほと んどなし②還元③淡黄	鉄釉を施す。	瀬戸。美濃 陶器。江戸。	第81図 巻頭口絵

No	種 類 器 種	出土状態	残存状況 法量 (cm・g)	①胎土②焼成 ③色調④材質	成 ・ 整 形 の 特 徴	備 考	挿図No 写真No
2 溝-9	石製品 石 鉢	埋没土	残 1/3 口 (32.2) 高 14.5 重量 4,245	④粗粒輝石安 山岩	口縁部は内彎弱く斜め上方に向かって立ち 上がる。上縁に片口が付く。器内の厚さは 上縁で3.0cm、底部で3.5cmを測る。底部は やや凹面をなす。内面には強い摩擦痕がみ られる。器面の仕上げは比較的ていねいで ある。		第81図 P L33
2 溝-10	石製品 磨 石	埋没土	残 完形 全長 10.3 幅 7.5 厚さ 4.9 重量 445	④粗粒輝石安 山岩	片面が使用され中央部分を中心にやや平滑 な面がつくられている。中央に敲打痕があ る。裏面も一部が使用面か。		第81図 P L33
3 溝-1	土師質土 器 皿	埋没土	残 口縁部破 片 口 (11.2) 底 (5.9) 高 3.0 残 高台部 底 6.8	①細砂②酸化 ③にぶい黄橙	左回転ロクロ成形。	器面、やや 磨滅してい る。	第81図
3 溝-2	陶 器 灰釉皿	埋没土	残 胴部破片	①粗砂微量② 還元③淡黄	右回転ロクロ成形。内面の一部に灰釉を施 す。	美濃陶器。 18C。	第81図 巻頭口絵 第81図
3 溝-3	陶 器 甕	埋没土	残 胴部破片	①粗砂・細砂 ②還元・焼締 ③赤褐	外面、施釉。	常滑。江戸。	第81図
3 溝-4	軟質陶器 片口鉢	埋没土	残 口縁部破 片	①細砂・白色 鉱物粒②還元 ③灰	内外面ともナデ、横ナデ。	14C後半。	第81図 P L31
3 溝-5	軟質陶器 片口鉢	埋没土	残 底部破片	①粗砂②軟質 ③にぶい橙	外面、ナデ。内面、使用痕がみられる。	15~16C。	第81図
4 溝-1	軟質陶器 内耳鉢	埋没土	残 胴部破片	①細砂多数・ 石英②還元・ 軟質③褐	内外面ともナデ、横ナデ。	在地系。中 世。	第82図
4 溝-2	陶 器 大 皿	埋没土	残 脚部破片 底 (12.0)	①細砂微量② 還元③灰白	右回転ロクロ成形。外面、回転を伴うヘラ 削り。脚を付す。内面、乳白色の釉を内面 に施釉。	古瀬戸。15 C。	第82図 巻頭口絵
5 溝-1	軟質陶器 焙 烙	埋没土	残 口縁~底 部破片	①細砂②還 元・軟質③灰 白	内外面とも横ナデ。	在地系。江 戸。	第82図 P L31
5 溝-2	軟質陶器 内耳鍋	埋没土	残 底部破片 底 (31.0)	①細砂②酸 化・軟質③褐	内外面ともナデ。	在地系。14 C後半~15 C前。底径 は断定でき ない。	第82図
5 溝-3	軟質陶器 片口鉢	埋没土	残 口縁部破 片 口 (30.0)	①細砂②還 元・軟質③に ぶい橙	内面に刷毛目あり。ナデ調整。外面、磨滅。	15~16C。	第82図 P L31
5 溝-4	陶 器 甕	埋没土	残 胴部破片	①粗砂大量② 還元・焼締 ③褐灰	内外面ともナデ。外面の一部に叩き目あり。 外面に自然釉がかかる。	常滑。中世。	第82図 P L31
5 溝-5	鉄製品 不 明	埋没土	残 完形 長 17.4 幅 1.5 厚さ 0.4		板状品。側面は弱くS字状に彎曲する。各 面とも刃部はないが、図示下端は先端が弱 く捲れ上がっている。		第82図 P L33
5 溝-6	石製品 砥 石	埋没土	残 一部欠損 全長 <10.2> 幅 3.6 厚さ 2.7 重量 138	④砥沢石	使用面は4面。長軸の断面は三角形を呈す る。縦方向に擦痕を残す。図の裏面には刀 主体を打ちつけたことによると思われる剝 離、刃傷を残す。		第82図 P L33

## 2 区 溝

No.	種 類 器 種	出土状態	残存状況 法量(cm・g)	①胎土②焼成 ③色調④材質	成 ・ 整 形 の 特 徴	備 考	挿図No. 写真No.
5 溝-7	石製品 砥 石	埋没土	残 一部欠損 全長 < 7.9> 幅 3.9 厚さ 3.6 重量 151	④砥沢石	長軸方向の断面形は山形を呈したか。使用面は2面。弱い擦痕を残す。側面には原形面を残す。		第82図 P L33
6 溝-1	陶器 片口鉢	埋没土	残 口縁部破片 口 (22.5)	①細砂・白色 鈳物粒②還元 ③灰	器形は斜め上方に向かって立ち上がる。内外面ともナデ、横ナデ。内面の下位には使用による磨耗痕が認められる。	14C後半。 口径は大型になるか。	第82図 P L31
6 溝-2	陶器 片口鉢	埋没土	残 口縁部破片	①細砂・白色 鈳物粒②還元 ③灰	内外面とも横ナデ。	14C後半。	第82図 P L31
6 溝-3	石製品 石 白	埋没土	残 破片 口 (19.6) 厚さ < 10.2> 重量 1,202	④粗粒輝石安 山岩	茶白上白の破片である。上面のくぼみは芯棒穴を兼ねた供給口に向かってやや深くなる。換手穴は矩形の穴が側面中位にみられる。磨り合わせ面はふくみを有するが、約0.5cmほどか。分画は8分画と考えられる。		第82図 P L34
6 溝-4	石製品 石 白 (下白)	埋没土	残 破片 口 (38.4) 底 (31.4) 厚さ 9.0 重量 921	④粗粒輝石安 山岩	茶白の下白、はんぎり部分である。外形は弱く、彎曲して立ち上がる。		第82図 P L34
6 溝-5	石製品 石 白 (下白)	埋没土	残 破片 口 (39.2) 厚さ < 4.3> 重量 401	④粗粒輝石安 山岩	茶白の下白のはんぎり部分である。皿状に彎曲して立ち上がる。		第82図
6 溝-6	石製品 石 鉢	埋没土	残 口縁部破片 口 (26.6) 高 < 7.4> 重量 561	④粗粒輝石安 山岩	口縁部は斜め上方に向かって立ち上がる。口径は大きくなる可能性がある。外面はていねいな仕上げ。内面もていねいに仕上げられているが摩擦痕はほとんど認められない。		第82図 P L34
6 溝-7	石製品 石 鉢	埋没土	残 底部破片 底 (14.0) 高 < 7.0> 重量 540	④粗粒輝石安 山岩	平底の底部から傾斜を急にして立ち上がる。内外面ともていねいな仕上がりであるが、内面には磨擦痕は認められない。		第82図
6 溝-8	石製品 石 鉢	埋没土	残 底部破片 底 (13.8) 高 < 4.3> 重量 1,072	④粗粒輝石安 山岩	平底の底部から斜め上方に立ち上がったと思われる。外面には工具痕が若干みられる。内面には弱い摩擦痕が認められる。		第82図
6 溝-9	石製品 砥 石	埋没土	残 完形 全長 9.1 幅 5.2 厚さ 2.1 重量 93	④粗粒輝石安 山岩	木の葉状の平面形状を呈する。表・裏両面、各側面とも使用面を形成している。		第83図 P L34
6 溝-10	石製品 砥 石	埋没土	残 完形 全長 8.4 幅 6.3 厚さ 3.7 重量 142	④粗粒輝石安 山岩	原形は長軸方向の断面形が山形を呈していたか。表面には平坦な使用面がみられる。裏面、側面も一部使用面がある。		第83図 P L34
6 溝-11	石製品 砥 石	埋没土	残 一部欠損 全長 < 7.6> 幅 < 7.0> 厚さ 3.4 重量 167	④粗粒輝石安 山岩	表・裏両面は全体に使用痕が認められ平滑になっている。		第83図 P L34
6 溝-12	石製品 不 明	埋没土	残 完形 全長 10.8 幅 8.7 厚さ 4.6 重量 612	④粗粒輝石安 山岩	片面の中央部分は皿状に大きくくぼんでいる。小口部分の欠損は敲打によるか。		第83図 P L34

No.	種 類 器 種	出土状態	残存状況 法量(cm・g)	①胎土②焼成 ③色調④材質	成・整形の特徴	備 考	挿図No 写真No
7溝-1	軟質陶器 香 炉	埋没土 Kc-8 +5~12	残 3/4 口 13.2 底 9.1 高 (3.8) 残 胴~底部 破片	①赤色粘土粒 多量②還元・ 軟質③にぶい 橙	口縁部外面に印花文が連続する。脚は底面 に3脚を付す。	在地系。江 戸。器面は やや磨滅。	第83図
7溝-2	軟質陶器 内耳鍋	埋没土	残 胴~底部 破片	①粗砂・片岩 ②還元・軟質 ③灰白	内外面ともナデ、横ナデ。	在地系。中 世。	第83図
9溝-1	須恵器 瓶?	埋没土	残 底部破片 底 (9.0)	①黒色鉱物粒 微量②還元③ 灰	右回転クロコ成形。底部、回転糸切り離し 後、周縁部を手持ちヘラ削り調整。		第83図
9溝-2	陶 器 壺	埋没土	残 肩部破片	①粗砂多数② 還元③褐灰	外面には釉がかかる。内面、ナデ。	常滑。中世。 2溝-7と 同一個体。	第83図 P L 31
9溝-3	石製品 砥 石	埋没土	残 一部欠損 全長<7.7> 幅 2.1 厚さ 1.8 重量 66	④砥沢石	使用面は4面、ほぼ平滑であるがわずかに 凸面状を呈する部分もある。弱い擦痕が残 る。	第83図 P L 33	
9溝-4	石製品 砥 石	埋没土	残 完形 全長 8.9 幅 6.5 厚さ 7.1 重量 202	④軽石	小口面の一面を除く各面が使用のため平滑 面をなしている。一側面の小口から約2cm の位置に穿孔が施されるが表面から2.1cm で止まっている。一部に刃傷を残す。	第83図 P L 33	
9溝-5	石製品 石 鉢	埋没土	残 上位1/3 口 (30.0) 高 <11.7> 重量 2,110	④粗粒輝石安 山岩	口縁部は斜め上方に向かって立ち上がる。 上端には片口が付いている。器肉は3.5~5. 0cmと厚い。外面には敲打によるハツリ痕を 強く残す。内面に摩擦痕を認めるが、あまり 顕著でない。	第83図 P L 33	
10溝-1	陶 器 甕	埋没土	残 胴部破片	①粗砂大量② 還元・焼締め ③褐灰	内外面ともナデ。外面の一部に叩き目あり。 釉がかかる。	常滑。中世。	第83図 P L 31
15溝-1	陶 器 甕	埋没土 5号溝出土破 片と接合	残 胴部破片	①粗砂大量② 還元・焼締め ③褐灰	内外面ともナデ。外面の一部に叩き目あり。 外面に自然釉がかかる。	常滑。中世。	第83図 P L 31
大溝-1	陶 器 大 甕	埋没土	残 頸部破片	①粗砂大量② 還元・焼締め ③黄灰	内外面ともナデ。外面に釉がかかる。	常滑。中世	第84図 P L 31
大溝-2	陶 器 甕	埋没土 Ne-12	残 胴部破片	①粗砂大量② 還元・焼締め ③灰白	内外面ともナデ。外面に釉がかかる。	常滑。中世。 注記の誤り か。	第84図 P L 31
大溝-3	陶 器 甕	埋没土	残 胴部破片	①粗砂大量② 還元・焼締め ③灰黄	内外面ともナデ。外面の一部に叩き目。	常滑。中世。	第84図 P L 31
大溝-4	陶 器 甕	埋没土 Ne-12	残 底部破片	①粗砂大量② 還元・焼締め ③黄灰	内外面ともていねいなナデ。内面、釉落ち 著しい。	常滑。中世。 注記の誤り か。	第84図 P L 31
大溝-5	軟質陶器 片口鉢	埋没土	残 口縁部破 片	①細砂・白色 鉱物粒②還元 ③灰	先端は尖る。内外面とも横ナデ。内面、若 干の使用痕が認められる。	14C後半。	第84図 P L 31
大溝-6	軟質陶器 片口鉢	埋没土 Nd-14	残 胴部破片	①細砂・黒色 鉱物粒②還 元・軟質③浅 黄橙	内外面ともナデ。	中世か。外 面、炭素吸 着。	第84図
大溝-7	軟質陶器 内耳鍋	埋没土	残 破片	①粗砂②還 元・軟質③灰 白	内外面ともナデ。	在地系。中 世。	第84図
大溝-8	軟質陶器 内耳鍋	埋没土	残 胴~底部 破片	①細砂・白色 鉱物粒②還 元・軟質③に ぶい橙	内外面ともナデ。	在地系。中 世。	第84図

## 2 区 溝

No	種 類 器 種	出土状態	残存状況 法量(cm・g)	①胎土②焼成 ③色調④材質	成 ・ 整 形 の 特 徴	備 考	挿図No 写真No
大溝-9	土製品 円 板	埋没土	残 完形 縦 3.6 横 4.8 厚さ 0.5	①粗砂②酸化 ③浅黄橙	土器の胴部破片を再調整して円板状とした製品。表・裏面ともナデ。		第84図 P L 34
大溝-10	石製品 石 臼	埋没土 Ne-12	残 3/4 全長 <29.3> 幅 29.3 厚さ 9.1 重量 8,440	④粗粒輝石安 山岩	下臼である。やや片減りしている。磨り合わせ面の分画は不明である。若干ふくみを有している。芯穴は円形で、径4.3cmを測る。		第84図 P L 34
大溝-11	石製品 砥 石	埋没土	残 1/2 全長 <8.4> 幅 <7.5> 厚さ 3.4 重量 254	④粗粒輝石安 山岩	表・裏両面とも使用により平滑になっている。		第84図 P L 34
大溝-12	石製品 砥 石	埋没土 Nd-14	残 完形 全長 7.7 幅 7.4 厚さ 2.8 重量 191	④粗粒輝石安 山岩	長軸方向の断面は山形を呈する。片面は使用により平坦面をなす。側面も狭小な使用面を形成する。		第84図 P L 34
大溝-13	石製品 砥 石	埋没土	残 一部残存 全長 <5.5> 幅 3.7 厚さ 2.7 重量 90	④砥沢石	糸巻状を呈する。使用面は4面でいずれも平滑である。		第84図 P L 34
大溝-14	石製品 砥 石	埋没土 Nf-10	残 完形 全長 20.3 幅 12.7 厚さ 9.7 重量 2,705	④粗粒輝石安 山岩	平面楕円形を呈する礫の側面を使用している。使用面はきわめて平滑である。また、表・裏両面には長軸と平行する深い刃傷が数条ずつみられる。		第85図 P L 34
大溝-15	石製品 不 明	埋没土	残 1/2 全長 <8.3> 幅 12.0 厚さ 8.1 重量 594	④粗粒輝石安 山岩	平面、楕円形を呈していたと考えられる礫。一面は播鉢状に窪む。もう一面も中央に小穴の集合箇所がみられ、周辺に粗雑な摩擦痕を残す。用途不明。		第85図
大溝-16	石製品 砥 石	埋没土 Nf-6	残 完形 全長 10.2 幅 8.3 厚さ 6.5 重量 232	④軽石	表・裏両面を中心に各面が若干使用面とされているか。		第85図 P L 34
大溝-17	石製品 砥 石	埋没土	残 完形 全長 7.8 幅 7.3 厚さ 2.4 重量 176	④粗粒輝石安 山岩	表・裏両面は使用により平坦面を形成する。各側辺にも使用痕がみられる。小口の欠損は敲打によるものか。		第85図 P L 34
大溝-18	石製品 板 碑	埋没土 Ne-12	残 破片 全長 <26.3> 幅 <12.9> 厚さ 2.0 重量 1,018	④緑泥片岩	中位の大型破片。器面は磨滅が進行している。		第86図 P L 34
大溝-19	石製品 板 碑	埋没土 Ne-12 Ne-11	残 破片 全長 <29.0> 幅 <16.8> 厚さ 2.3 重量 1,102	④緑泥片岩	中位の破片である。器面はやや剥離が進行している。		第86図
大溝-20	石製品 板 碑	埋没土 Ne-12	残 下半部 全長 <36.5> 幅 14.0 厚さ 1.2 重量 1,101	④緑泥片岩	中位から基部にいたる破片である。器面は磨滅が進行、種子、紀年銘の有無は不明である。		第86図 P L 34

No.	種類 器種	出土状態	残存状況 法量(cm・g)	①胎土②焼成 ③色調④材質	成・整形の特徴	備考	挿図No 写真No
大溝-21	石製品 五輪塔	埋没土 Ne-12	残 完形 幅 17.0 厚さ 27.1 重量 6,490	④粗粒輝石安 山岩	空風輪。空輪に比して風輪の割合が大きい。 柄の径は6.8cm、長さ4.3cmを測る。多孔質 の石材を使用している。		第86図 P L 34
大溝-22	石製品 五輪塔	埋没土 Nd-14	残 一部欠損 幅 19.3 厚さ <30.9> 重量 10,580	④粗粒輝石安 山岩	空風輪。横断面が丸みをおびず隅丸方形に 近い形状である。器面の仕上げはいい。 柄の径は6.0cm、長さは4.9cm以上である。		第86図 P L 34
大溝-23	古 銭	埋没土			不明。		第86図 P L 34
大溝-24	古 銭	埋没土 Ne-11			開元通寶。		第86図 P L 34
大溝-25	古 銭	埋没土 Ne-12			元豊通寶。		第86図 P L 34

## 3区井戸出土の遺物

No.	種類 器種	出土状態	残存状況 法量(cm・g)	①胎土②焼成 ③色調④材質	成・整形の特徴	備考	挿図No 写真No
1井戸-1	陶器 片口鉢	埋没土	残 口縁下半 ~胴部破 片	①粗砂少量② 還元・軟質③ 灰	口縁部は胴部からやや傾きを増して立ち上 がるか。胴部外面はナデ。内面は使用による 磨耗。	14C後~15 C。中世。	第91図 P L 35
14井戸-1	軟質陶器 鉢	埋没土	残 破片	①粗砂少量② 還元・軟質③ にぶい橙	底部周辺の破片。外面、ナデ。内面、使用 による磨耗。	在地系。中 世。	第91図
15井戸-1	軟質陶器 片口鉢	埋没土	残 口縁部破 片	①粗砂少量② 還元・軟質③ にぶい赤褐	先端は外面が丸みを有し、内面が直線的に 立ち上がる。内外面ともナデ。	在地系。14 C後半。	第91図 P L 35

## 3区土坑出土の遺物

No.	種類 器種	出土状態	残存状況 法量(cm・g)	①胎土②焼成 ③色調④材質	成・整形の特徴	備考	挿図No 写真No
50土坑-1	土師器 甕	埋没土下層	残 口縁部完 形、胴部 1/3 口 19.3	①粗砂少量・ 白色軽石②酸 化③黄橙	口縁部横ナデ。胴部外面は斜横方向のヘラ ナデ。一部にヘラ削り。内面もヘラナデ、 ヘラ削り。		第104図 P L 35
50土坑-2	土師器 甕	埋没土	残 口縁部破 片 口 (20.0)	①細砂・白色 鉍物粒②酸化 ③にぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部内外面ともヘラナデ。	古墳時代後 期。	第104図 P L 35
50土坑-3	土師器 甕	埋没土下層	残 口縁部破 片 口 (17.0)	①粗砂・白色 鉍物粒②酸化 ③にぶい橙	口縁部は幅広く横ナデ。外面縦方向のヘラ ナデ。内面横方向のヘラナデ。	古墳時代後 期。	第104図 P L 35
50土坑-4	陶器 甕	埋没土	残 胴部下半 破片	①粗砂・白色 鉍物粒②還 元・軟質③灰	外面、ナデ。内面、横方向のナデ。		第104図 P L 35
50土坑-5	軟質陶器 甕?	埋没土	残 破片	①細砂・白色 鉍物粒②還 元・軟質③灰 黄	外面、ナデ。内面、横ナデ。		第104図
50土坑-6	軟質陶器 甕	埋没土	残 底部破片 底 (15.0)	①細砂・白色 鉍物粒②還元 ③灰	内外面ともナデ。平底の底部外面もナデ。		第104図 P L 35
50土坑-7	陶器 甕	埋没土	残 破片	①粗砂・白色 鉍物粒②還元 ③灰	内外面ともナデ。	3区50土坑 -4と同一 個体か。	第104図 P L 35
62土坑-1	軟質陶器 片口鉢	埋没土	残 破片	①白色鉍物粒 微量②還元・ 軟質③灰	外面、ナデ調整。一部に刷毛が当たって いる。内面、使用による磨耗顕著。	中世。	第104図 P L 35

3 区 土 坑

No.	種 類 器 種	出土状態	残存状況 法量(cm・g)	①胎土②焼成 ③色調④材質	成 ・ 整 形 の 特 徴	備 考	挿図No 写真No
118土坑-1	石製品 砥 石	埋没土	残 1/2 全長 < 7.1> 幅 3.1 厚さ 2.0 重量 58	④砥沢石	使用面は4面。表・裏面は凹面、側面は凸面をなす。小口には原形面を残す。		第104図 P L 36
121土坑-1	土師器 杯	埋没土	残 口縁部一 部欠損 口 9.2 高 4.6	①粗砂②酸化 ③明赤褐	口縁部横ナデ。底部外面はヘラ削り。内面、ナデの上に放射状に粗く棒状工具による磨き。	古墳時代後期。	第104図 P L 35
122土坑-1	陶 器 播 鉢	埋没土	残 破片	①黒色鈹物粒 微量②還元③ 灰黄	内面、刷毛目。外面、施釉。	時期不明。	第104図
122土坑-2	土師器 台付甕 (S 字状 口縁)	+27	残 口縁部 1/4 口 (12.6)	①粗砂・白色 鈹物粒②酸化 ③暗灰黄	口縁部横ナデ。胴部外面刷毛目。内面、指頭によるナデ。		第104図 P L 35
122土坑-3	金属器 不 明	埋没土	残 両端欠損		棒状製品。L字状に屈曲している。残存長16.9cmを測るが両端とも欠損する。断面四角形で、幅、厚さとも0.5cm前後である。		第104図 P L 35
124土坑-1	土師器 罎	埋没土	残 口縁部欠 損	①粗砂少量② 酸化③におい 黄橙	外面、一部ヘラナデ。大半は棒状工具による磨き。内面、ヘラナデ。	古墳時代前期。	第104図 P L 35
124土坑-2	土師器 器 台	埋没土	残 口縁～胴 部上位ほ ぼ完存 口 7.5	①粗砂少量・ 白色軽石②酸 化③明赤褐	受部内外面、脚部外面は磨き。脚部内面はナデ。	古墳時代前期。	第104図 P L 35
134土坑-1	土師器 長 甕	埋没土	残 口縁～胴 部破片 口 (18.6)	①粗砂少量② 酸化③におい 橙	口縁部横ナデ。胴部外面は縦方向のヘラ削り。内面は横方向のヘラナデ。	古墳時代後期。	第104図
136土坑-1	土師器 鉢	埋没土	残 口縁部 1/3欠損、 体部一部 欠損 口 6.7 底 4.8 高 4.7	①粗砂②酸化 ③におい黄橙	外面、縦方向にナデ。内面、口縁部は刷毛目。胴部はヘラナデ。	古墳時代前期？	第104図 P L 35
136土坑-2	土師器 器 台	+ 3	残 受部 口 8.0	①粗砂少量② 酸化③におい 橙	内外面ともていねいな磨きを充填する。	古墳時代前期。	第104図 P L 35
136土坑-3	土師器 台付甕 (S 字状 口縁)	底面	残 台部3/4 底 10.2	①粗砂②酸化 ③明赤褐	外面、ナデ。一部に刷毛目。内面、指頭によるナデ。	古墳時代前期。	第104図 P L 36
136土坑-4	土師器 台付甕	+14	残 台部完存 底 10.8	①粗砂少量② 酸化③におい 橙	外面はナデ。下半に刷毛目を残す。内面、上位に刷毛目。内面にナデ。	古墳時代前期。	第104図 P L 36
142土坑-1	土師器 甕	+17	残 口縁～胴 部上位 1/3、底部 完存 口 (21.8) 底 8.8 高 25.7	①粗砂、白色 軽石②酸化③ におい橙	口縁部は横ナデ。外面は縦方向に2～3回に分けてヘラナデ。一部にヘラ削り。内面は最下位にヘラ削り。他は横方向のヘラナデが主体。	古墳時代前期。	第104図 P L 35
142土坑-2	土師器 甕	+25	残 口縁～胴 部上位 口 17.4	①粗砂②酸化 ③におい黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面はていねいなヘラナデ。胴部内面もヘラナデ。	古墳時代前期。	第105図 P L 35

## 3区土坑

No	種類	出土状態	残存状況 法量(cm・g)	①胎土②焼成 ③色調④材質	成・整形の特徴	備考	挿図No 写真No
142土坑-3	土師器 甕	+21	残 口縁～胴 部上位 1/3 口 (13.6)	①細砂・白色・ 黒色鈹物粒② 酸化③明赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面はヘラナデ。一 部にヘラ削り。	古墳時代後 期?	第105図
142土坑-4	石製品 凹石	+16	残 1/2 全長 10.8 厚さ < 4.3> 重量 468	④粗粒輝石安 山岩	表・裏両面とも中央部分に小さなくぼみが 集中する。	注記に誤り あり。	第105図 P L 36
142土坑-5	石製品 不明	埋没土	残 完形 全長 13.2 幅 7.0 厚さ 3.7 重量 156	④軽石	平面、瓜実状を呈する。側面の一方は大き くえぐれ、舟底状を呈する。小口寄りに直 径1cmの透孔があり、その両際にも浅いく ぼみが2孔並ぶ。		第105図 P L 36
158土坑-1	須恵器 甕	埋没土	残 胴部破片	①粗砂大の鈹 物粒少量②還元・焼締め③ 灰	器肉薄い。外面、叩き目。内面、当て目に ナデを重ねる。	古墳時代後 期。混入品 と思われる。	第105図
158土坑-2	須恵器 不明	埋没土	残 胴部破片	①白色鈹物粒 微量②還元③ 灰	外面、カキ目。内面、当て目。	古墳時代後 期。混入品 と思われる	第105図
158土坑-3	石器 不明	埋没土	残 完形 全長 2.0 幅 1.4 厚さ 0.6 重量 2	④玉髄	細部調整の加えられた縁部はやや潰れてい る。		第105図 P L 36
164土坑-1	土師器 ミニチュ ア	埋没土	残 口縁部破 片、胴部 1/2弱、底 部破片 底 (2.0)	①細砂・白色 軽石②酸化③ にぶい黄橙	胴部は球形を呈し、平底。胴部外面は上半 がヘラナデ。下半はヘラ削り。内面は指ナ デ。		第105図 P L 36
171土坑-1	土師器 杯	埋没土	残 2/3 口 11.0 高 4.3	①粗砂・赤色 粘土粒・石英 ②酸化③にぶ い橙	口縁部は横ナデ。底部外面はヘラ削り。	古墳時代後 期。	第105図 P L 36
171土坑-2	土師器 甕	埋没土	残 口縁～胴 部上位破 片 口 (12.0)	①粗砂少量② 酸化③にぶい 赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は横方向の磨き。 一部ヘラナデ。内面はヘラナデ、ヘラ磨き。		第105図
177土坑-1	土師器 杯	+14	残 口縁～胴 部下位 1/4 口 (11.0)	①粗砂少量② 酸化③明赤褐	口縁部の先端に平坦面を有する。口縁部は 横ナデ。底部外面はヘラ削り。	古墳時代後 期。	第105図
177土坑-2	土師器 甕	+6	残 ほぼ完形 口 17.0 底 3.0 高 21.7	①粗砂・白色 軽石②酸化③ にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は下位にヘラ削 り。その他は方向を変えてヘラナデ。内面 はヘラナデ。一部にヘラ削り。	古墳時代後 期。	第105図 P L 36
177土坑-3	土師器 直口壺	+19 +25	残 ほぼ完形 口 14.4 高 16.2	①細砂②酸化 ③黄褐	口縁部は内外面とも先端を横ナデ。以下は ていねいなヘラナデ。胴部は外面がヘラナ デ、ヘラ削り。内面はていねいなナデ。	古墳時代前 期。	第105図 P L 36
187土坑-1	土師器 ミニチュ ア	埋没土	残 口縁～底 部1/3弱 口 (8.2) 底 3.8 高 4.5	①細砂・黒色 鈹物粒②酸化 ③にぶい黄橙	外面、口縁部横ナデ。胴部、粗雑なナデ。 内面、口縁部磨き。胴部、ナデ。	古墳時代前 期。	第105図 P L 36
187土坑-2	土師器 壺	埋没土	残 口縁部破 片 口 (13.0)	①細砂精選② 酸化③にぶい 橙	上半は外面に明瞭な段を有して立ち上 がる。3本1単位の棒状浮文が貼付される。	古墳時代前 期。	第105図 P L 36
190土坑-1	古 銭	埋没土			景祐元寶。		第105図 P L 36



### 3区土坑・溝・遺構外出土の遺物

No.	種類 器種	出土状態	残存状況 法量(cm・g)	①胎土②焼成 ③色調④材質	成・整形の特徴	備考	挿図No 写真No
190土坑-2	軟質陶器 片口鉢	埋没土	残 破片	①胎土②焼成 ③色調④材質	斜め上方に向かって立ち上がる。外面、タテ方向のナデ、磨き。内面、ナデ。使用による磨耗。	在地系。中世。	第105図 P L 35
191土坑-1	土師器 不明	埋没土	残 胴部破片	①胎土②焼成 ③色調④材質	外面に櫛描文が斜格子目状に施されている。		第105図

### 3区溝出土の遺物

No.	種類 器種	出土状態	残存状況 法量(cm・g)	①胎土②焼成 ③色調④材質	成・整形の特徴	備考	挿図No 写真No
2溝-1	陶器 高台付碗	埋没土	残 高台部の み3/4完 存 底 4.8	①全体にボソ ボソしている。 ②還元③地色 は灰白	鉄釉を施している。	瀬戸。美濃 陶器。江戸。	第111図 巻頭口絵
2溝-2	土師器 台付甕 (疑S字 状口縁)	埋没土	残 口縁部破 片 口 (21.0)	①粗砂少量② 酸化③明赤褐	口縁部は横ナデ。内面は頸部に刷毛目、ヘラ削り。	古墳時代前 期。	第111図
13溝-1	土師器 高杯	埋没土	残 杯部1/3、 脚部欠損 口 (11.8)	①粗砂少量② 酸化③におい 橙	内外面とも磨きを施す。	古墳時代前 期。	第111図 P L 36
13溝-2	土師器 鉢	埋没土	残 ほぼ完形 口 14.8 底 4.2 高 6.2	①粗砂少量② 酸化③におい 橙	内外面とも横方向を基本とした棒状工具による磨きを充填する。	古墳時代前 期。	第111図 P L 36
13溝-3	土師器 器台	埋没土	残 ほぼ完形 口 8.9 底 13.4 高 9.0	①粗砂少量・ 黒色鉱物粒 ②酸化③にお い黄橙	受部内外面、脚部外面は磨き。脚部内面はヘラ削り。裾部に横ナデ。	破碎後、火 熱を受けて いる。透孔 は3個ずつ 2段に、合 計6個。	第111図 P L 36
13溝-4	石製品 砥石	埋没土	残 完形 全長 8.4 幅 6.3 厚さ 3.5 重量 90	④軽石	それぞれの一方の平面、小口面が使用面となり平坦面が形成されている。平面には長軸に斜めに交差する深い刃傷が残る。		第111図 P L 36
13溝-5	石製品 磨石	埋没土	残 完形 全長 14.3 幅 10.8 厚さ 3.2 重量 620	④粗粒輝石安 山岩	片側は器面全体が使用により平滑になっている。		第111図
18溝-1	陶器 播鉢	埋没土	残 破片	①粗砂少量② 還元③淡黄	内外面に施釉。内面、刷毛目。使用痕認められる。	瀬戸。美濃 陶器。16～ 17C?	第111図 巻頭口絵
18溝-2	瓦	埋没土	残 瓦当面 1/2 全長 < 3.6> 幅 6.9 厚さ < 1.9>	①夾雑物ほと んどなし②還 元・軟質③灰	瓦当に巴と八曜の文様が入る。	江戸～近代。	第111図

### 遺構外出土の遺物

No.	種類 器種	出土状態	残存状況 法量(cm・g)	①胎土②焼成 ③色調④材質	成・整形の特徴	備考	挿図No 写真No
127	土師器 台付甕 (S字状 口縁)	3区Pg-9 グリッド	残 破片 口 (12.6) 底 (10.0) 高 (25.8)	①粗砂・細砂 多量②酸化③ 灰黄	口縁部横ナデ。胴部外面刷毛目。内面指頭によるナデ。脚部内面も指頭によるナデ。	3片から図 上復元。古 墳時代前 期。	第117図

遺構外出土の遺物

No	種類 器種	出土状態	残存状況 法量(cm・g)	①胎土②焼成 ③色調④材質	成・整形の特徴	備考	挿図No 写真No
128	土師器 台付甕	3区Pk-18 グリッド	残 口縁~底 部2/3、台 部欠損 口 (11.2)	①粗砂・白色 軽石②酸化③ にぶい黄橙	口縁部横ナデ。胴部外面は上半が横方向、 下半が斜縦方向の磨き。内面は上位に刷毛 目を残すが以下はヘラナデ。	古墳時代前 期。	第117図 P L 40
129	土師器 壺	3区Pk-18 グリッド	残 口縁部 3/4~胴 部上位 口 12.4	①粗砂少量・ 細砂②酸化③ 灰黄	口縁部は内外面とも先端に横ナデ。以下に 刷毛目。胴部外面はナデの上に棒状の磨き を重ねる。内面は刷毛目、ナデを施す。	古墳時代前 期。	第117図 P L 40
130	土師器 ミニチュ ア	3区Pl-18 グリッド	残 完形 口 6.0 底 3.2 高 4.2	①粗砂少量② 酸化③一部を 除きにぶい橙	外面はしぼるような指ナデ。内面もナデ。	古墳時代前 期。	第117図 P L 40
131	土師器 罎	3区Pk-18 グリッド	残 底部下位 欠損 口 (14.9)	①粗砂②酸化 ③灰黄褐	口縁部内外面とも縦方向の磨き。胴部内外 面とも横方向の磨き。	古墳時代前 期。	第117図 P L 40
132	土師器 有孔鉢	3区Pk-18 グリッド	残 3/4 口 12.3 底 3.1 高 5.5	①粗砂・白色 軽石②酸化③ 明赤褐	外面は粗雑なナデ、棒状工具による磨き。 内面は横方向の刷毛目に縦方向の磨きを重 ねる。底部の孔の直径は1.0cm。	古墳時代前 期。	第117図 P L 40
133	土師器 鉢	3区Pk-18 グリッド	残 口縁部欠 損、胴~ 底部完存 底 3.2	①粗砂少量・ 白色軽石②酸 化③にぶい赤 褐	胴部外面は棒状工具による磨き。内面は上 半がナデ。下半が磨き。	古墳時代前 期。	第117図 P L 40
134	土師器 甕	3区Pk-18 グリッド	残 胴部一部 欠損 口 11.4 底 5.0 高 12.1	①細砂・白色 軽石②酸化③ 褐灰	口縁部横ナデ。胴部外面は上位~中位に横 方向の磨き。下位は斜縦方向の磨き。一部 に刷毛目を残す。内面は上半に刷毛目。下 半にナデ。一部に磨き。	古墳時代前 期。	第117図 P L 40
135	土師器 壺	3区Qi-3 グリッド	残 口縁部 1/3 口 (18.8)	①細砂②酸化 ③にぶい黄橙	頸部の突帯には刻目をつけられる。外面は 粗雑な磨き。一部に刷毛目を残す。内面は 横方向の棒状工具による磨きを充填する。	古墳時代前 期。	第117図 P L 40
136	土師器 壺	3区Ql-5 グリッド	残 口縁部破 片 口 (17.4)	①粗砂少量② 酸化③明赤褐	外面は上位が刷毛目後先端を横ナデ。下位 は刷毛目に一部磨きを重ねる。内面は横方 向の磨き。	古墳時代前 期。	第117図
137	土師器 有孔鉢	3区Ql-5 グリッド	残 1/3 口 (21.5) 底 6.0 高 10.8	①粗砂少量② 酸化③明赤褐	外面は口縁部が横方向、胴部が縦方向の磨 き。内面は縦方向の磨き。	古墳時代前 期。	第117図 P L 40
138	土師器 罎	3区Qi-3 グリッド	残 口縁~胴 部1/4欠 損 口 17.3 底 3.4 高 6.2	①粗砂・白色 軽石多量②酸 化③にぶい橙	内外面とも棒状工具による磨き。口縁部は 横方向、底部は斜横方向に施す。	古墳時代前 期。	第117図 P L 40
139	土師器 台付甕	3区Qk-7 3区Qk-4 3区Qe-4 3区Qq-8 3区Qg-4 グリッド	残 脚台部欠 損3/4 口 (18.4)	①細砂②酸化 ③灰黄褐	口縁部横ナデ。胴部外面は数回に分けて刷 毛目。中位から下位はこの上にヘラナデを 重ねる。内面は斜横方向のヘラナデ。	古墳時代前 期。	第117図 P L 40
140	土師器 甕	3区Qi-3 グリッド	残 口縁部破 片 口 (18.2)	①白色軽石② 酸化③にぶい 赤褐	口縁部横ナデ。胴部外面は上位に刷毛目。 以下はヘラ削り。内面も刷毛目、ヘラ削り、 ヘラナデ。	古墳時代前 期。	第117図
141	土師器 台付甕 (S字状 口縁)	3区Qk-6 グリッド	残 口縁~胴 部破片 口 (15.6)	①粗砂少量② 酸化③にぶい 黄橙	口縁部横ナデ。胴部外面は刷毛目。内面指 頭によるナデ。	古墳時代前 期。	第117図
142	土師器 台付甕	3区Qk-3 グリッド	残 脚台部 1/3 底 (10.0)	①粗砂少量② 酸化③にぶい 黄橙	外面、ていねいなナデ。内面、刷毛目の上 に一部ナデを重ねる。	古墳時代前 期。	第117図

遺構外出土の遺物

No	種 類 器 種	出土状態	残存状況 法量(cm・g)	①胎土②焼成 ③色調④材質	成 形 の 特 徴	備 考	挿図No 写真No
143	土師器 壺	3区Nc-5 グリッド	残 口縁部 1/3、頸 ~胴部中 位2/3 口 (14.9)	①1mm前後の 砂粒・鋳物粒 をやや多く含 む。②酸化・ 硬質③にぶ い橙、黒褐	外面は口縁部が横ナデ、刷毛目。胴部は二 方向に磨き。内面は胴部上位にヘラ削り。 以下はヘラナデ。	古墳時代前 期。	第117図 P L 40
144	土師器 甕	3区Qe-1 グリッド	残 口縁~胴 部破片 口 (16.2)	①粗砂・細砂 ②酸化③にぶ い褐	器肉は比較的薄い。口縁部横ナデ。胴部外 面は数回に分けて斜縦方向の刷毛目。内面 は上位が横方向の刷毛目。中位~下位が横 方向のナデ。一部に指頭圧痕。	古墳時代前 期。	第117図 P L 40
145	土師器 壺	3区Nb-5 グリッド	残 胴~底部 底 4.6	①1mm以下の 砂粒・鋳物粒 を多く含む。 ②酸化・硬質 ③(外)にぶ い黄橙、(内)黒 褐	外面は上半が刷毛目後磨き。下半はヘラ削 り。内面の大半はていねいなナデ。	古墳時代前 期。Nc-5 グリッドと 接合。	第117図 P L 40
146	土師器 壺	3区表採	残 口縁部 1/2弱 口 (17.6)	①精選、白色 鋳物粒②酸化 ③にぶい橙	内外面ともやや粗雑であるが磨きを充填す る。	古墳時代前 期。内面に 線刻が施さ れている。	第118図 P L 40
147	土師器 壺	3区表採	残 口縁部破 片 口 (19.0)	①粗砂少量② 酸化③にぶ い橙	内外面とも棒状工具による磨きを多用して いる。	古墳時代前 期。	第118図 期。
148	土師器 高 杯	3区西北端	残 1/3 口 (10.8) 底 (8.6) 高 7.4	①粗砂・黒色 鋳物粒②酸化 ③にぶい橙	外面、杯部・脚部とも縦方向の磨き。杯部 内面は磨き。脚部内面はナデ、横ナデ。	古墳時代前 期。器面は 剝離、磨滅 が著しい。	第118図 P L 40
149	土師器 杯	3区8溝	残 破片 口 (12.4) 高 <5.4>	①粗砂少量② 酸化③(外) 黒、(内)黄褐	口縁部、横ナデ。底部外面は下半にヘラ削 り。	古墳時代後 期。	第118図 期。
150	土師器 杯	3区グリッド	残 破片	①粗砂・細砂 ②酸化③明赤 褐	口縁部、横ナデ。底部外面はヘラ削り。	古墳時代後 期。器面の 剝離著し い。	第118図 P L 40
151	土師器 杯	3区石碑下	残 口縁部破 片 口 (20.0)	①精選②酸化 ③にぶい橙	口縁部、横ナデ。外面に線刻2条。	古墳時代後 期。	第118図 P L 40
152	土師器 高 杯	5区Rg-18 グリッド	残 杯部破片 口 (24.0)	①細砂②酸化 ③にぶい黄橙	器面の磨耗が著しく観察困難。	古墳時代前 期?	第118図 P L 40
153	土師器 不 明	3区8溝	残 胴部破片	①粗砂②酸化 ③明赤褐	外面、縦方向にライン状の黒色彩色部分あ り。墨によるか。	外面文様。	第118図 P L 40
154	土師器 不 明	3区3墳周堀	残 破片	①粗砂・白色 鋳物粒②酸化 ③にぶい黄橙	外面に黒色の彩色部分あり。墨によるか。		第118図 P L 40
155	須恵器 甕	2区表採	残 胴~底部 破片 底 (7.0)	①粗砂多数② 還元・軟質③ 褐	胴部下半は平底の底部に向かって徐々に径 を狭める。外面、ナデ。下半は横方向にヘ ラ削り。	古代? 2区 204土坑-2 と同一か。	第118図 期。
156	青 磁 皿	3区Pg-14 グリッド	残 破片 口 (13.0)	①精緻②還元 ③淡青緑	内面、蛇ノ目軸ハギ。	肥前磁器。 17~18C 前。	第118図 巻頭口絵
157	陶 器 椀	3区Qe-1 グリッド	残 高台部 1/2 底 (3.6)	①夾雑物ほと んどなし②還 元③地は黄灰	内面に鉄釉が施されている。	肥前。江戸。	第118図 巻頭口絵
158	陶 器 椀	3区表採	残 胴下半~ 高台部 底 (5.0)	①夾雑物ほと んどなし②還 元③淡黄	呉器手椀。ロクロ成形。高台内面を含む内 外面に釉。細かい貫入が入る。	肥前陶器。 17C末~18 C前半。	第118図 巻頭口絵
159	陶 器 高台付椀	3区36住 埋没土	残 底部破片 底 (2.8)	①白色鋳物粒 微量②還元③ 灰	鉄釉・灰釉をかけ分けている。	瀬戸。美濃 陶器。18~ 19C。	第118図 期。

## 遺構外出土の遺物

No.	種類 器種	出土状態	残存状況 法量(cm・g)	①胎土②焼成 ③色調④材質	成・整形の特徴	備考	挿図No 写真No
160	青磁 高台付椀	2区表採	残 底部のみ ほぼ完存 底 5.2	①細砂微量② 還元③青緑	高台内面、ヘラ削り。釉は全体に厚い。内 底に文様。	龍泉窯。 13~14C。	第118図 巻頭口絵
161	陶器 椀	3区石碑下	残 高台部 底 5.6	①白色鉾物粒 微量②還元③ 灰白	角高台。鉄釉を施す。	瀬戸。美濃 陶器。江戸。	第118図 巻頭口絵
162	陶器 香炉	3区40住 埋没土	残 口縁部破 片	①夾雑物ほと んどなし②還 元③淡黄	口縁部先端の外側、細かな破損。外面と口 縁部先端に鉄釉。	瀬戸。美濃 陶器。18C 中葉。	第118図 巻頭口絵
163	陶器 甕	3区4住 埋没土	残 胴部破片	①粗砂大量② 還元・焼締め ③黄灰	内外面ともナデ。	常滑。中世。	第118図
164	陶器 鉢か	3区4住 埋没土	残 底部破片	①夾雑物ほと んどなし②還 元③灰白	内外面とも施釉。内面に文様あり。	瀬戸。美濃 陶器。17C。	第118図 巻頭口絵
165	陶器 德利	4区表採	残 底部破片 底 (13.6)	①白色鉾物粒 微量②還元③ 地色はにぶい 黄橙	釉は鉄釉か。	瀬戸。美濃 陶器。江戸。	第118図 巻頭口絵
166	陶器 播鉢	3区14住	残 口縁部破 片 口 (33.2)	①粗砂多量② 還元③にぶい 橙	内面に刷毛目。外面の先端と内面に施釉。	丹波。18C。	第118図 巻頭口絵
167	土師質土 器 皿	3区表採	残 破片 口 (8.2) 底 (6.8) 高 1.4	①細砂②酸化 ③灰白	右回転ロクロ成形。	灯明皿。口 縁部の先端 に煤附着。	第118図
168	土師質土 器 皿	1区Kj-14 ・15グリッド	残 口縁部破 片 口 (11.0)	①細砂②酸化 ③にぶい黄橙	底径は大きくなる可能性あり。左回転ロク ロ成形。	外面に炭素 吸着。	第118図
169	金属器 釘	3区40住フク 土、最上層	残 一部欠損 長 6.5 幅 0.5 厚さ 0.4		頭部の一部を欠損する他はほぼ完存する。 断面形は四角形。先端は尖る。		第118図 P L 43
170	古銭	1区ピット内			洪武通寶。		第118図 P L 43
171	陶器 皿	6区浅間B軽 石下水田	残 口縁部破 片 口 (11.2)	①黒色鉾物粒 微量②還元③ 茶ねず	右回転ロクロ成形。削り出し高台。内外面 とも施釉。	瀬戸。美濃 陶器。17C。	第118図 巻頭口絵
172	須恵器 大甕	3区表採	残 口縁部破 片	①白色鉾物粒 多く含む。② 還元③灰	外面、縦方向に板目状のナデ調整後、2本 1単位の弱い沈線を3段配す。	172~189は 古墳時代後 期。	第119図 P L 40
173	須恵器 大甕	3区表採	残 胴部破片	①粗砂大の鉾 物粒少量②還 元③灰	外面、叩き目。内面、同心円文状の当て目。		第119図 P L 40
174	須恵器 大甕	3区表採	残 胴部破片	①粗砂大の鉾 物粒多量②還 元③灰	外面、叩き目が弱く残る。内面、同心円文 状の当て目。	天地不明。	第119図
175	須恵器 大甕	3区石碑下	残 胴部破片	①粗砂大の鉾 物粒少量②還 元③灰	外面、叩き目。内面、同心円文状の当て目。		第119図
176	須恵器 大甕	3区石碑下	残 胴部破片	①白色鉾物粒 少量②還元③ 灰	外面、叩き目の上にナデ。内面、当て目。		第119図
177	須恵器 大甕	3区石碑下	残 胴部破片	①粗砂大の鉾 物粒少量②還 元③灰	外面、ナデ。内面、同心円文状の叩き目。		第119図
178	須恵器 大甕	2区大溝	残 胴部破片	①白色鉾物粒 を少量含む。 ②還元③灰	外面、叩き目。内面、同心円文状の当て目 にナデを重ねる。		第119図

遺構外出土の遺物

No	種類	出土状態	残存状況 法量(cm・g)	①胎土②焼成 ③色調④材質	成・整形の特徴	備考	挿図No 写真No
179	須恵器 甕	1区Kj-6 グリッド	残 胴部破片	①白色鉍物粒 を少量②還元 ③青灰	内面、当て目の上にナデを重ねる。	外面に自然 釉付着。	第119図
180	須恵器 甕	2区表採	残 胴部破片	①白色鉍物粒 微量に混入。 ②還元③灰	内面、青海波状の当て目。	外面、自然 釉付着。	第119図
181	須恵器 甕	2区大溝	残 胴部破片	①白色鉍物粒 を微量混入。 ②還元③灰	外面、叩き目。内面、当て目。		第119図
182	須恵器 甕	3区Qd-5 グリッド	残 胴部破片	①白色鉍物粒 微量②還元③ 灰白	内外面ともナデ調整。		第119図
183	須恵器 甕	3区48土坑	残 胴部破片	①白色鉍物粒 を微量に含 む。②還元③ 灰	外面、叩き目の上に5条1単位のカキ目を 2段めぐらす。内面には当て目が残る。		第119図 P L 40
184	須恵器 瓶	2区大溝	残 胴部破片	①白色鉍物粒 微量混入。② 還元③灰	外面、カキ目。内面、当て目。		第119図
185	須恵器 甕?	3区119坑	残 胴部破片	①白色鉍物粒 微量。②還元 ③灰	外面、ナデ調整。内面、当て目。		第119図
186	須恵器 甕	3区167坑	残 胴部破片	①白色鉍物粒 微量②還元③ 灰	外面、当て目の上にカキ目をめぐらす。内 面、当て目。		第119図 P L 40
187	須恵器 不明	2区8住	残 胴部破片	①白色鉍物粒 を微量混入。 ②還元③灰	外面、ナデ調整。内面、上半、ロクロによ るナデ調整。		第119図
188	須恵器 瓶?	1区1溝	残 胴部破片	①白色鉍物粒 を少量含む。 ②還元③灰	内外面とも右回転ロクロ調整。		第119図 P L 40
189	須恵器 甕	3区表採	残 口縁部破 片	①緑青色の鉍 物粒微量②還 元③灰赤	2条の疑似突帯の上下に8本1単位の櫛状 工具による波状文を配す。	内外面とも 自然釉付着。	第119図 P L 40
190	須恵器 無蓋高杯	3区43住	残 杯部破片	①細砂少量② 還元③灰	外面中位に稜を成し、その下段に波状文1 段を配する。波状文の下位はヘラ削り。		第119図 P L 40
191	須恵器 不明	3区158坑	残 胴部破片	①細砂大の鉍 物粒②還元③ 青灰	内外面ともロクロによるナデ調整。		第119図 P L 40
192	軟質陶器 内耳鍋	1区Kj-14・ 15グリッド	残 口縁部破 片	①黒色粘土粒 ②還元・軟質 ③灰	内外面、横ナデ。	在地系。中 世。	第120図 P L 41
193	軟質陶器 内耳鍋	1区Kj-14・ 15グリッド	残 口縁部破 片	①粗砂・白色 鉍物粒②還 元・軟質③灰	内外面、横ナデ。	在地系。中 世。	第120図 P L 41
194	軟質陶器 内耳鉢	1区1住	残 胴部破片	①細砂多数② 還元・軟質③ にぶい橙	外面、ナデ、ヘラ削り。内面、横ナデ。	在地系。中 世。外面、 炭素吸着。	第120図
195	軟質陶器 内耳鉢	1区Kj-14・ 15グリッド	残 胴部破片	①粗砂・黒色 鉍物粒②還 元・軟質③灰	内外面ともナデ。	在地系。中 世。	第120図
196	軟質陶器 内耳鍋	1区Kj-14・ 15グリッド	残 口縁部破 片	①細砂・白色 鉍物粒②酸 化・軟質③灰	口縁部は内側に弱い稜をなし内彎ぎみに立 ち上がる。内外面ともナデ、横ナデ。	在地系。15 C。外面、 炭素吸着。	第120図 P L 41
197	軟質陶器 内耳鉢	1区Kj-4・ 5グリッド	残 胴部破片 底 (19.0)	①粗砂・黒色 鉍物粒②酸 化・軟質③灰	胴部外面ヘラ削り。内面、ナデ。底部外面 もナデ。	在地系。中 世。	第120図
198	軟質陶器 内耳鍋	2区表採	残 口縁部破 片	①細砂・雲母 ②還元・軟質 ③にぶい黄橙	内外面とも横ナデ。	在地系。15 C。	第120図 P L 41

## 遺構外出土の遺物

No.	種類	出土状態	残存状況 法量(cm・g)	①胎土②焼成 ③色調④材質	成・整形の特徴	備考	挿図No 写真No
199	陶器 片口鉢	3区グリッド	残 口縁部破片	①粗砂多量②還元③灰黄	先端は丸みをおびる。内外面とも横ナデ。	常滑。13C。	第120図 P L 41
200	軟質陶器 内耳鍋	3区表採	残 口縁部破片	①細砂少量②還元・軟質③にぶい黄褐	口縁部は内彎ぎみに立ち上がる。先端はやや丸みを有する。内外面とも横ナデ。	在地系。中世。外面、炭素吸着。時期不明。	第120図
201	軟質陶器 焙烙か	3区16住	残 口縁～底部破片	①細砂②還元・軟質③灰	内外面とも横ナデ。		第120図
202	軟質陶器 焙烙	6区浅間B軽石下水田	残 口縁部破片	①細砂・黒色鉱物粒②還元・軟質③灰白	内外面とも横ナデ。外面に粘土紐の接合痕みられる。	在地系。江戸。	第120図
203	軟質陶器 内耳鍋	2区表採	残 胴部破片	①粗砂・細砂多数。白色鉱物粒②還元・軟質③灰	外面、ナデ、横ナデ。内面、横ナデ。	在地系。中世。	第120図
204	軟質陶器 片口鉢	3区Qq-4 グリッド	残 口縁部破片 口 (30.7)	①粗砂少量②還元・軟質③にぶい橙	外面は口縁部と胴部下位に横ナデ。胴部中にナデ、内面には若干の使用痕がみられる。	14C後半。色調は酸化状態を呈する。	第120図 P L 41
205	軟質陶器 火鉢か	3区表採	残 口縁部破片 口 (38.2)	①内面に印花文あり。②還元・軟質③赤褐	内外面ともナデ。	在地系。中世。	第120図 P L 41
206	軟質陶器 壺	3区石碑下	残 口縁部破片 口 (21.6)	①粗砂多数②酸化③にぶい褐	外面は剥離、磨滅している。	在地系。江戸～近代。	第120図
207	瓦	3区グリッド	残 破片 全長 < 4.5> 幅 < 6.6> 厚さ 1.8	①細砂②還元・軟質③灰	熨斗瓦あるいは平瓦の一部か。	時期不詳。	第120図
208	瓦	3区26住	残 破片 全長 < 10.4> 幅 < 7.5> 厚さ 2.0	①黒色粘土粒②還元・軟質③灰	各面ともヘラ調整。	時期不明。	第120図
209	軟質陶器 焜 炉	3区26住	残 口縁部破片	①粗砂・細砂②還元・軟質③にぶい橙	器形は外側に向かって楔状に膨れる。	近・現代。	第120図
210	石製品 砥石	3区表採	残 一部欠損 全長 < 12.5> 幅 4.0 厚さ 1.8 重量 112	④砥沢石	長軸方向の断面形は山形を呈する。使用面は4面。いずれも平滑である。		第121図 P L 41
211	石製品 砥石	3区表採	残 一部残存 全長 (4.6) 幅 3.8 厚さ 2.3 重量 64	④砥沢石	糸巻状を呈していたと考えられる。使用面は4面。いずれも平滑な面をなす。		第121図 P L 41
212	石製品 砥石	3区Qh-1 グリッド	残 一部残存 全長 < 3.4> 幅 2.7 厚さ 2.1 重量 23	④砥沢石	糸巻状を呈していたか。使用面は4面。		第121図 P L 41
213	石製品 砥石	3区表採	残 一部残存 全長 < 5.8> 幅 2.4 厚さ 1.1 重量 24	④砥沢石	使用面は2面。一面は凸面状、もう一面は凹面状を呈する。		第121図 P L 41

遺構外出土の遺物

No	種類	出土状態	残存状況 法量(cm・g)	①胎土②焼成 ③色調④材質	成・整形の特徴	備考	挿図No 写真No
214	石製品 砥石	3区グリッド	残 一部残存 全長 < 5.4 幅 < 2.0 厚さ 1.8 重量 31	④砥沢石	使用面は3面。各面とも平滑。残る1面は旧事の欠損か。弱い擦痕を残す。		第121図 P L 41
215	石製品 砥石	3区表採	残 一部残存 全長 < 3.4 幅 2.4 厚さ 1.5 重量 19	④砥沢石	使用面は1面。残りの側面3面と小口面には原形面の工具痕を残す。		第121図 P L 41
216	石製品 勾玉	3区Qk-5	残 完形 全長 1.7 幅 1.1 厚さ 0.4 重量 1	④葉ろう石	粗い面取りの後、各面ともていねいな調整が施されている。穿孔は直径1.5mmを測る。	古墳時代。	第121図 P L 41
217	石製品 砥石	2区表採	残 一部欠損 全長 < 10.4 幅 8.1 厚さ 2.6 重量 198	④粗粒輝石安山岩	木の葉状の平面形状を呈する。表・裏両面は使用により凸面状を呈する。各側面にも幅の狭い平坦面が形成されている。		第121図 P L 41
218	石製品 磨石	3区表採	残 完形 全長 9.8 幅 7.1 厚さ 2.8 重量 296	④粗粒輝石安山岩	表・裏両面及び側面の全てを使用面としている。表・裏両面の中央には長軸からやや斜方向に粗い削痕が多数みられる。		第121図 P L 41
219	石製品 砥石	2区表採	残 完形 全長 10.8 幅 7.4 厚さ 2.2 重量 182	④粗粒輝石安山岩	表・裏両面及び各側面とも使用面を形成する。		第121図 P L 41
220	石製品 砥石	2区表採	残 完形 全長 10.9 幅 11.2 厚さ 4.5 重量 327	④軽石	偏平な形状を呈する。表・裏両面を広範囲にわたり磨面としている。小口の割れ口にも成形を施しているか。		第121図 P L 42
221	石製品 磨石	3区グリッド	残 完形 全長 7.4 幅 7.1 厚さ 3.2 重量 219	④粗粒輝石安山岩	片面は使用により平滑な面が形成されている。		第121図 P L 41
222	石製品 鉢?	1区Kk-7 グリッド	残 完形 全長 19.4 幅 20.7 厚さ 10.7 重量 4,429	④粗粒輝石安山岩	平面、円形の礫。表面の中央は径11cm、深さ4.5cmの円錐状にくぼむ。裏面も中央が狭く剥離する。		第122図 P L 42
223	石製品 砥石	3区3墳	残 完形 全長 17.2 幅 10.1 厚さ 7.7 重量 813	④軽石	両側面を中心に4面に使用面を有する。図裏面、下位に深い刃傷が2本ある。左側面には径1.4cm、深さ1.4cmの小穴あり。軽石製品。		第122図 P L 41
224	石製品 不明	3区Qi-1 グリッド	残 一部欠損 全長 11.1 幅 10.3 重量 360	④軽石	長円形の軽石製品。表・裏両面とも擂鉢状のくぼみを有する。側面の欠損は旧事か。		第122図
225	石製品 石鉢	2区表採	残 破片 高 11.9 重量 3,765	④粗粒輝石安山岩	石鉢の未製品と考えられる。内面は敲打により面の仕上げが進んでいるが、上端、外面には粗い剥離面を残す。底部は薄く、これが原因で製作を中止した可能性も考えられる。		第123図 P L 42

No.	種類 器種	出土状態	残存状況 法量(cm・g)	①胎土②焼成 ③色調④材質	成・整形の特徴	備考	挿図No 写真No
226	石製品 石鉢	2区2住	残 破片 口 (36.3) 高 <13.4> 重量 1,643	④粗粒輝石安 山岩	未製品か。上縁、外面とも大きな剝離面を 残す。内面には幅1.5cmほどの工具によるハ ツリ痕が縞状に残っており、使用による摩 擦痕は全くない。		第123図 P L 42
227	石製品 石鉢	2区表採	残 破片 口 (39.0) 高 <7.7> 重量 739	④粗粒輝石安 山岩	石鉢の未製品か。上端に幅7cmの平坦面が つくり出されている。他は内外面とも敲打 によると思われる工具痕が認められる。		第123図
228	石製品 石臼	1区表採	残 破片 直径 (26.4) 高 10.4 重量 2,132	④粗粒輝石安 山岩	上臼。上縁部は、幅2.7cm、高さ1.8cmを測 る。供給口の一部が残存する。	加熱のため か炭素吸着。	第123図 P L 42
229	石製品 不明	2区表採	残 2/3 全長 22.4 幅 30.3 厚さ 15.1 重量 13,300	④粗粒輝石安 山岩	円板状を呈していたか。上面はやや凸状を 呈する。用途不明。石臼の未製品か。		第123図 P L 42
230	石製品 五輪塔	2区	残 一部欠損 全長 <34.7> 幅 21.7 厚さ 20.4 重さ 12,690	④粗粒輝石安 山岩	空風輪。器高を有する。柄は径7.5cm、長さ 5.8cmを測る。遺構外—244と同質の石材で ある。		第124図 P L 42
231	石製品 五輪塔	3区	残 完形 全長 31.6 幅 18.3 厚さ 18.0 重量 8,940	④粗粒輝石安 山岩	空風輪。全体に横断面の丸味が不整形で、 特に空輪の横断面は多面形を呈する。空輪 は高さが無くやや扁平さみ。器面の仕上げ は敲打により比較的ていねいである。柄は 径7.0cm、長さ6.2cmを測る。		第124図 P L 42
232	石製品 五輪塔	2区表土中	残 一部欠損 全長 <29.4> 幅 20.5 厚さ 21.3 重量 10,870	④粗粒輝石安 山岩	最大径に比して器高が低い。特に風輪は偏 平である。柄は一部欠損。径は6.3cmを測る。		第124図 P L 43
233	石製品 五輪塔	2区表土中	残 一部欠損 全長 <27.6> 幅 19.5 厚さ 14.8 重量 9,740	④粗粒輝石安 山岩	空風輪の境の割りこみは成形が粗雑であ る。空輪は丸みを有する。柄は欠損する。 石材は粒子が粗く粗雑である。		第124図 P L 42
234	石製品 五輪塔	2区表採	残 一部欠損 全長 <21.2> 幅 16.0 厚さ 14.8 重量 4,447	④粗粒輝石安 山岩	空風輪。ともに横断面は長円形を呈する。 柄を欠損する。器面は敲打によりていねい に仕上げられている。		第124図 P L 42
235	石製品 五輪塔	2区表採	残 破片 全長 <17.3> 幅 <17.8> 厚さ <9.1> 重量 2,202	④馬見岡凝灰 岩	空風輪の一部と考えられる。空輪は高さが なく扁平な形状であったと思われる。		第124図
236	石製品 五輪塔	2区表採	残 一部欠損 全長 31.6 幅 34.0 厚さ 17.2 重量 19,180	④粗粒輝石安 山岩	火輪。形状が不整形であり、器面も粗仕上 げの状態である。上面に柄孔が設けられて いない。	未製品か。	第124図 P L 42
237	石製品 五輪塔	2区表採	残 一部欠損 全長 26.9 幅 32.5 厚さ 17.3 重量 14,380	④馬見岡凝灰 岩	火輪。横幅に比して高さを有する。屋根反 り、軒反りともに直線的で反りはほとんど ない。軒の高さも低い。柄孔は径6.5cm、深 さ1.9cm。下面は中央部が浅くえぐれてい る。		第124図 P L 42



遺構外出土の遺物

No.	種類	出土状態	残存状況 法量(cm・g)	①胎土②焼成 ③色調④材質	成・整形の特徴	備考	挿図No 写真No
238	石製品 五輪塔	2区表採	残 一部欠損 全長 27.3 幅 26.7 厚さ 16.6 重量 12,150	④粗粒輝石安 山岩	火輪。厚みを有する。屋根の反り、軒の反りとも強くない。風輪を受ける柄孔の径は7.5cm、深さは5.5cm。器面はていねいに仕上げられている。		第124図 P L 42
239	石製品 五輪塔	2区表採	残 完形 全長 26.4 幅 28.0 厚さ 16.0 重量 11,850	④粗粒輝石安 山岩	水輪。横断面はやや長円形を呈する。上下両面とも凹面状を呈する。下位の一部は欠損する。		第124図 P L 43
240	石製品 五輪塔	2区表採	残 一部欠損 全長 31.1 幅 35.2 厚さ <20.0> 重量 31,100	④馬見岡凝灰 岩	地輪。欠損著しく、下面の残存はごく一部に限られた。平面形に比して器高が低い。		第124図 P L 43
241	石製品 五輪塔	2区表採	残 完形 全長 30.1 幅 31.0 厚さ 22.2 重量 37,400	④粗粒輝石安 山岩	地輪。側面の成・整形はやや粗雑である。		第124図 P L 43
242	石製品 五輪塔	2区表採	残 完形 全長 31.3 幅 31.0 厚さ 29.9 重量 48,600	④粗粒輝石安 山岩	地輪。各辺がほぼ同数値の立方体を呈する。底面はやや凸面状にえぐれているが他の各面はいずれもていねいな平坦面が成形されている。		第124図 P L 43
243	石製品 五輪塔	2区表採	残 一部欠損 全長 <23.5> 幅 31.1 厚さ 19.4 重量 17,800	④馬見岡凝灰 岩	地輪。全体の3分の2ほどの残存か。下面の欠損が著しく器高を確認できない。各面の成・整形は比較的ていねいである。下面に直径5cmほどの小穴がみられるが成形時のものか否か不明。		第124図 P L 43
244	石製品 宝 塔	3区表採	残 一部欠損 全長 32.1 幅 30.7 厚さ <18.2> 重量 21,800	④粗粒輝石安 山岩	上面は欠損著しいが段をなす。横幅に比して器高を有す。特に屋根部分が厚い。屋根、軒とも弱く反る。		第125図 P L 43
245	石製品 不 明	2区表採	残 破片 全長 20.2 幅 18.5 厚さ 13.2 重量 2,628	④馬見岡凝灰 岩	加工石材である。遺構外-235と同様の材質であることから五輪塔の火輪とも考えたいが、2辺がつくり出す隅部が鈍角をなすことから器種不明。		第125図
246	石製品 宝 塔	2区表土中	残 下半部 全長 <23.2> 幅 12.8 厚さ 10.5 重量 3,609	④粗粒輝石安 山岩	相輪部下半である。中位には刻みは無い。上面は欠損著しいが段をなす。横幅に比して器高を有す。特に屋根部分が厚い。屋根、軒とも弱く反る。		第125図 P L 43
247	石製品 礎 石	1区Kk-7 グリッド	残 一部欠損 か 全長 24.7 幅 32.4 厚さ 18.5 重量 14,430	④粗粒輝石安 山岩	逆角錐状を呈する。上面は平坦に仕上げ、中央に径6.0cm、深さ4.5cmの小孔を穿っている。側面の仕上げは粗割りに近いため、側面は目にふれられない状態で使用されていたと考えられる。		第125図 P L 43
248	青 磁 椀	6区浅間B軽 石下水田	残 破片	①堅緻②還元 ③青緑	外面に陰花文。釉には細い貫入が入る。	龍泉窯系。 13C 中葉～ 後半。	巻頭口絵

古墳時代竪穴住居出土の遺物 (補遺)

No	種類	出土状態	残存状況 法量(cm・g)	①胎土②焼成 ③色調④材質	成・整形の特徴	備考	挿図No 写真No
2区1住居 -3	石製品 砥石	貯蔵穴西側南 壁際 +5	残欠損品 全長<9.4> 幅 8.5 厚さ 5.1 重量 672	④流紋岩	図示した表面には幅広い平滑な使用面が残る。右側面は使用面がやや凸面状を呈している。		第126図 P L 43
3区29住居 -73	土師器 台付甕	北東 +20	残 台部欠損 口 8.4	①粗砂少量・ 白色鈹物粒② 酸化③にぶい 橙	口縁部横ナデ。胴部外面は5・6回に分けて2種類の工具により刷毛目を施す。一部に磨き状のナデ。内面、上位に刷毛目、中位ヘラナデ主体。		第126図 P L 43
3区33住居 -43	土製品 羽口	中央 +8	残 破片 長 <5.0> 外径 5.7 内径 1.9	①白色鈹物粒 ②酸化③灰白	先端部分の約3分の2が残存していた。先端は著しく溶融し、ガラス質が発砲している。また、先端から1~1.5cmの幅で器面が灰褐色を呈する部分がある。		第126図 P L 43

荒砥諏訪遺跡

方形周溝墓出土の遺物

No	種類	出土状態	残存状況 法量(cm・g)	①胎土②焼成 ③色調④材質	成・整形の特徴	備考	挿図No 写真No
2 方形周溝 墓-1	土師器 壺?	周溝内	残 口縁~頸 部破片	①粗砂少量② 酸化③浅黄橙	口縁部外面には細い沈線が縦方向に間隔をおいて配される。胴部外面には刷毛目を消して磨きが施される。		第133図
2 方形周溝 墓-2	土師器 壺	周溝内	残 破片 底 (10.0)	①粗砂・黒色 鈹物粒②酸化 ③にぶい黄橙	胴部は球状を呈すると考えられる。胴部外面は棒状工具による磨き、ナデ。平底。	器面の磨耗、 剝離著しい。	第133図
4 方形周溝 墓-1	土師器 埴	周溝内 南辺+6	残 口縁部 1/2、以下 完存 口 11.3 底 3.6 高 7.4	①粗砂・白色 鈹物粒②酸化 ③にぶい橙	器形は全体が歪んでいる。口縁部は刷毛目の上に斜縦方向の磨き。胴部外面はていねいなナデ。内面はナデ。	火熱を受け ている。	第136図 P L 48
4 方形周溝 墓-2	土師器 埴	周溝内 北辺+10	残 口縁部欠 損 底 4.3	①細砂・白色 鈹物粒②酸化 ③赤褐	口縁部は内外面とも刷毛目。一部ナデ。胴部外面は上位に刷毛目、中位にナデ、下位にヘラナデ。		第136図 P L 48

遺構外出土の遺物

No	種類	出土状態	残存状況 法量(cm・g)	①胎土②焼成 ③色調④材質	成・整形の特徴	備考	挿図No 写真No
20	石製品 砥石	4 方形周溝墓	残 破片 全長<3.8> 幅 2.5 厚さ 2.3 重量 30	④砥沢石	使用面は4面。横断面は台形状を呈する。		第143図 P L 48
21	土師器 埴	表採	残 口縁部一 部残存、 以下完存 口 (6.2) 高 7.0	①細砂②酸化 ③にぶい黄橙	口縁部横ナデ。胴部外面ナデ。内面ナデ。	荒砥4工区 E工事。	第143図 P L 48
22	土師器 土製品	表採	残 完形 縦 4.5 横 4.3 厚さ 0.9	①黒色鈹物粒 少量②還元③ 灰黄	軟質陶器の破片を円板状に再加工している。片面の中央に直径0.7cmのくぼみをもっている。		第143図 P L 48



# 写 真 图 版





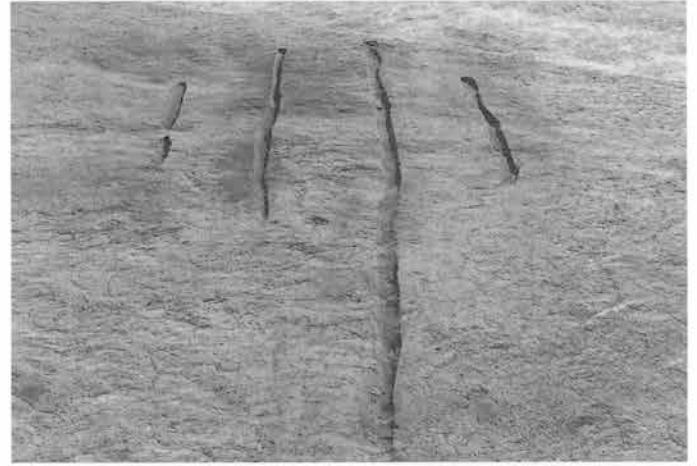
1 2区1~4号畠 (北から)



2 2区5号畠 (北東から)



3 2区6号畠 (北から)



4 2区6号畠 (北から)



5 2区7号畠 (北から)



6 2区6号畠土層断面 (南西から)



7 2区6号畠土層断面 (南から)

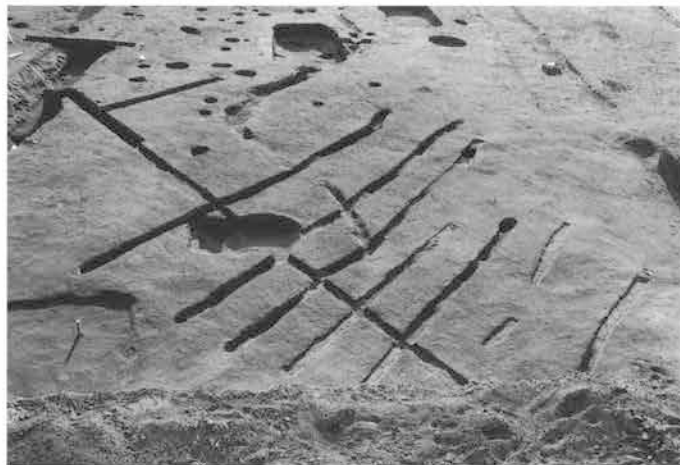


8 2区5号畠土層断面 (北西から)

PL2 荒砥諏訪西遺跡



1 3区1号畠 (東から)



2 3区3号畠 (北から)



3 3区4号畠 (南西から)



4 3区4号畠サク状溝土層断面 (東から)



5 3区浅間C軽石下凹凸面 (北から)



6 3区浅間C軽石下凹凸面 (北から)



7 3区浅間C軽石下凹凸面 (北から)



8 3区浅間C軽石下凹凸面 (北から)





1 3区1号墳遺物出土状況(南から)



2 3区1号墳遺物出土状況(西から)



3 3区1号墳遺物出土状況(南から)



4 3区1号墳掘り方(南から)



5 3区2号墳(南から)



6 3区2号墳(南から)



7 3区2号墳(南東から)



8 3区3号墳(北から)



PL4 荒砥諏訪西遺跡



1 4区全景（東から）



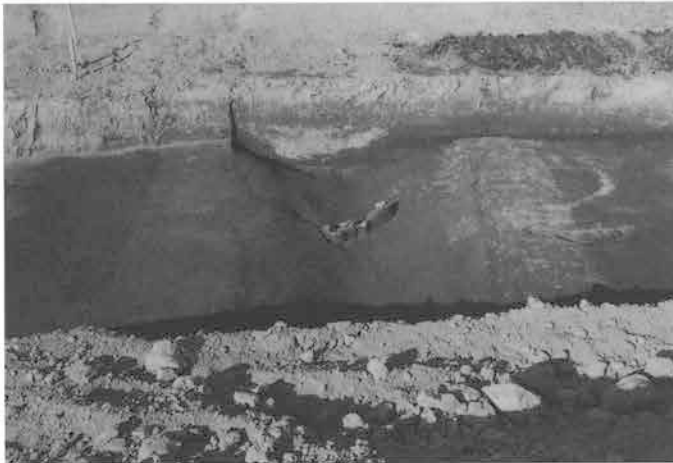
2 5区西側部分（北西から）



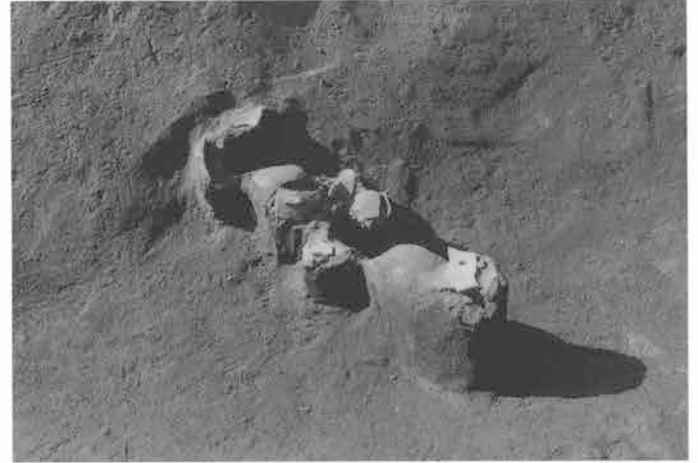
1 4区1号溝 (南から)



2 4区2号溝 (南から)



3 4区3号溝 (南東から)



4 4区3号溝遺物出土状況 (北東から)



5 4区1・2号土坑 (北西から)



6 5区西側部分 (西から)



7 5区中央部分 (南西から)



8 5区東側部分 (北から)



1 6区浅間B軽石下水田（南から）



2 6区浅間B軽石下水田（北東から）



3 6区浅間B軽石下水田（南東から）





1 6区浅間B軽石下水田No44 (南から)



2 6区浅間B軽石下水田No26 (南西から)



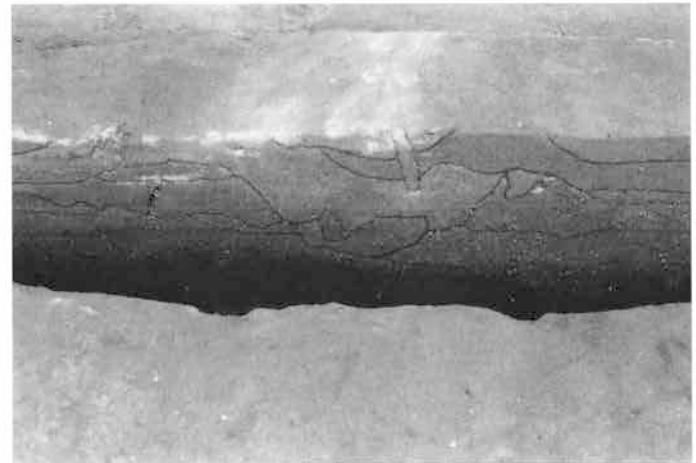
3 6区浅間B軽石下水田No35 (南西から)



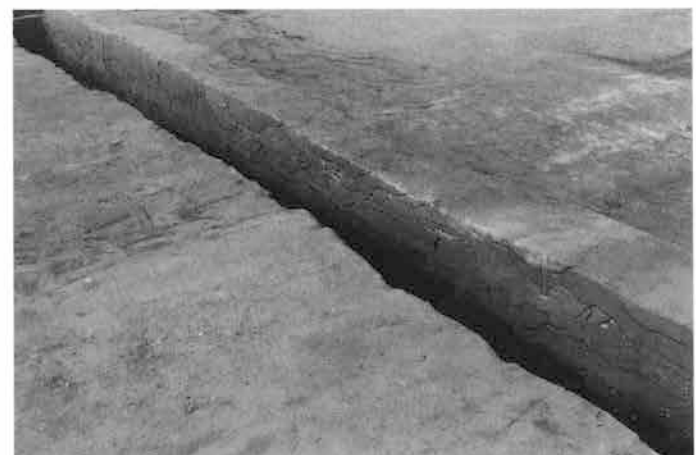
4 6区浅間B軽石下水田No6 (北西から)



5 6区1・2号溝 (北東から)



6 6区5号溝土層断面 (南西から)



7 6区東西トレンチ土層断面 (南から)



1 1区2・3号土坑（北東から）



2 1区1号土坑土層断面（北東から）



3 1区4号土坑（東から）



4 1区9号土坑礫出土状況（北東から）



5 1区5・6号土坑（北から）



6 1区10号土坑礫出土状況（南東から）



1 1区13号土坑遺物出土状況（北から）



2 1区16~19号土坑（南から）



3 1区23・26号土坑（南から）



4 1区24号土坑（東から）



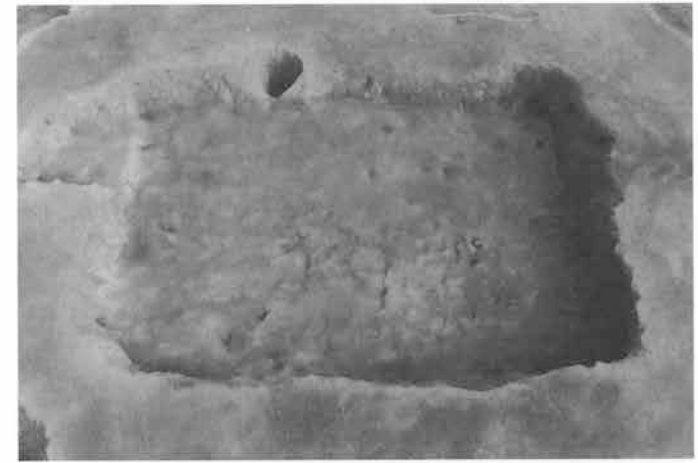
5 1区28~32号土坑（南東から）



6 1区29~32号土坑（北西から）



7 1区28~32号土坑（北東から）



8 1区33号土坑（西から）



PL10 荒砥諏訪西遺跡



1 1区全景 (南東から)



2 1区5号溝 (南東から)



3 1区1号溝 (北から)



4 1区3号溝 (東から)



5 1区1・2号溝土層断面 (南東から)



6 1区3号溝土層断面 (東から)



1 2区全景（北から）



2 2区3号溝南側部分（北から）



3 2区3号溝東側部分（北から）



4 2区南側部分（西から）



5 2区東側部分（北西から）





1 2区185号土坑埋設土器 (南から)



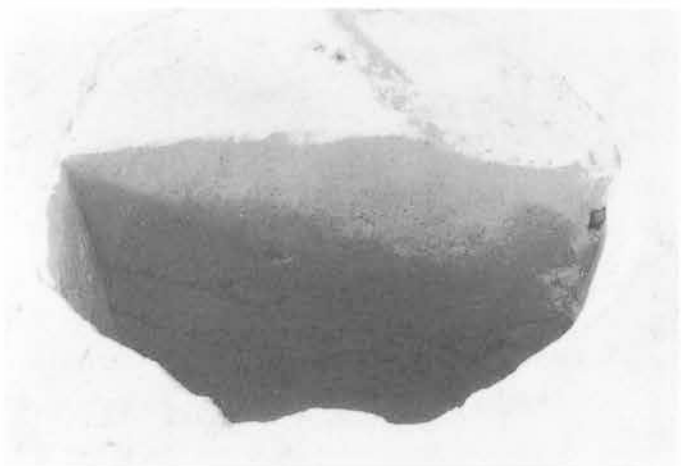
2 2区185号土坑埋設土器 (南から)



3 2区1号井戸 (西から)



4 2区6号井戸 (北から)



5 2区2号井戸土層断面 (東から)



6 2区4号井戸土層断面 (南から)



7 2区7号井戸土層断面 (南西から)



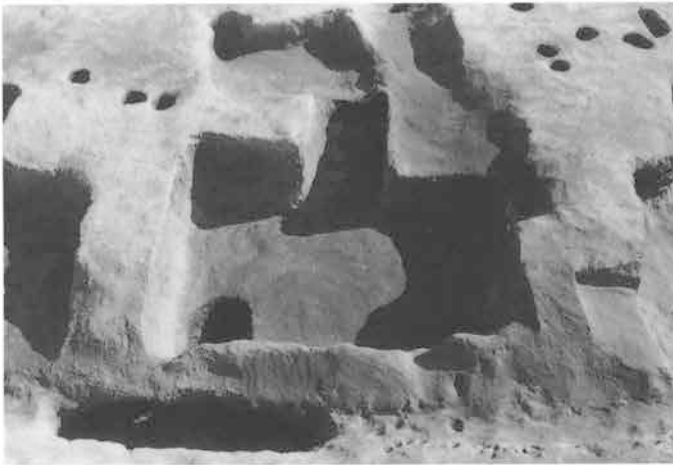
8 2区10号井戸土層断面 (西から)



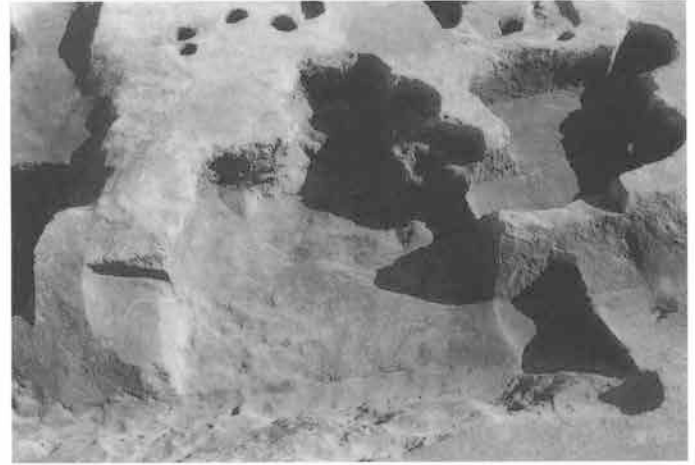
1 2区1号土坑 (西から)



2 2区2号土坑 (西から)



3 2区3号土坑 (西から)



4 2区4号土坑 (西から)



5 2区7号土坑 (東から)



6 2区10・266号土坑 (西から)



7 2区11・101号土坑 (西から)



8 2区12号土坑 (南東から)

PL 14 荒砥諏訪西遺跡



1 2区15号土坑 (東から)



2 2区51号土坑 (北東から)



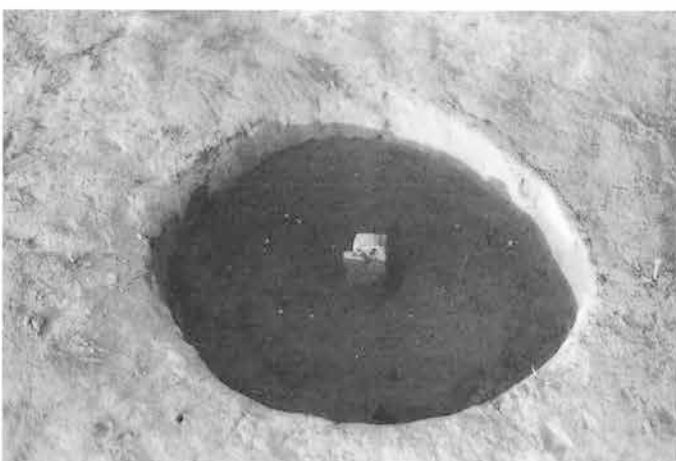
3 2区170号土坑 (西から)



4 2区180号土坑 (南から)



5 2区182号土坑 (東から)



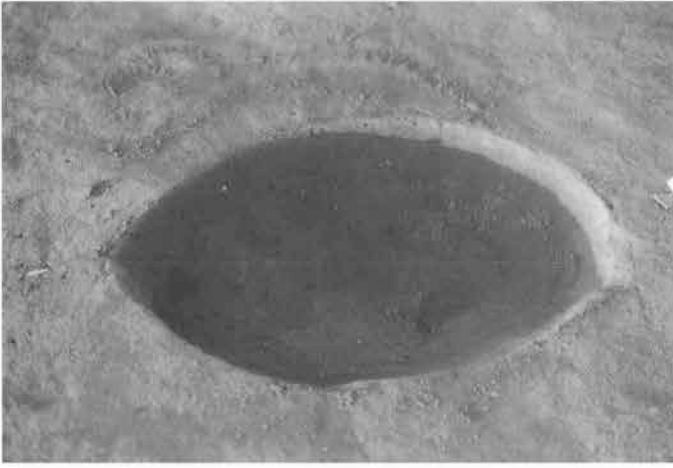
6 2区184号土坑 (西から)



7 2区186号土坑 (東から)



8 2区188号土坑 (南から)



1 2区190号土坑 (南から)



2 2区191号土坑 (南から)



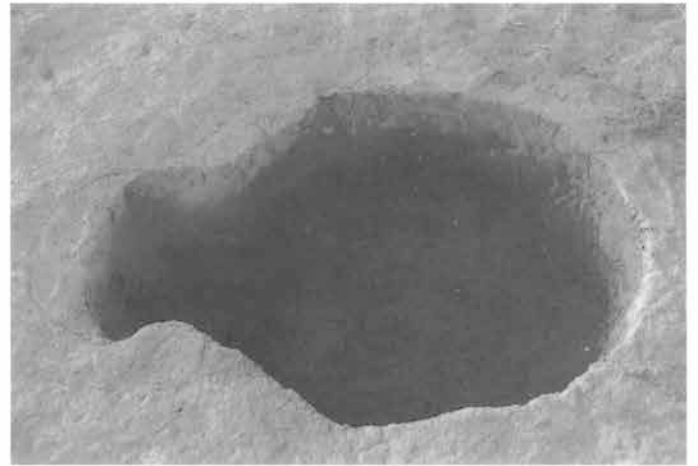
3 2区192号土坑 (西から)



4 2区193号土坑 (南西から)



5 2区194号土坑 (南から)



6 2区195号土坑 (南東から)



7 2区196号土坑 (東から)

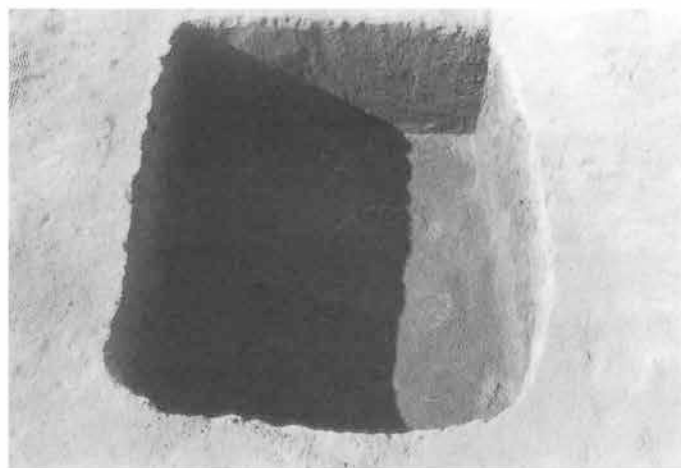


8 2区197号土坑 (北から)





1 2区201~207号土坑 (南東から)



2 2区211号土坑 (東から)



3 2区213号土坑 (西から)



4 2区214号土坑 (東から)



5 2区215号土坑 (北から)



6 2区216号土坑 (北東から)



7 2区218・219号土坑 (北から)



8 2区225号土坑 (西から)



1 2区大溝・1号溝（東から）



2 2区大溝・1号溝（西から）



3 2区大溝（東から）



4 2区大溝遺物出土状況（北東から）



5 2区大溝遺物出土状況（北東から）



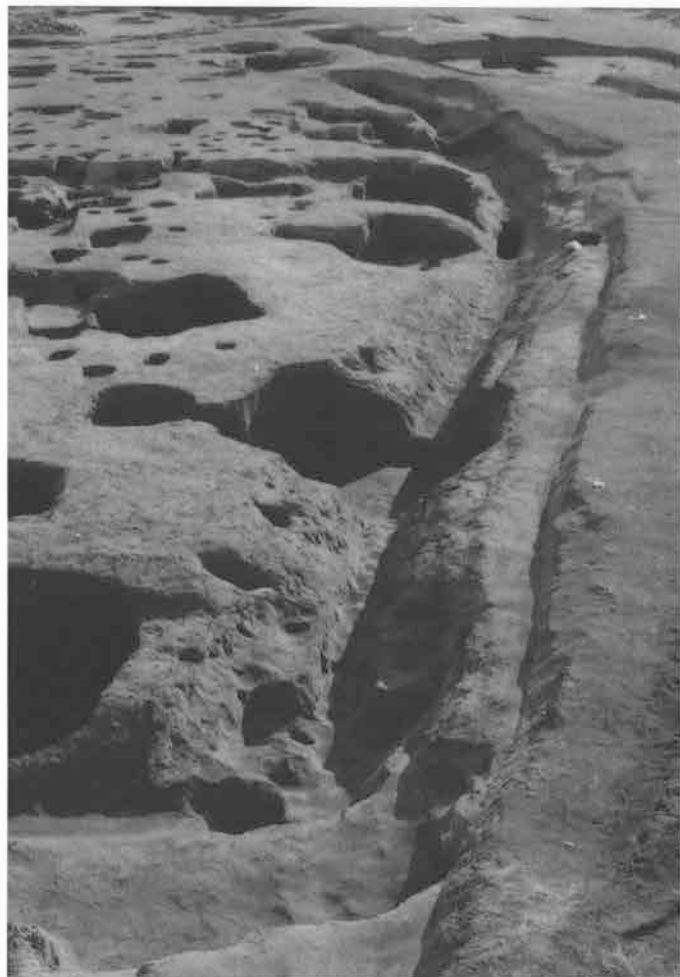
6 2区1号溝（南から）



7 2区1号溝土層断面（南から）



1 2区3号溝 (西から)



2 2区3号溝 (北から)



3 2区2号溝 (南東から)



4 2区3号溝土層断面 (東から)



5 2区3号溝土層断面 (南東から)





1 2区4・7号溝 (西から)



2 2区4・7号溝遺物出土状況 (東から)



3 2区4・7号溝 (東から)



1 2区5号溝 (北から)



2 2区6号溝 (南から)



3 2区9号溝 (西から)



4 2区10号溝 (北から)



5 2区12号溝 (北から)



6 2区13号溝 (北から)



7 2区15号溝 (東から)



1 3区4・5号井戸 (北東から)



2 3区3号井戸土層断面 (南から)



3 3区1・2号井戸土層断面 (南東から)



4 3区9号井戸 (西から)



5 3区11号井戸 (南東から)



6 3区10号井戸 (東から)



7 3区11号井戸土層断面 (南東から)



8 3区15号井戸 (北西から)





1 3区8号土坑 (東から)



2 3区15号土坑 (東から)



3 3区32号土坑 (東から)



4 3区34号土坑 (東から)



5 3区49号土坑 (東から)



6 3区49号土坑 (西から)



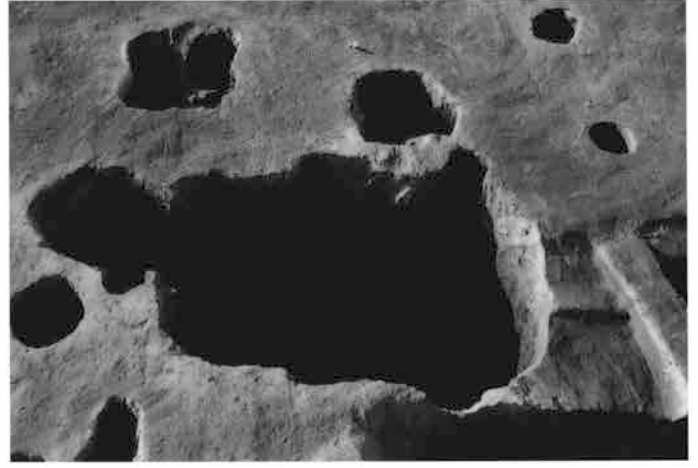
7 3区50・51号土坑 (西から)



8 3区51号土坑 (東から)



1 3区53号土坑 (東から)



2 3区56~59号土坑 (東から)



3 3区60号土坑 (東から)



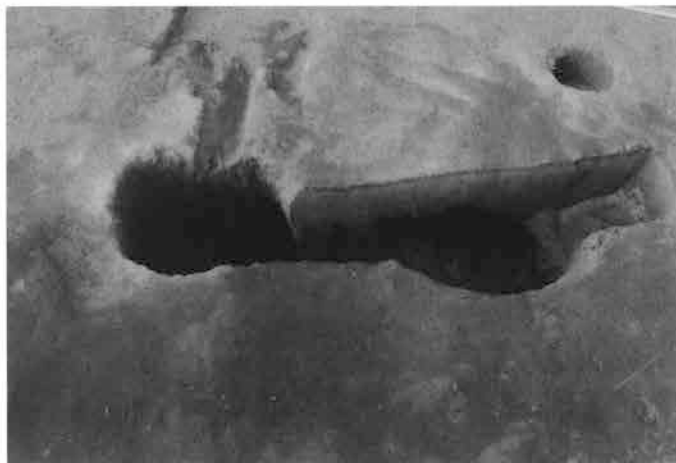
4 3区62号土坑 (東から)



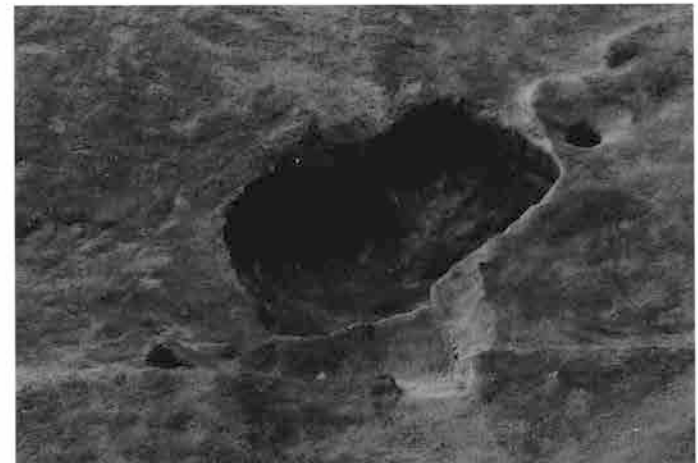
5 3区84・85号土坑 (東から)



6 3区98号土坑 (南東から)



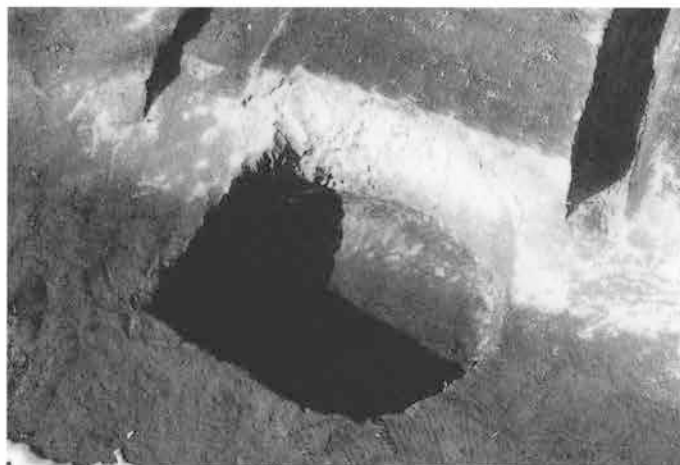
7 3区101号土坑 (東から)



8 3区102号土坑 (東から)



1 3区122号土坑 (南東から)



2 3区123号土坑 (南から)



3 3区124号土坑遺物出土状況 (北から)



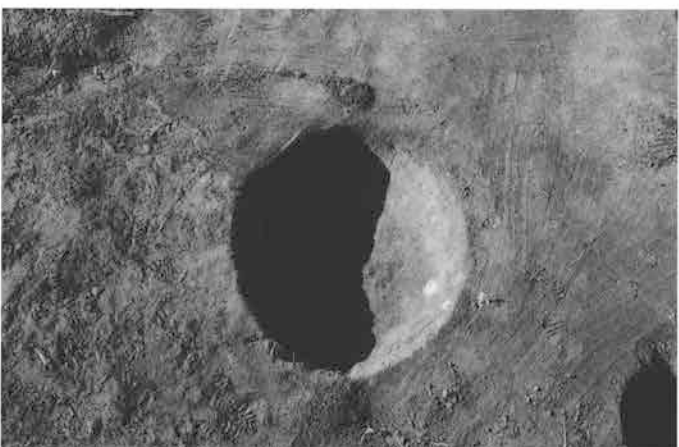
4 3区136号土坑 (北から)



5 3区142号土坑遺物出土状況 (南東から)



6 3区144・145号土坑 (南東から)



7 3区146号土坑 (東から)



8 3区147・148・217号土坑 (北西から)





1 3区149号土坑 (北東から)



2 3区154号土坑 (南から)



3 3区157号土坑 (東から)



4 3区158号土坑 (南東から)



5 3区163号土坑 (西から)



6 3区164号土坑 (東から)



7 3区168号土坑 (西から)



8 3区79・171号土坑 (北西から)



1 3区176号土坑 (南から)



2 3区177号土坑 (南東から)



3 3区177号土坑遺物出土状況 (東から)



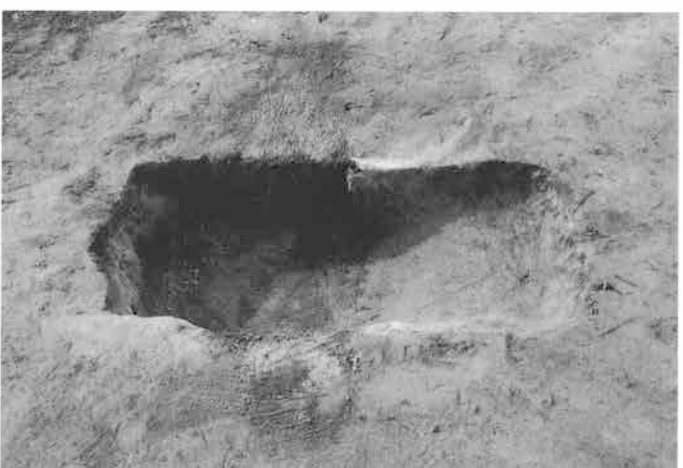
4 3区180号土坑 (北西から)



5 3区187号土坑 (北東から)



6 3区189号土坑 (南西から)



7 3区1号墓坑 (東から)



8 3区2号墓坑 (南西から)



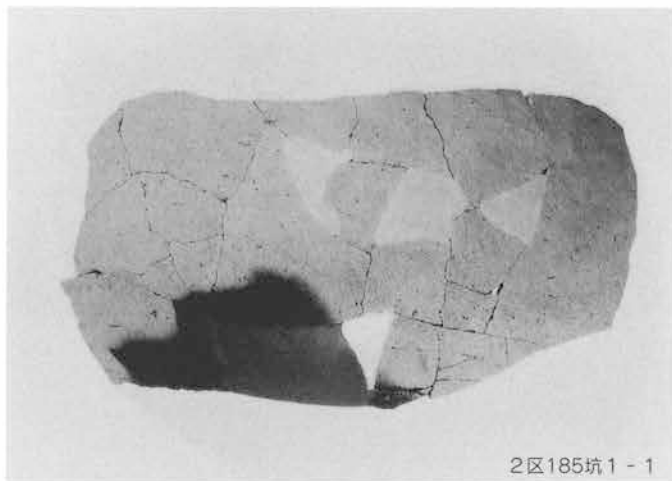
1 3区1~3号溝 (北から)



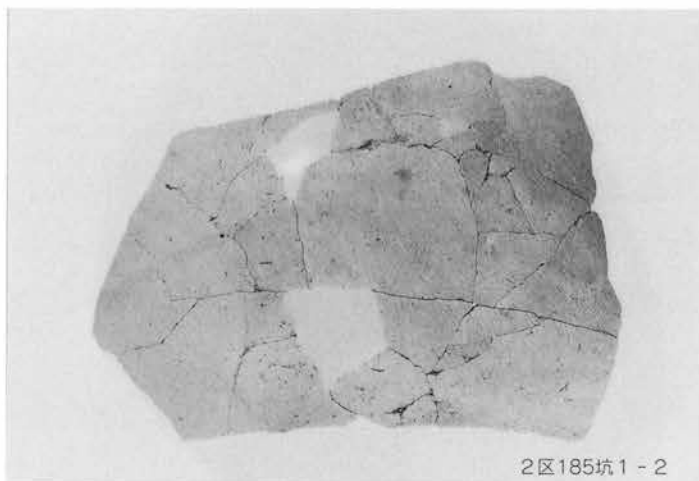
2 3区2~4号溝 (北西から)



3 3区7号溝 (東から)



2区185坑1-1



2区185坑1-2



2区185坑-2



4区3溝-1



4区2溝-1



3区1墳-4



3区1墳-3



3区1墳-4柄頭



3区1墳-1



3区1墳-2



3区2墳-1



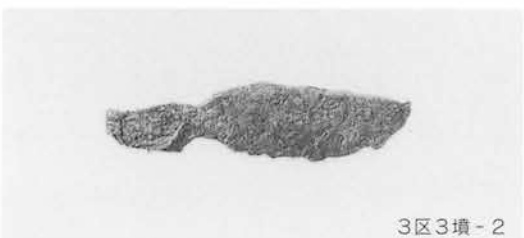
3区3墳-1



3区3墳-5



3区3墳-4

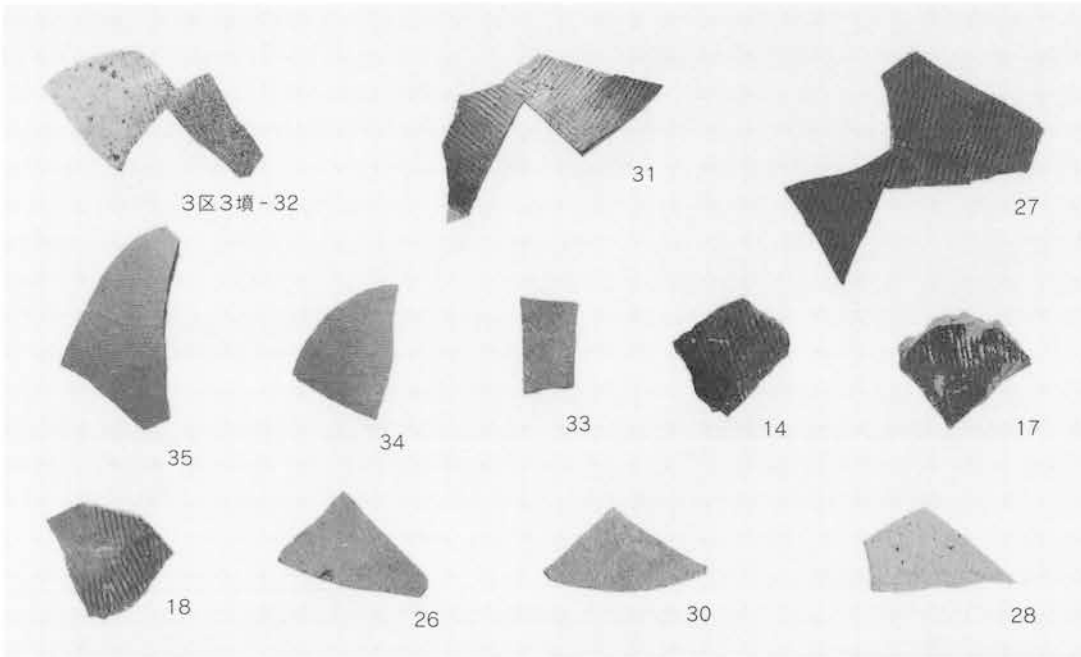
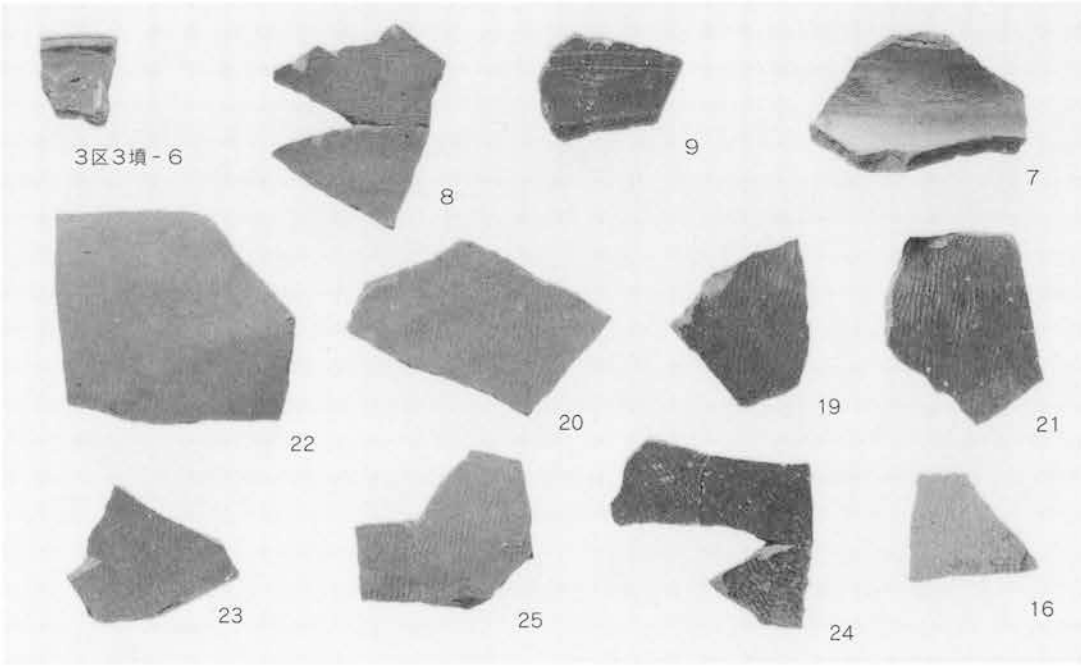


3区3墳-2

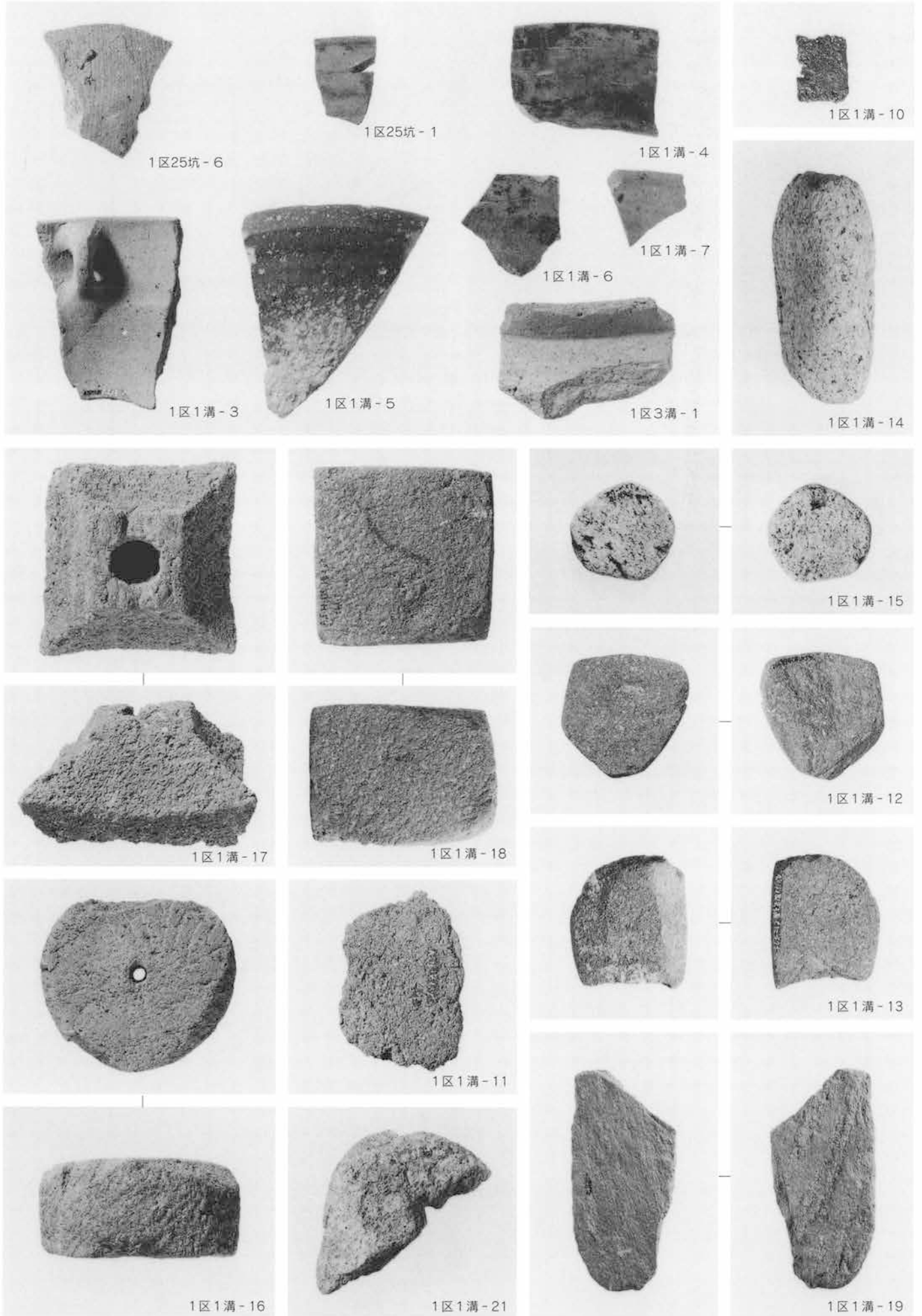


3区3墳-3

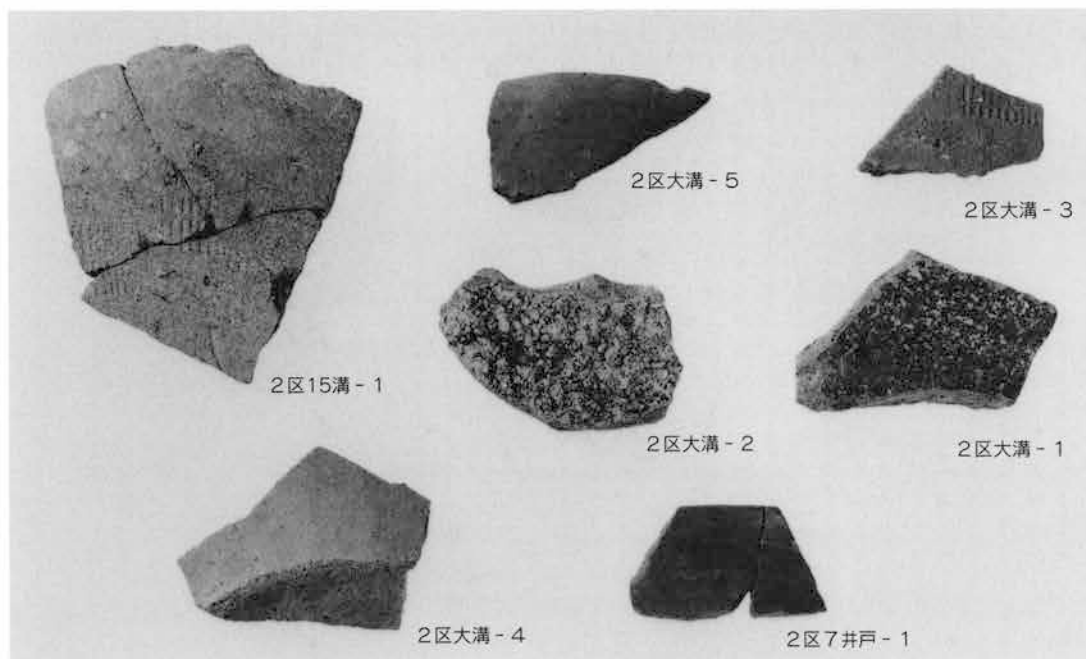
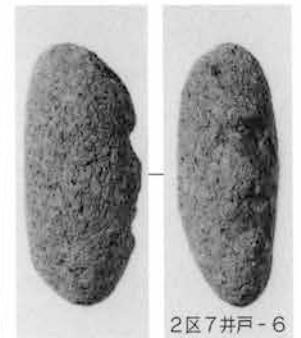
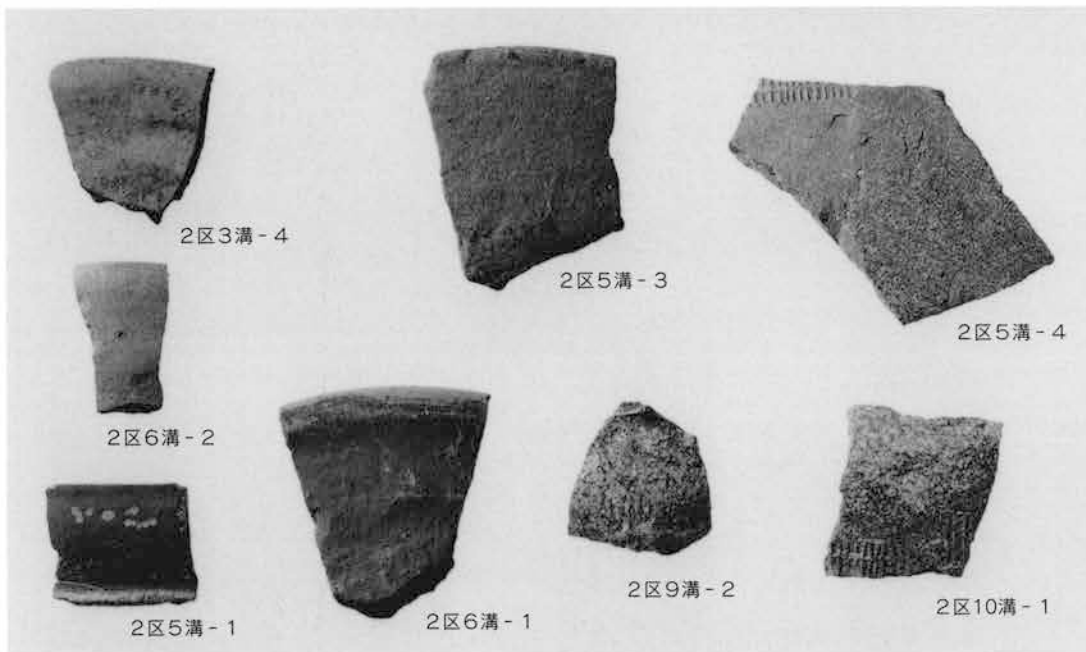
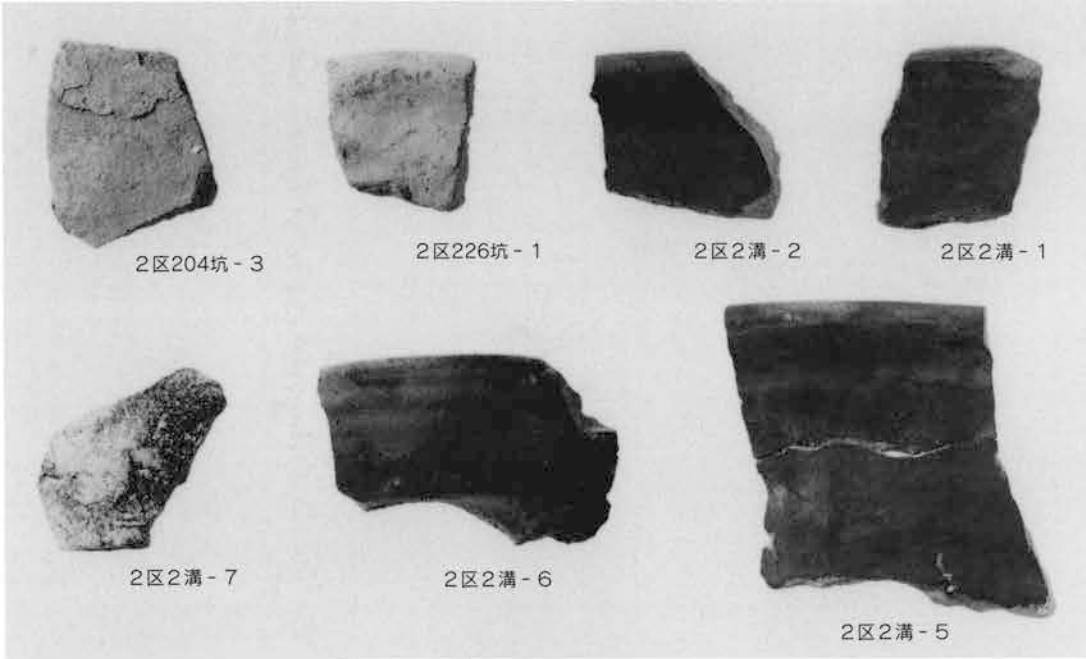




3区古墳・1区土坑出土遺物







P L 32 荒砥諏訪西遺跡



2区3坑-1



2区111坑-1



2区170坑-2



2区203坑-1



2区203坑-2



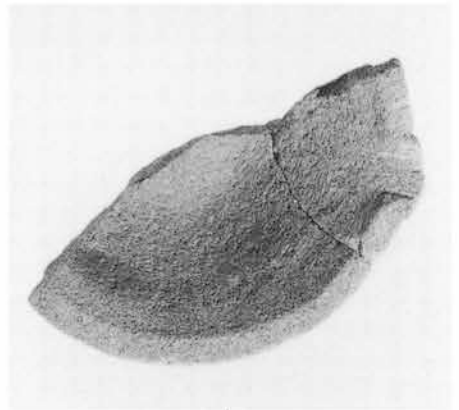
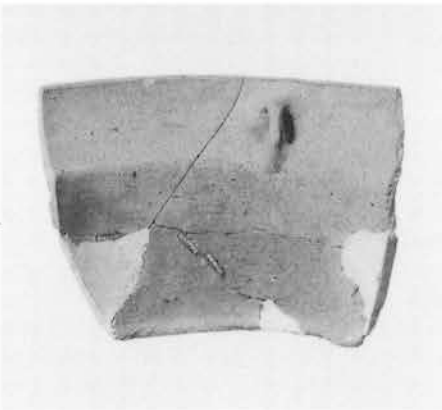
2区170坑-1



2区170坑-3



2区101坑-1



2区163坑-1



2区1坑-1



2区12坑-2



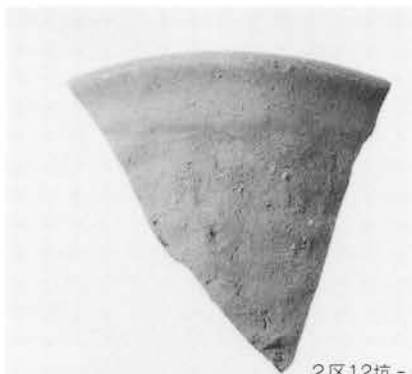
2区244坑-1



2区71坑-1



2区117坑-1



2区12坑-1



2区4坑-1



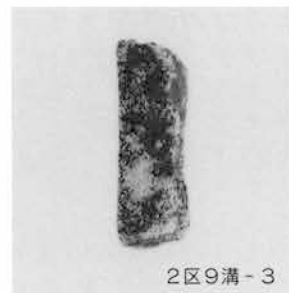
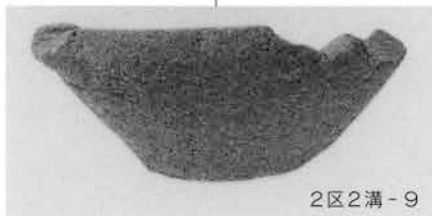
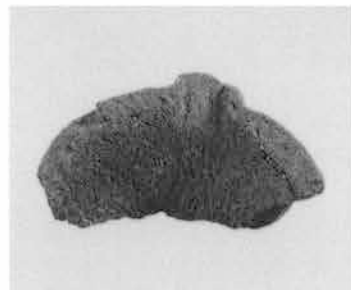
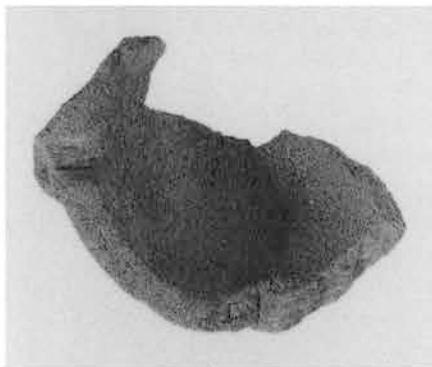
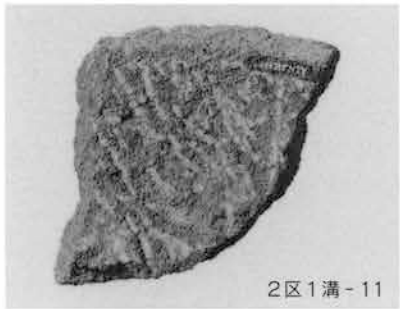
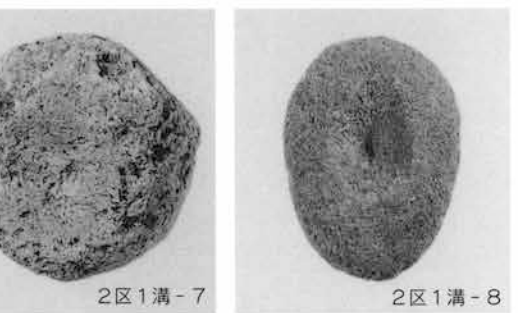
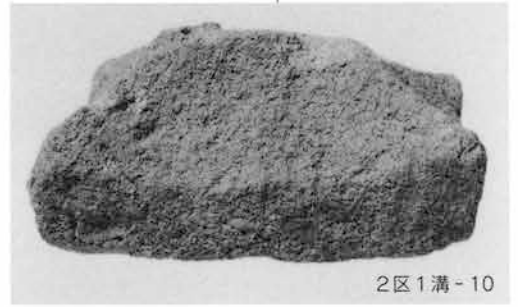
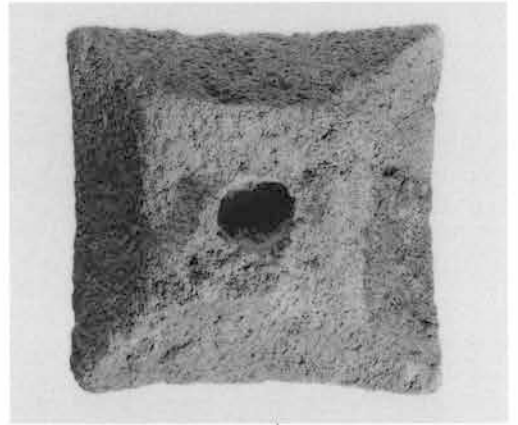
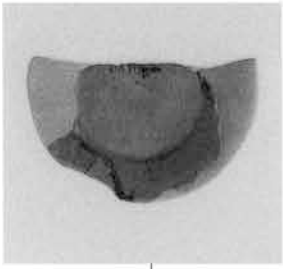
2区3坑-2



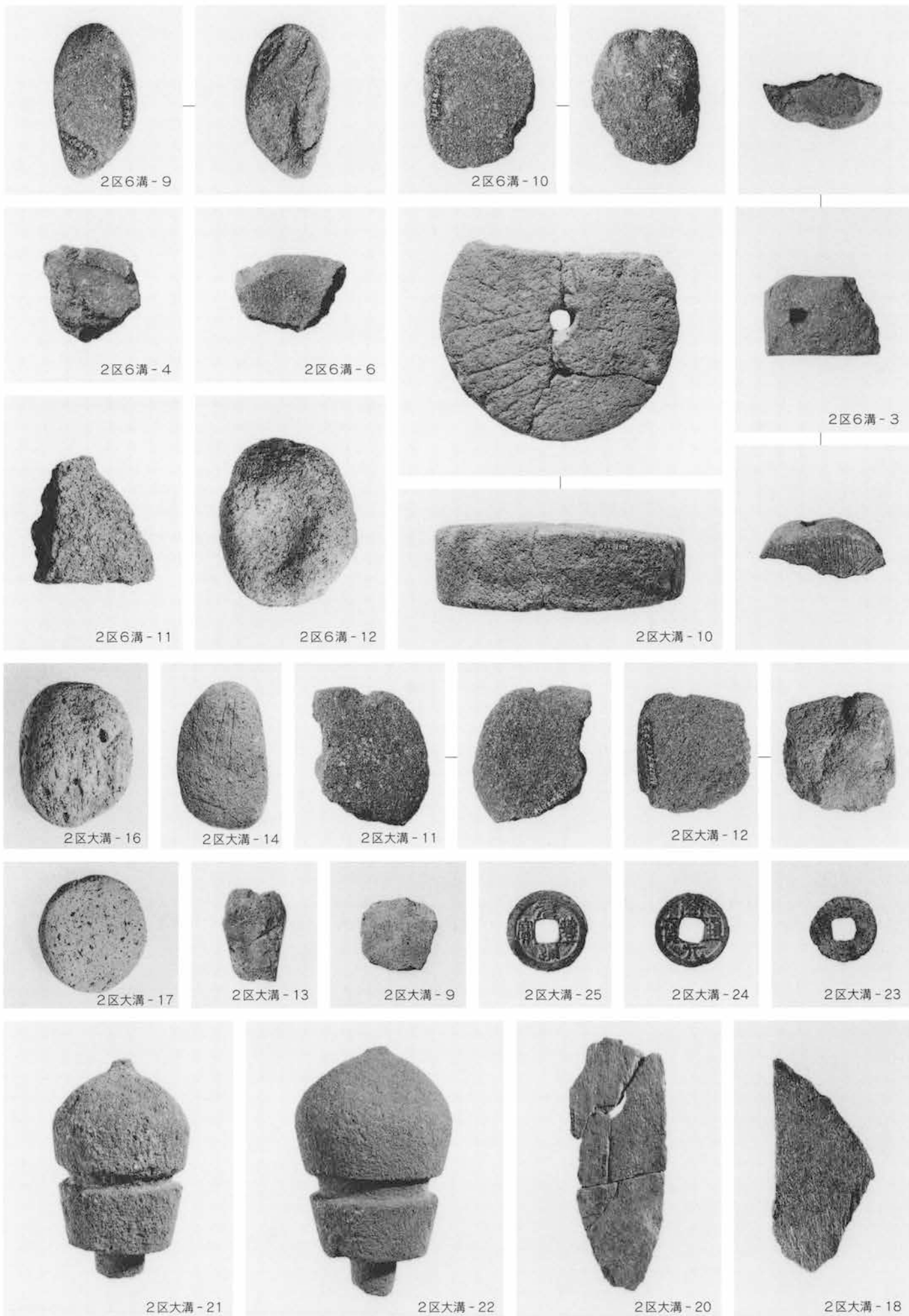
2区51坑-1



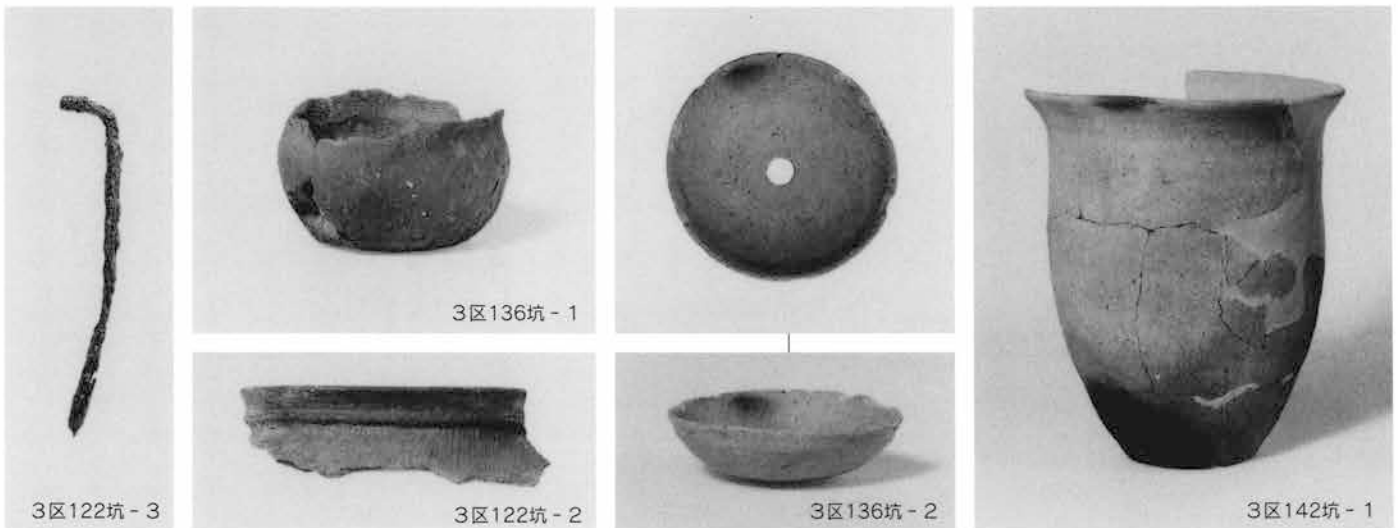
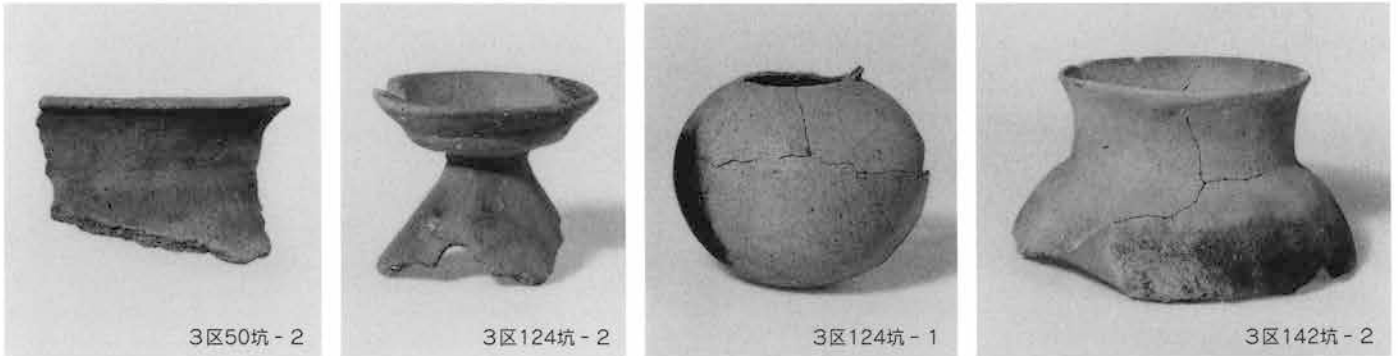
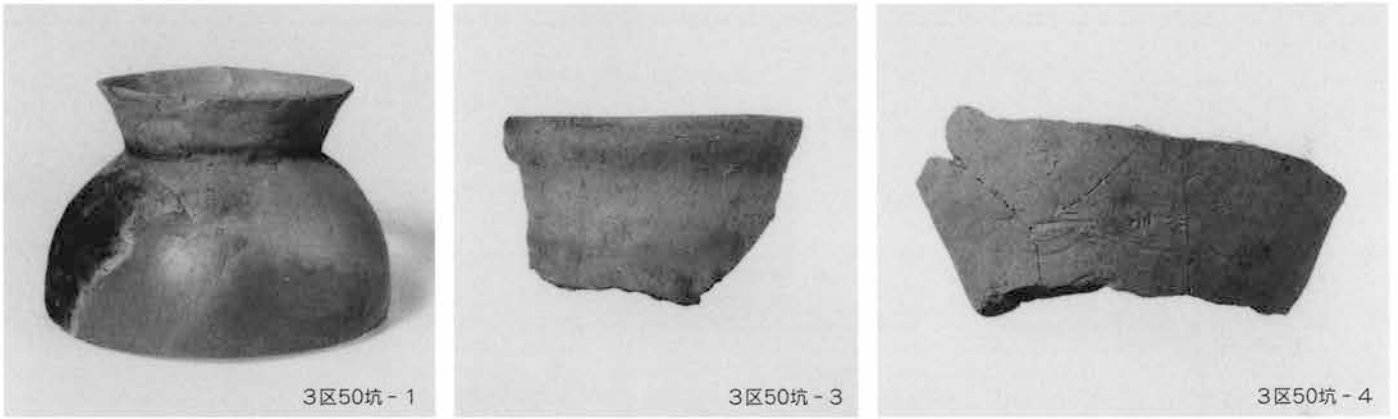
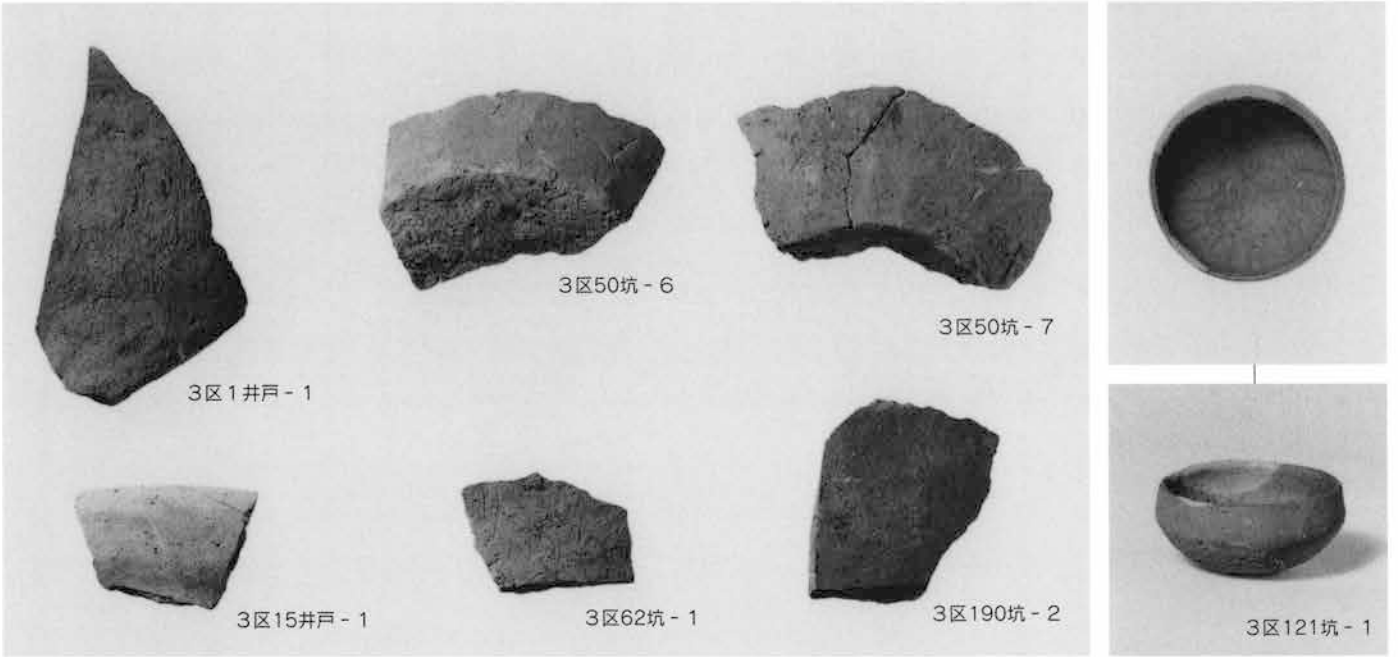
2区207坑-1



2区溝出土遺物







3区井戸・土坑出土遺物



3区136坑-3



3区136坑-4



3区177坑-2



3区177坑-3



3区164坑-1



3区171坑-1



3区118坑-1



3区190坑-1



3区187坑-1



3区187坑-2



3区158坑-3



3区142坑-4



3区13溝-3



3区13溝-1



3区13溝-2



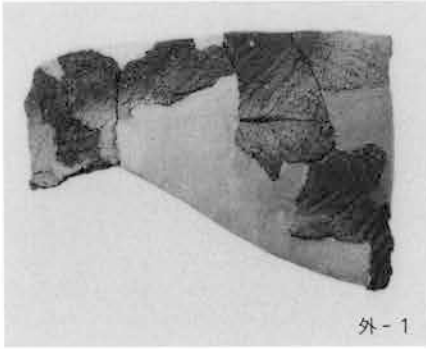
3区142坑-5



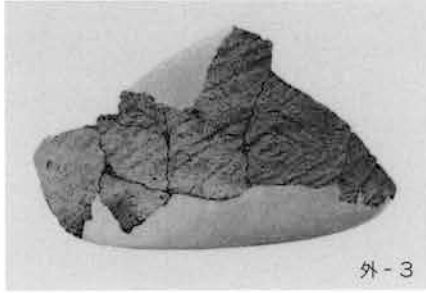
3区13溝-4



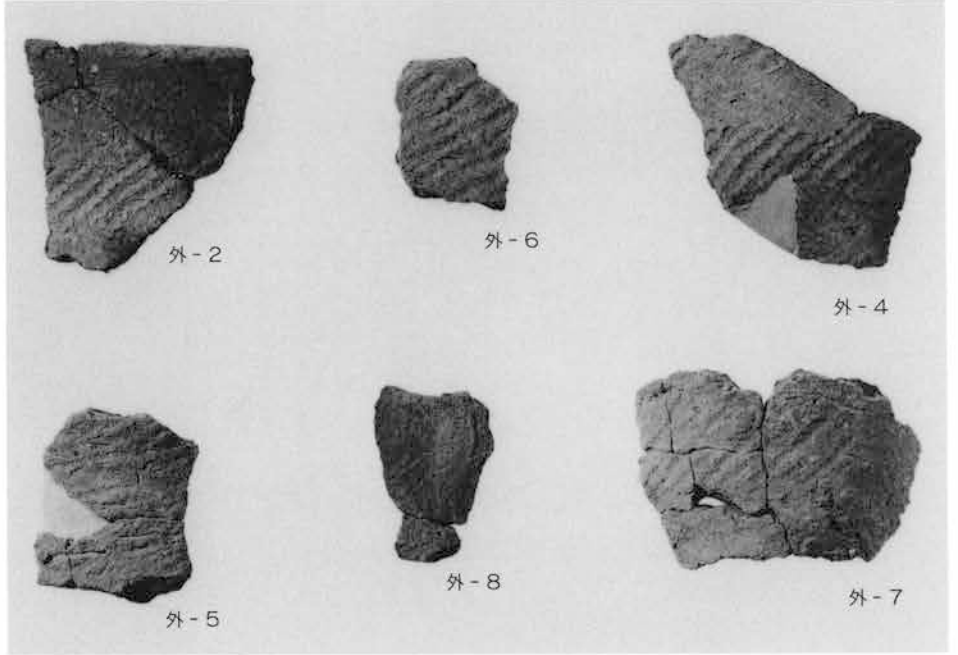




外-1



外-3



外-2

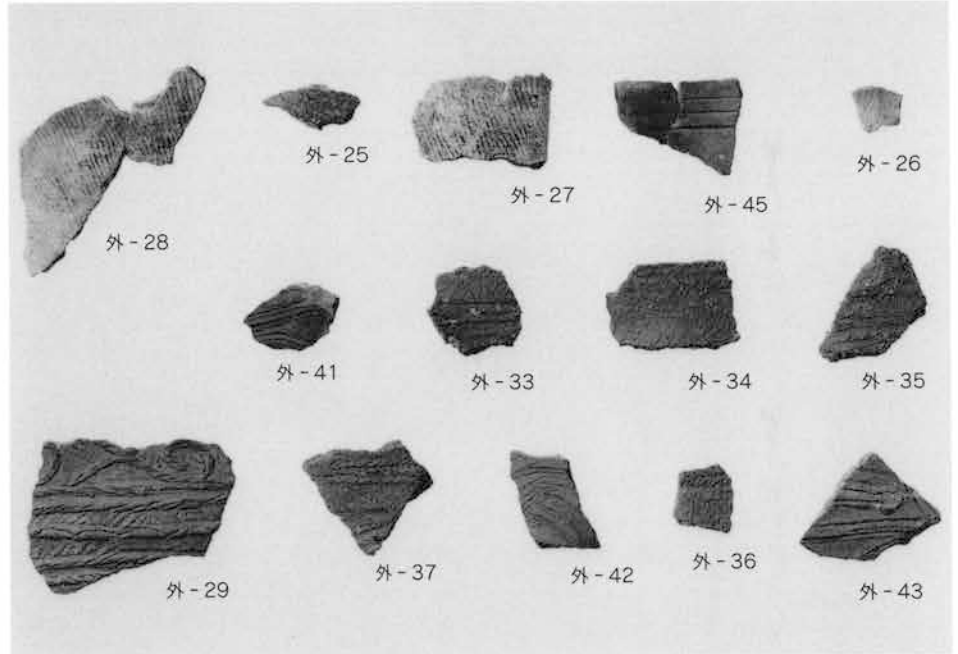
外-6

外-4

外-5

外-8

外-7



外-25

外-26

外-27

外-28

外-45

外-41

外-33

外-34

外-35

外-29

外-37

外-42

外-36

外-43

外-38

外-39

外-44

外-40

外-30

外-31

外-32

外-47

外-49

外-48

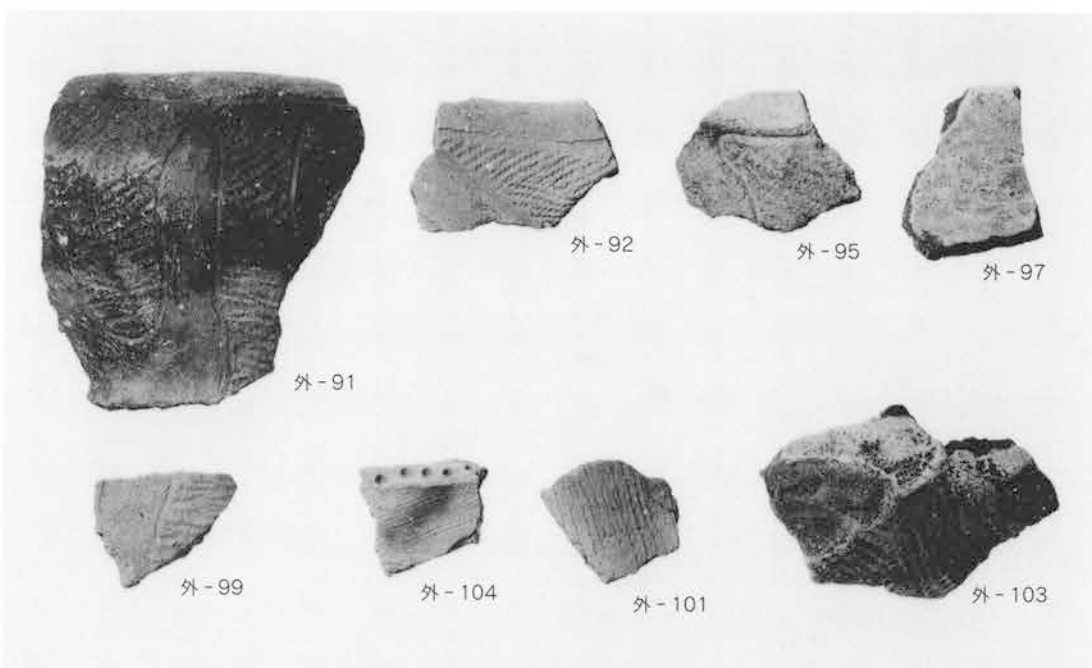
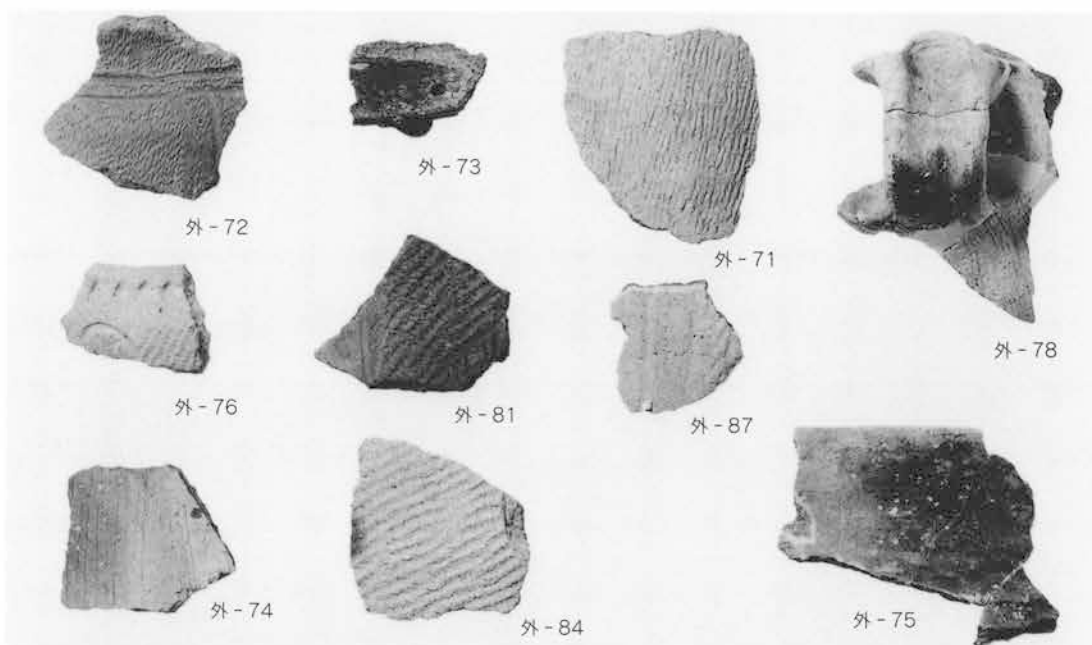
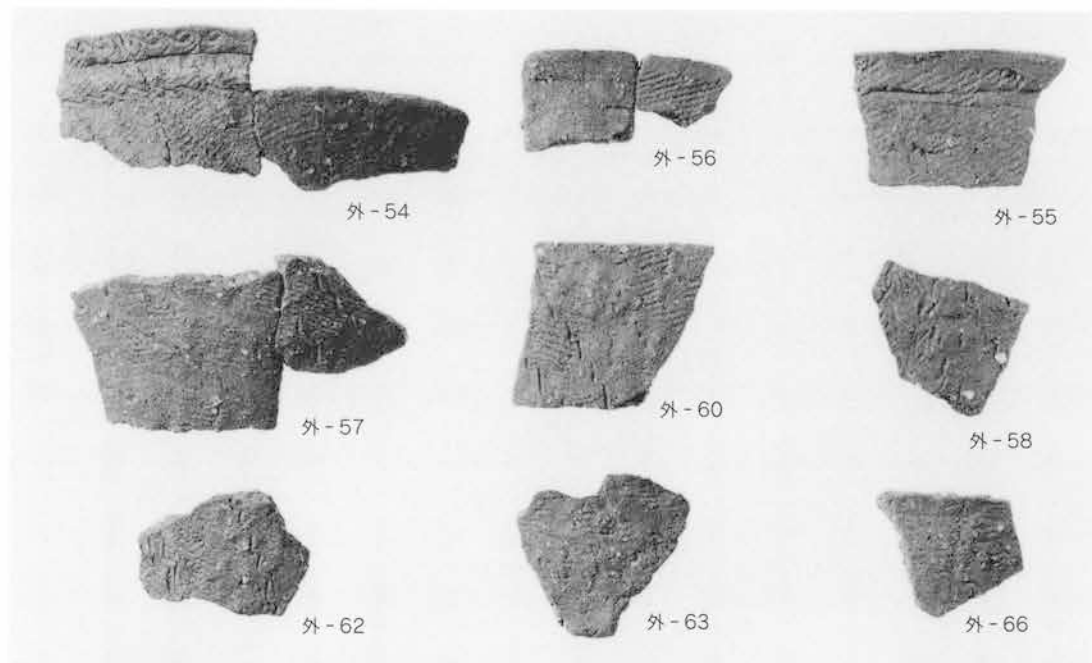
外-50

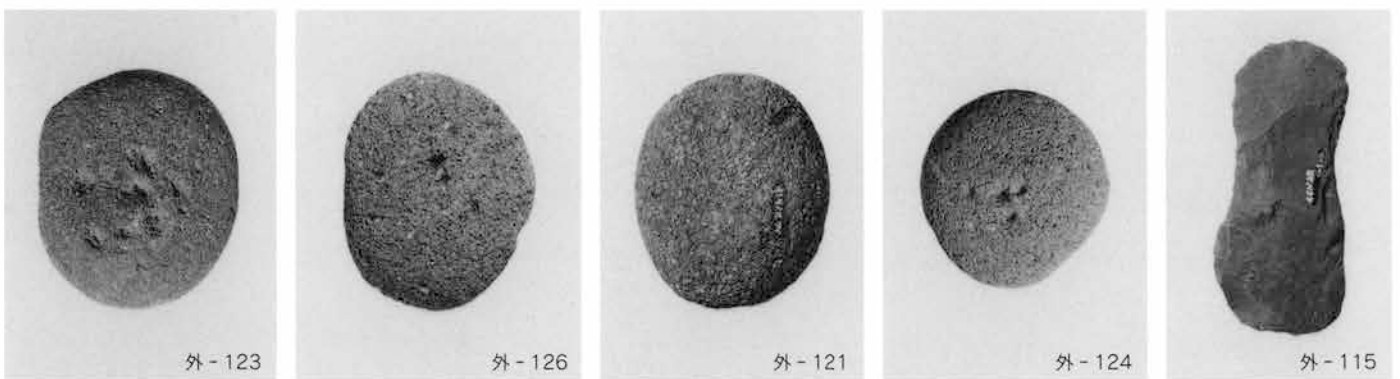
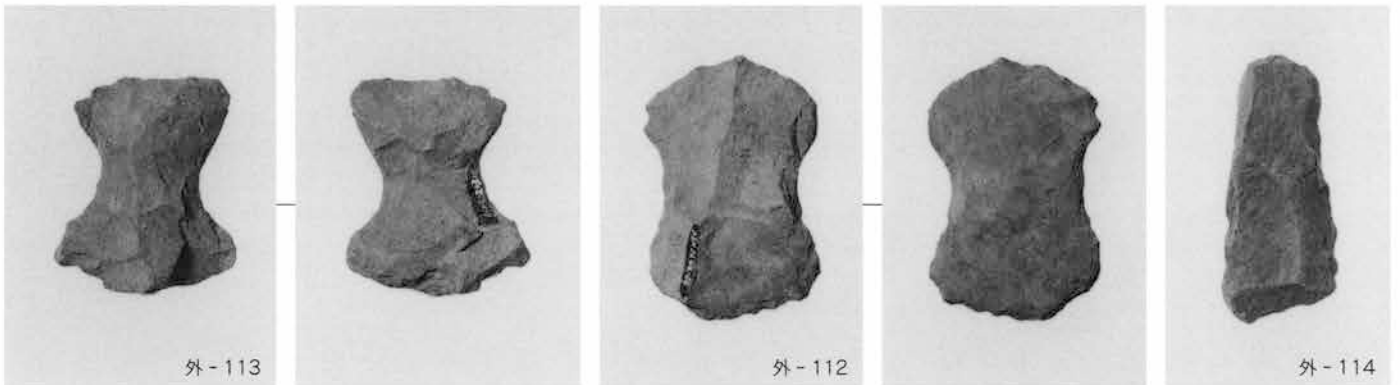
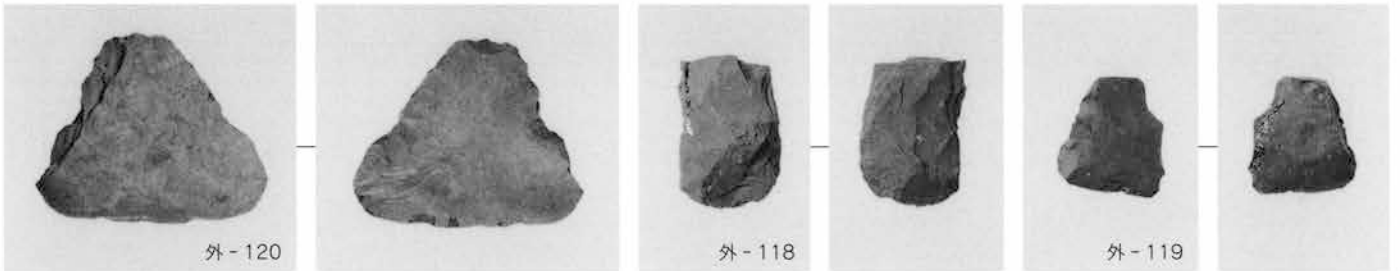
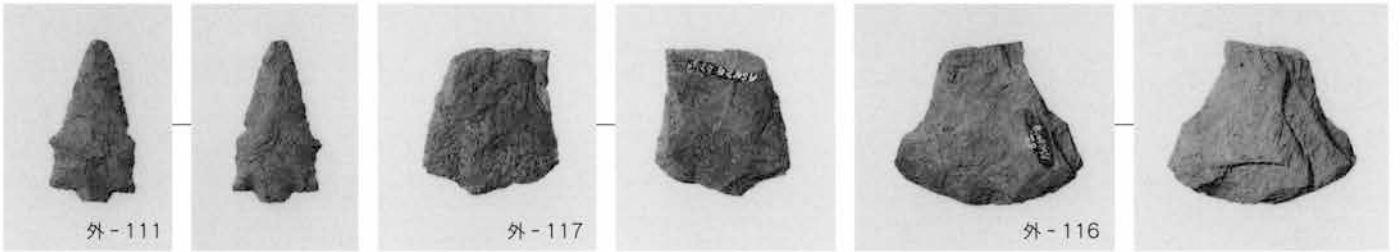
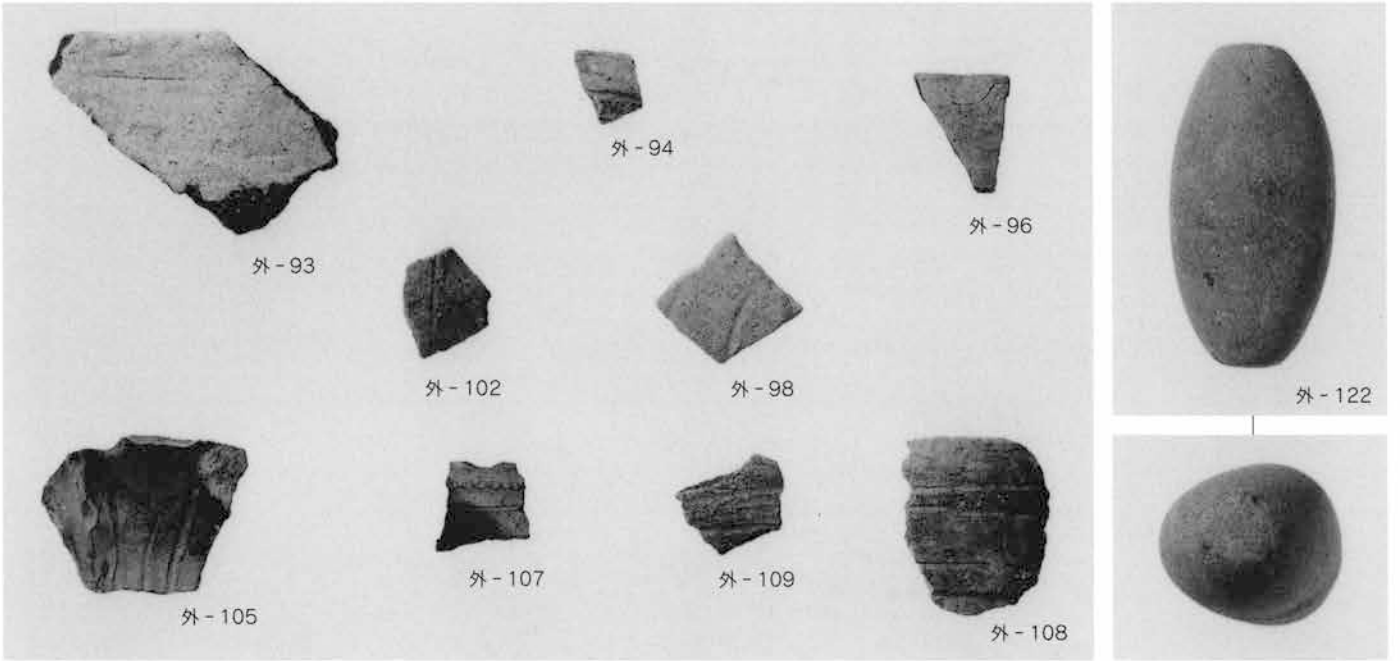
外-51

外-52

外-53

外-46







外-130



外-132



外-137



外-133



外-131



外-148



外-134



外-138



外-135



外-146



外-139



外-129



外-143



外-128



外-144



外-145



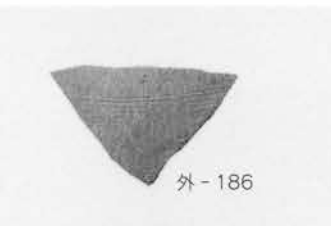
外-152



外-150



外-183



外-186



外-190

外-189



外-153



外-191



外-173



外-172



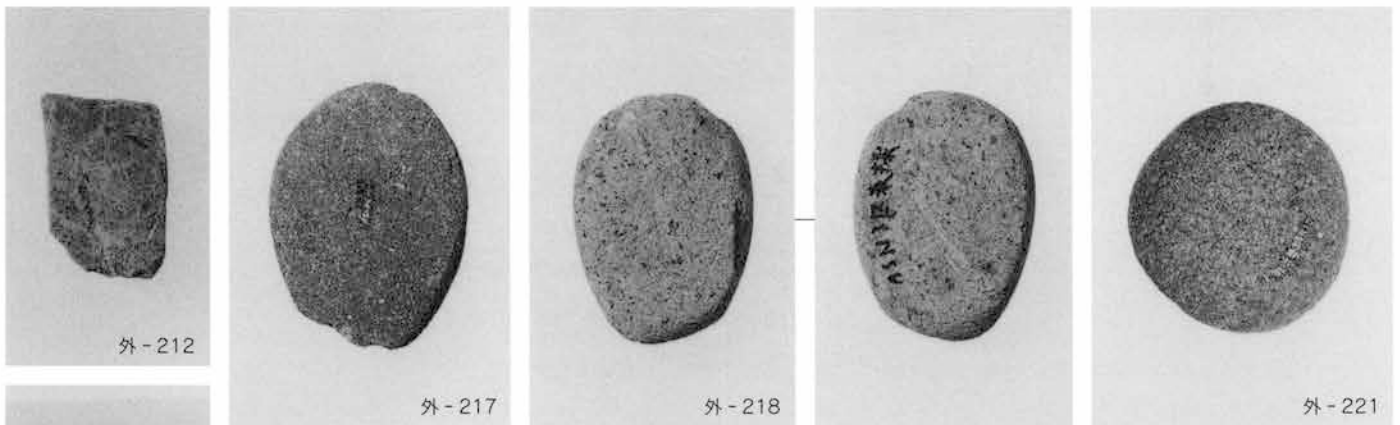
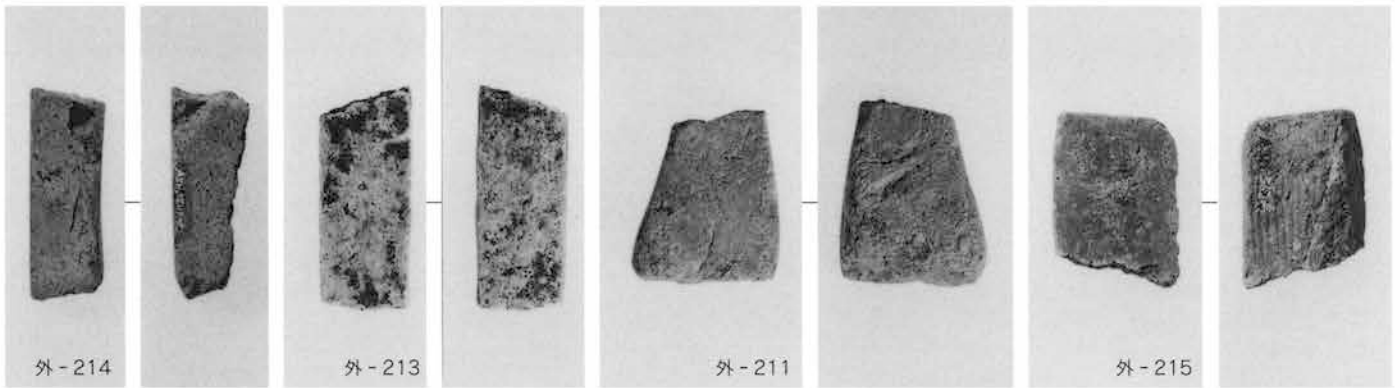
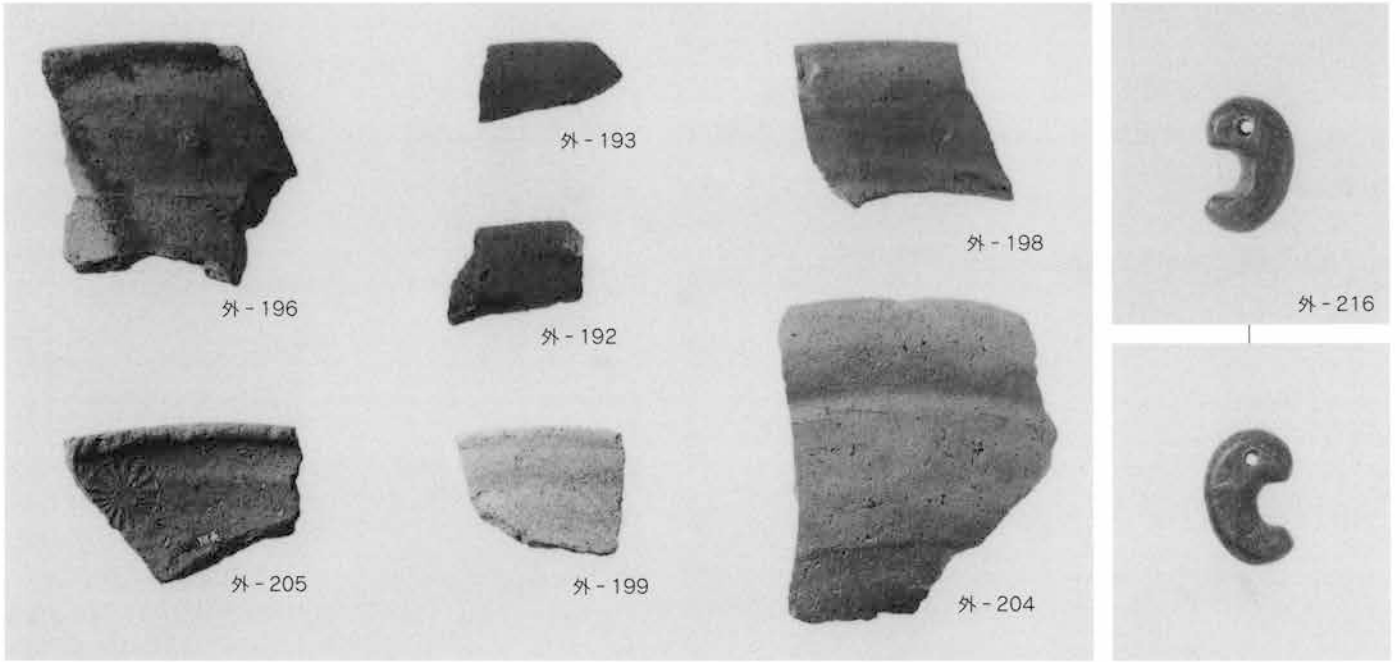
外-154



外-189



外-151







外-220



外-222



外-225



外-228



外-229



外-226



外-234



外-232



外-230



外-231



外-233



外-238

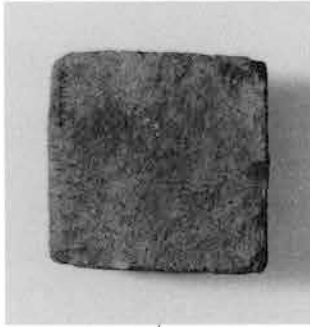


外-237



外-236





外-239



外-241



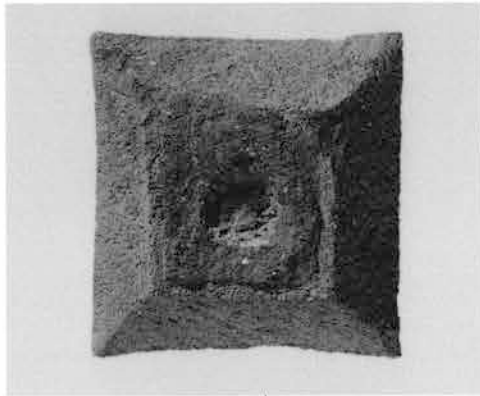
外-242



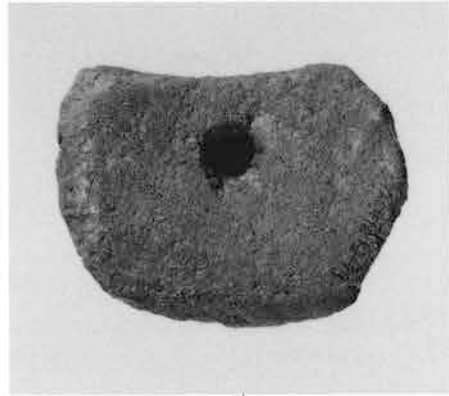
外-240



外-243



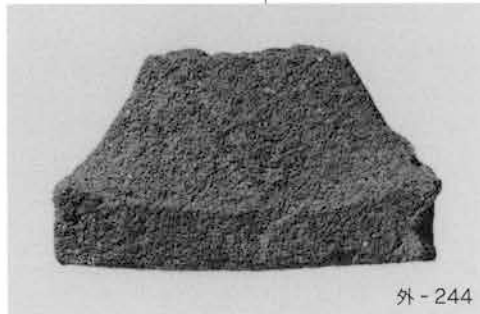
外-244



外-247



外-243



外-244



外-247



外-246



外-169



外-169



3区33住-43



外-170



2区1住-3



2区1住-3



3区29住-73



1 1・2号方形周溝墓（北東から）



2 1号方形周溝墓（北東から）



3 1号方形周溝土層断面（南から）



4 2号方形周溝墓（北東から）



5 2号方形周溝墓遺物出土状況（西から）



1 2号方形周溝墓土層断面（北から）



3 6号方形周溝墓（北から）



2 2号方形周溝墓土層断面（南から）



4 6号方形周溝墓土層断面（東から）



5 4号方形周溝墓（北西から）



6 4号方形周溝墓遺物出土状況（西から）



7 4号方形周溝墓土層断面（南から）



8 4号方形周溝墓土層断面（西から）





1 3号方形周溝墓 (北から)



2 5号方形周溝墓 (北東から)



3 5号方形周溝墓 (北から)



4 5号方形周溝墓土層断面 (東から)



5 1~3号溝 (北から)



6 1・2号溝 (北から)



7 3号溝 (北から)



8 3号溝土層断面 (南から)



1 4号溝 (南から)



3 5号溝 (北から)



2 5号溝 (北から)



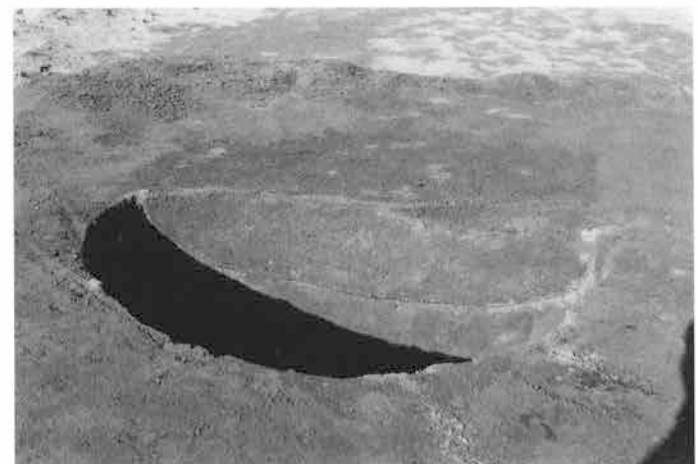
4 5号溝土層断面 (南から)



5 5号溝土層断面 (南から)



6 1号土坑 (南から)



7 1号土坑土層断面 (南から)



PL48 荒砥諏訪遺跡



4周-1



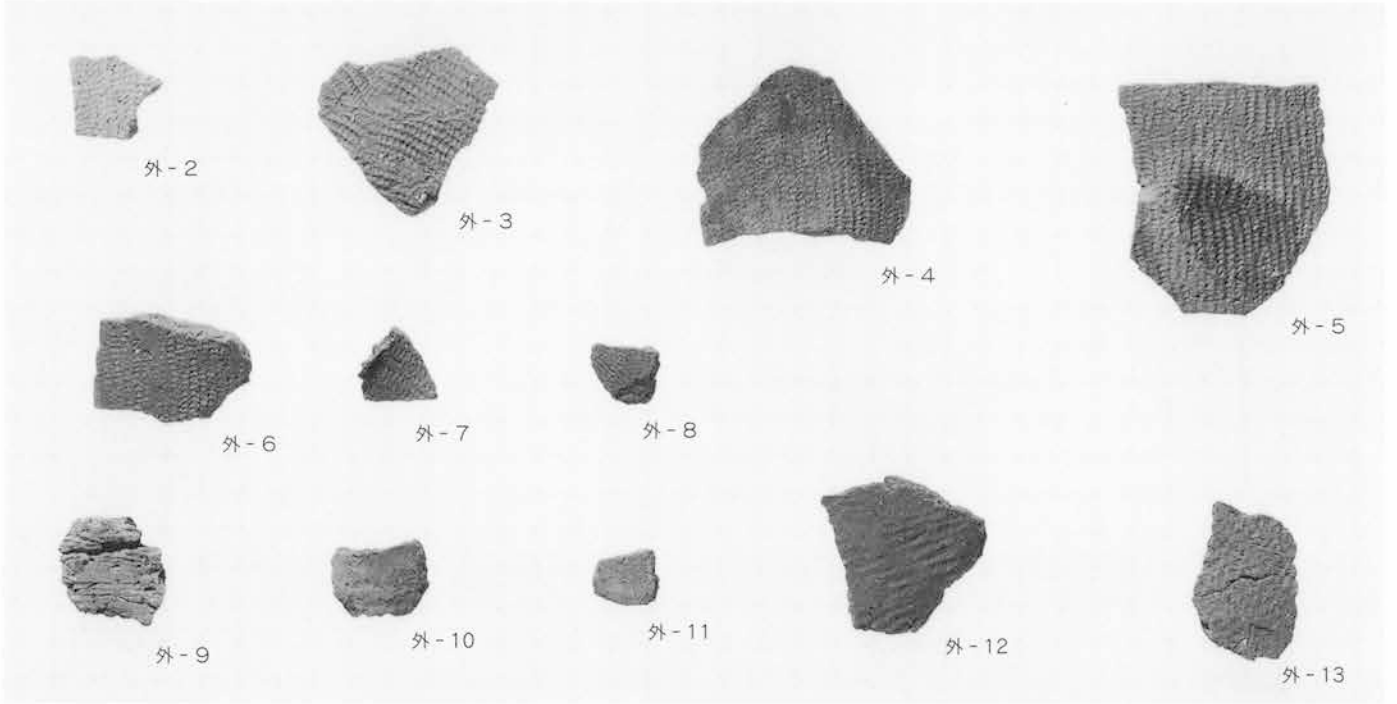
4周-2



外-21



外-22



外-1



外-15



外-19



外-16



外-14



外-18



外-17



外-20

# 報告書抄録

ふりがな	あらとすわにしいせき・あらとすわいせき
書名	荒砥諏訪西遺跡Ⅱ・荒砥諏訪遺跡
副書名	昭和58年度県営圃場整備事業荒砥北部地区に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	第9集
シリーズ名	財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	第315集
編著者名	榎崎修一郎・飯森康広・徳江秀夫
編集機関	財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
所在地	〒377-8555 群馬県勢多郡北橋村大字下箱田784-2 TEL 0279-52-2511
発行年月日	2003年3月27日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	期間期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
あらとすわにし 荒砥諏訪西	まえはししあらくちまち 前橋市荒口町 899他	10201		36°23'00"	139°9'20"	1983年 10月1日～ 1984年 3月24日	30,920㎡	県営圃場整備事業荒砥北部地区に係わる調査
あらとすわ 荒砥諏訪	まえはししあらくちまち 前橋市荒口町 726他	10201		36°22'50"	139°9'30"		1,930㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
荒砥諏訪西	生産址 墳墓 生産址 集落	古墳時代前期 古墳時代後期 平安時代 中・近世	畠 古墳3基 水田 掘立柱建物・ 土坑・溝	土師器・須恵器 鉄器・陶磁器・ 軟質陶器・砥石 ・五輪塔・板碑	平安時代の水田は微高地上に開田したもの。中・近世の遺構は14・15世紀を中心としたものである。
荒砥諏訪	墳墓	古墳時代前期	方形周溝墓6 基・溝・土坑	土師器	台地上に群在する。





財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団  
調査報告書 第315集

荒砥諏訪西遺跡Ⅱ《中・近世遺構編》 昭和58年度県営圃場整備事業荒砥北部  
地区に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書  
荒砥諏訪遺跡

平成15年3月21日 印刷

平成15年3月27日 発行

編集・発行／群馬県教育委員会  
〒371-8570 前橋市大手町1丁目1番1号  
電話 (027) 223-1111 (代表)

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団  
〒377-8555 勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2  
電話 (0279) 52-2511 (代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>  
印刷／朝日印刷工業株式会社

2区掘立柱建物の長軸方位について以下のように訂正します。

	掲載箇所	誤	正
1号掘立柱建物	P63、付図3	N-72°-E	N-72°-W
2号掘立柱建物	P63、付図3	N-17°-W	N-75°-W
3号掘立柱建物	P63、付図3	N-14°30'-W	N-14°30'-E
4号掘立柱建物	P63、付図3	N-80°-E	N-80°-W
5号掘立柱建物	P64、付図3	N-13°30'-W	N-13°30'-E
6号掘立柱建物	P64、付図3	N-82°-E	N-82°-W
7号掘立柱建物	P64、付図3	N-70°-E	N-70°-W
8号掘立柱建物	P64、付図4	N-65°-E	N-65°-W
9号掘立柱建物	P64、付図4	N-65°-W	N-81°-W
10号掘立柱建物	P65、付図4	N-29°-E	N-5°-E
11号掘立柱建物	P65、付図4	N-60°-W	N-88°-W
13号掘立柱建物	P65、付図4	N-45°-E	N-45°-W
15号掘立柱建物	P65、付図4	N-84°-W	N-84°-E

12号掘立柱建物	付図4		
付図3・付図4のスケールの数値			





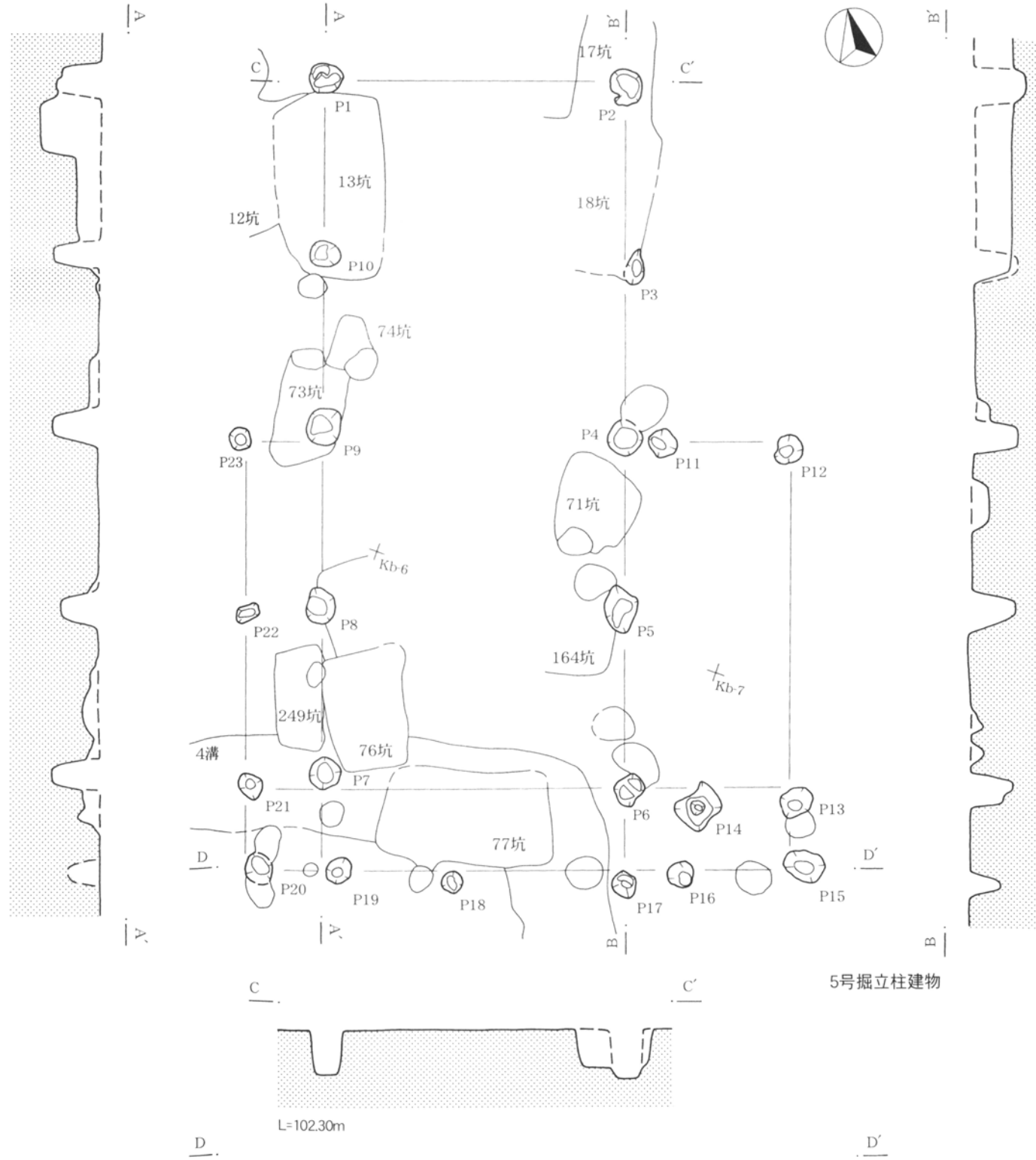
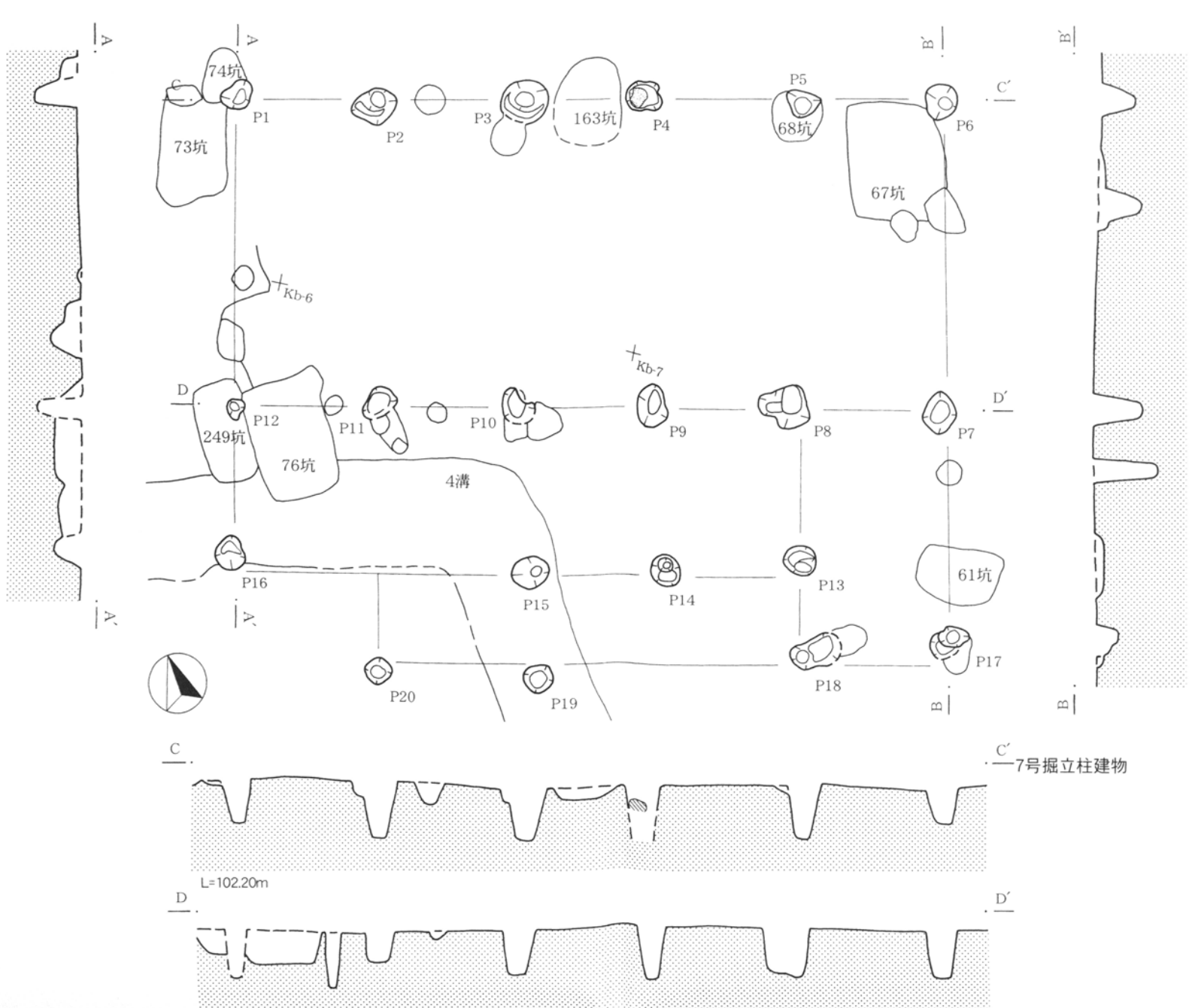
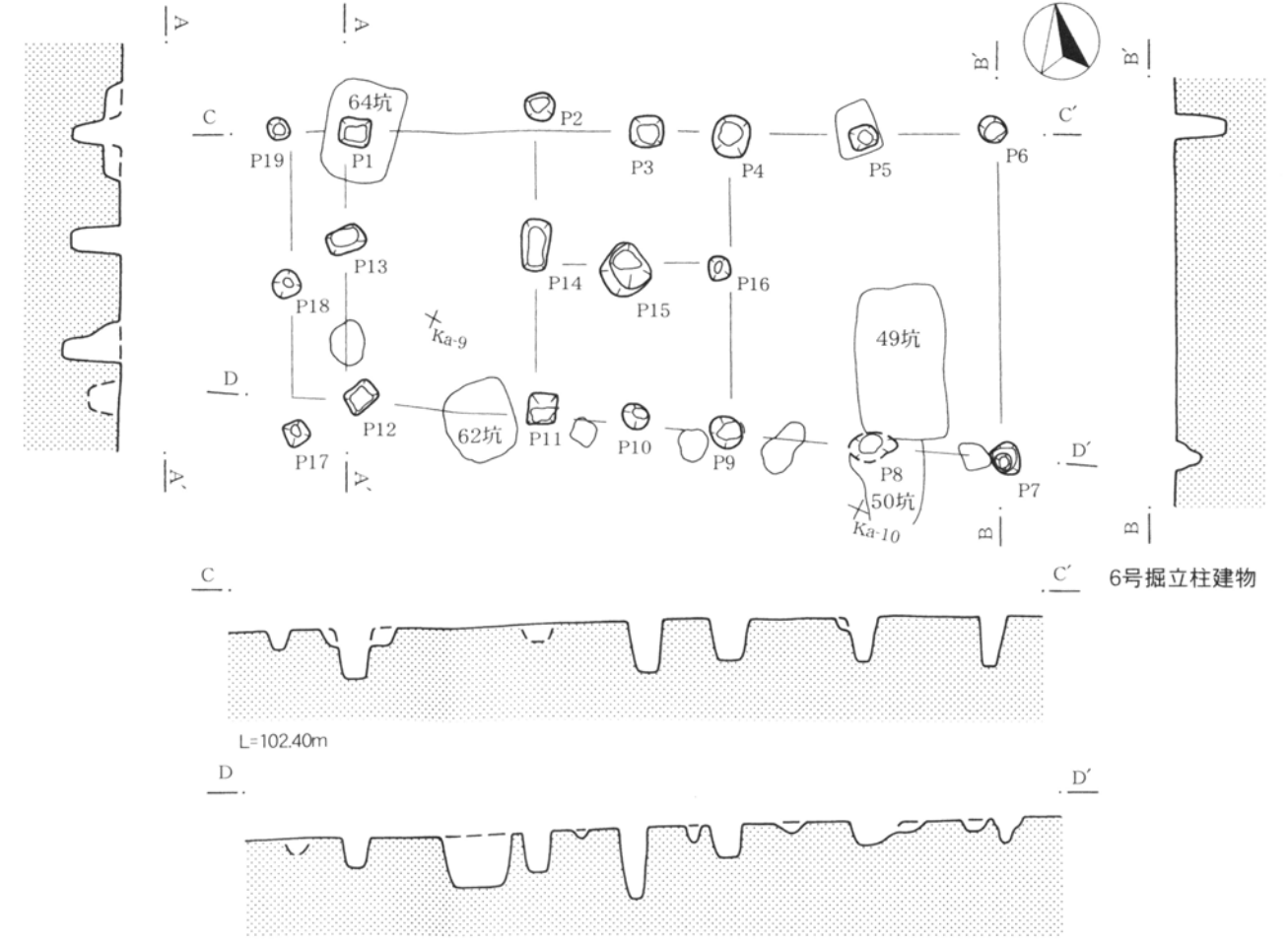
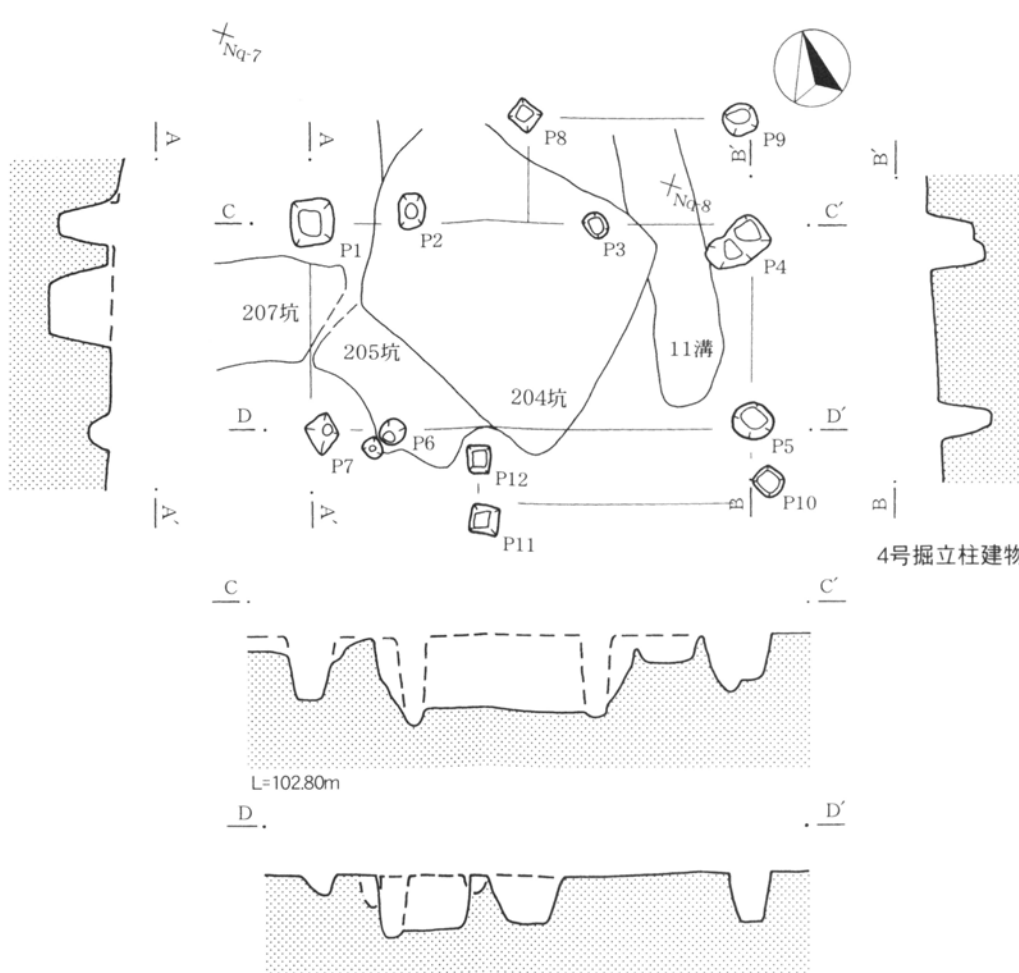
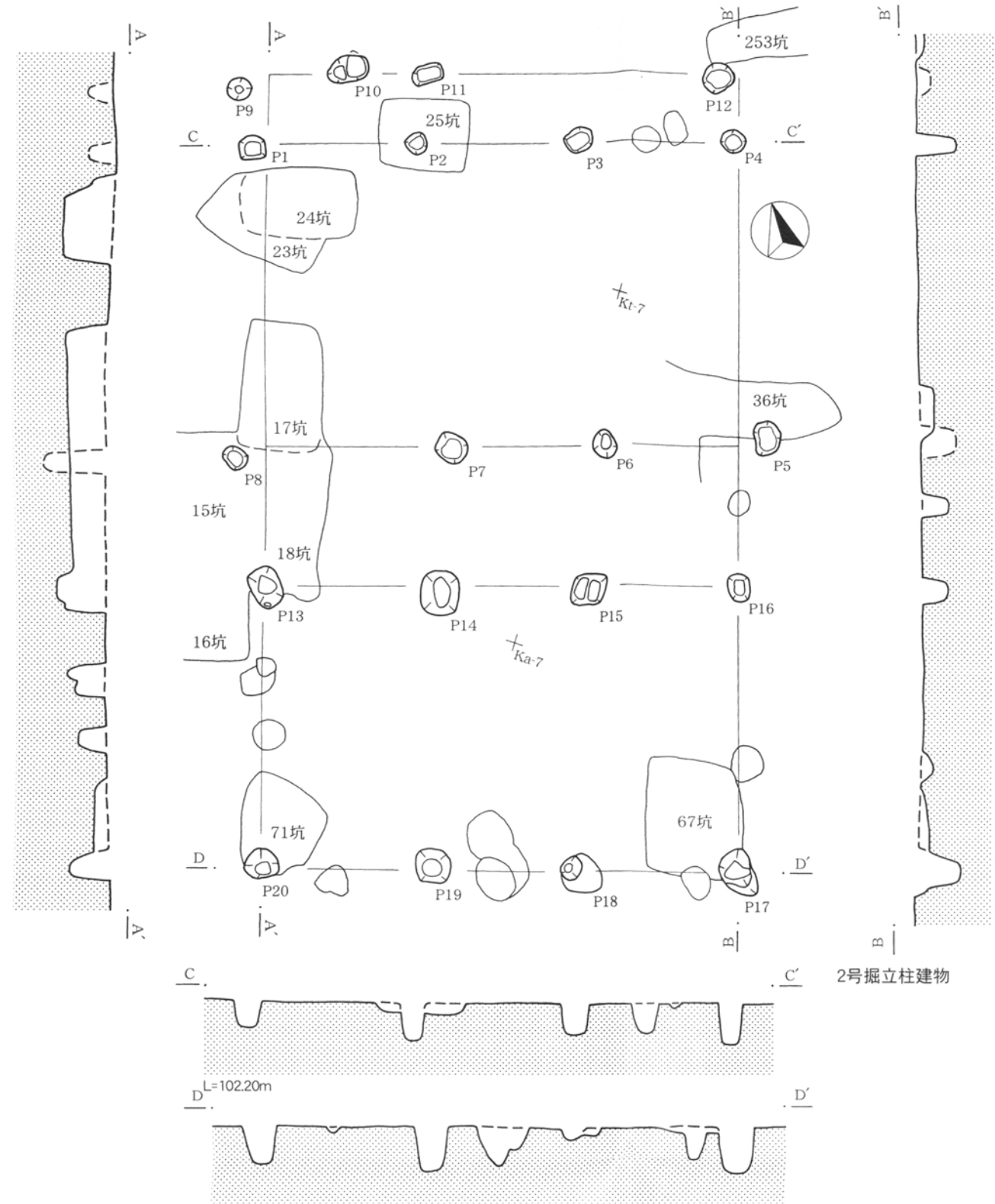
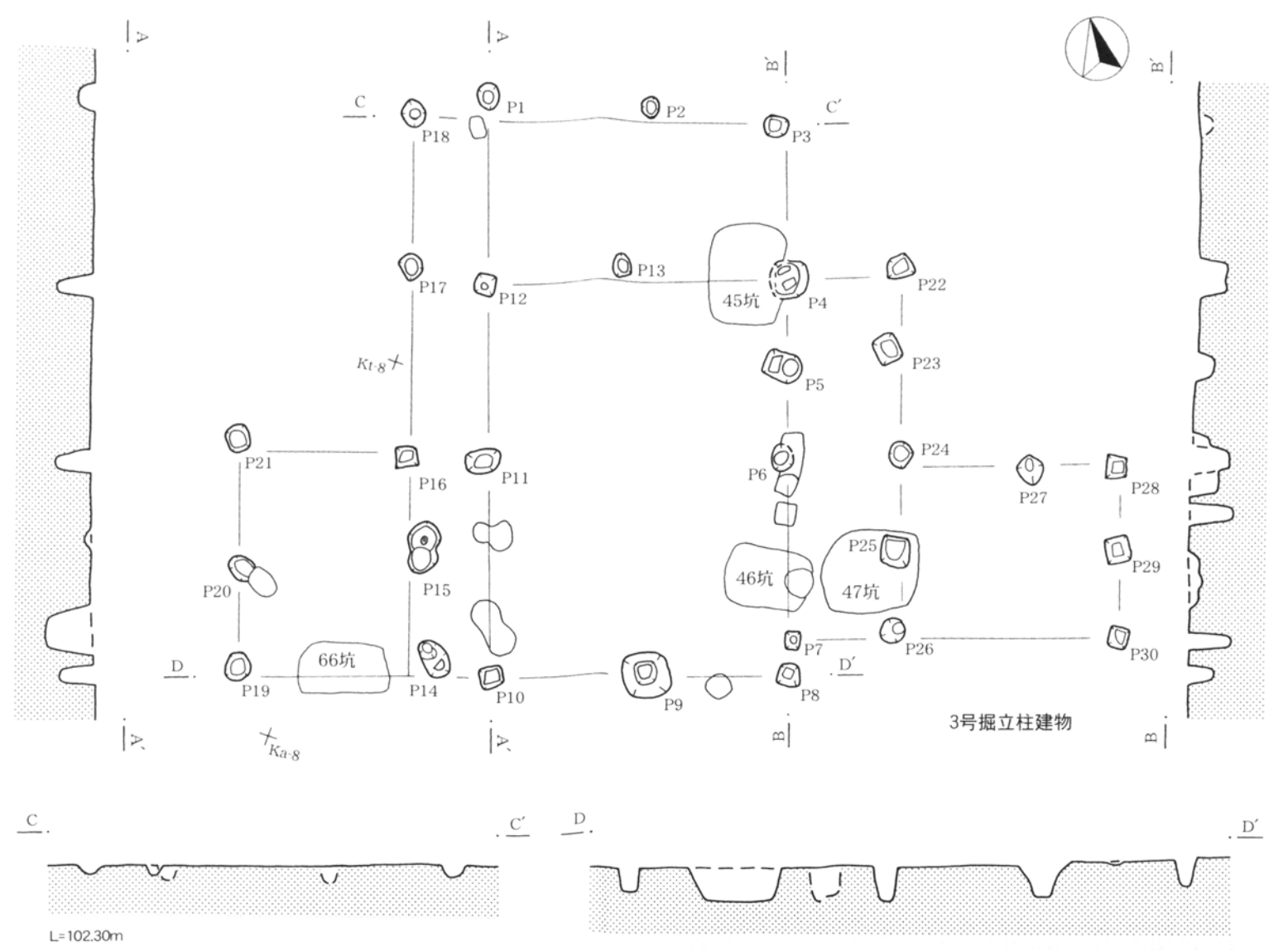
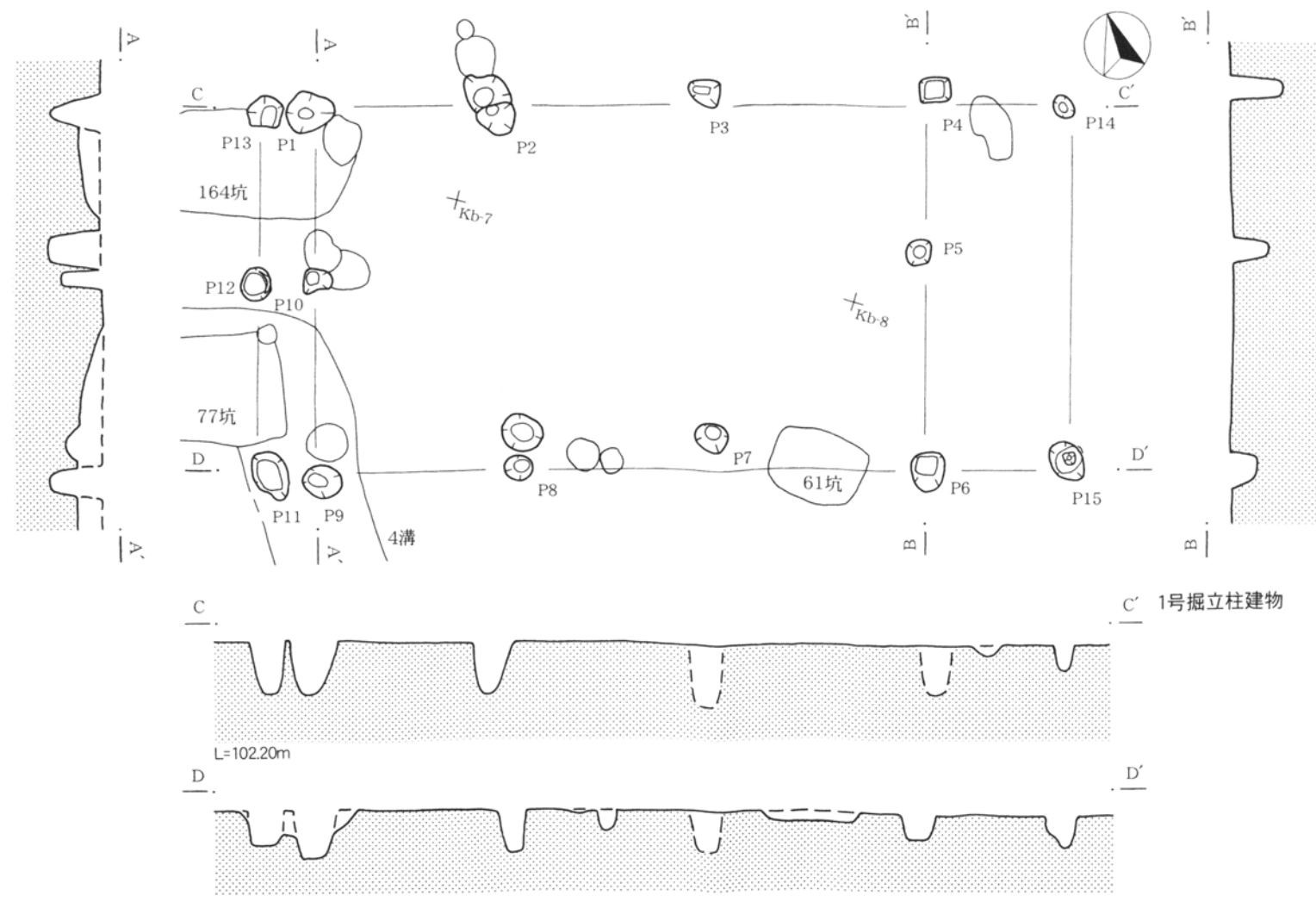
付図1 荒砥諏訪西遺跡2区の遺構





付図2 荒砥諏訪西遺跡3区の遺構





建物の規模 (m)	柱穴			形状	面積 (㎡)	柱穴間の間隔 (m)			主軸方位	底	東・西
	No.	長さ	短径			No.	長さ	短径			
北辺 (7.62)	1	56	45	円	2.13	11	41	36	円	1.0	東
東辺 (4.55)	2	47	34	円	2.02	10	33	17	方	P1-2.05	西
南辺 (7.44)	3	36	29	方	1.97	11	62	42	方	P1-0.53	北
西辺 (6.56)	4	37	29	方	1.97	12	38	36	方	P1-1.75	東

建物の規模 (m)	柱穴			形状	面積 (㎡)	柱穴間の間隔 (m)			主軸方位	底	東
	No.	長さ	短径			No.	長さ	短径			
北辺 (3.73)	1	32	26	円	2.13	16	27	21	円	1.94	東
東辺 (7.65)	2	25	23	円	1.57	17	31	28	円	P1-0.61	北
南辺 (7.40)	3	30	28	円	2.07	18	33	30	方	P16-2.14	西
西辺 (7.01)	4	15	15	方	1.06	21	33	30	方	P16-2.14	東

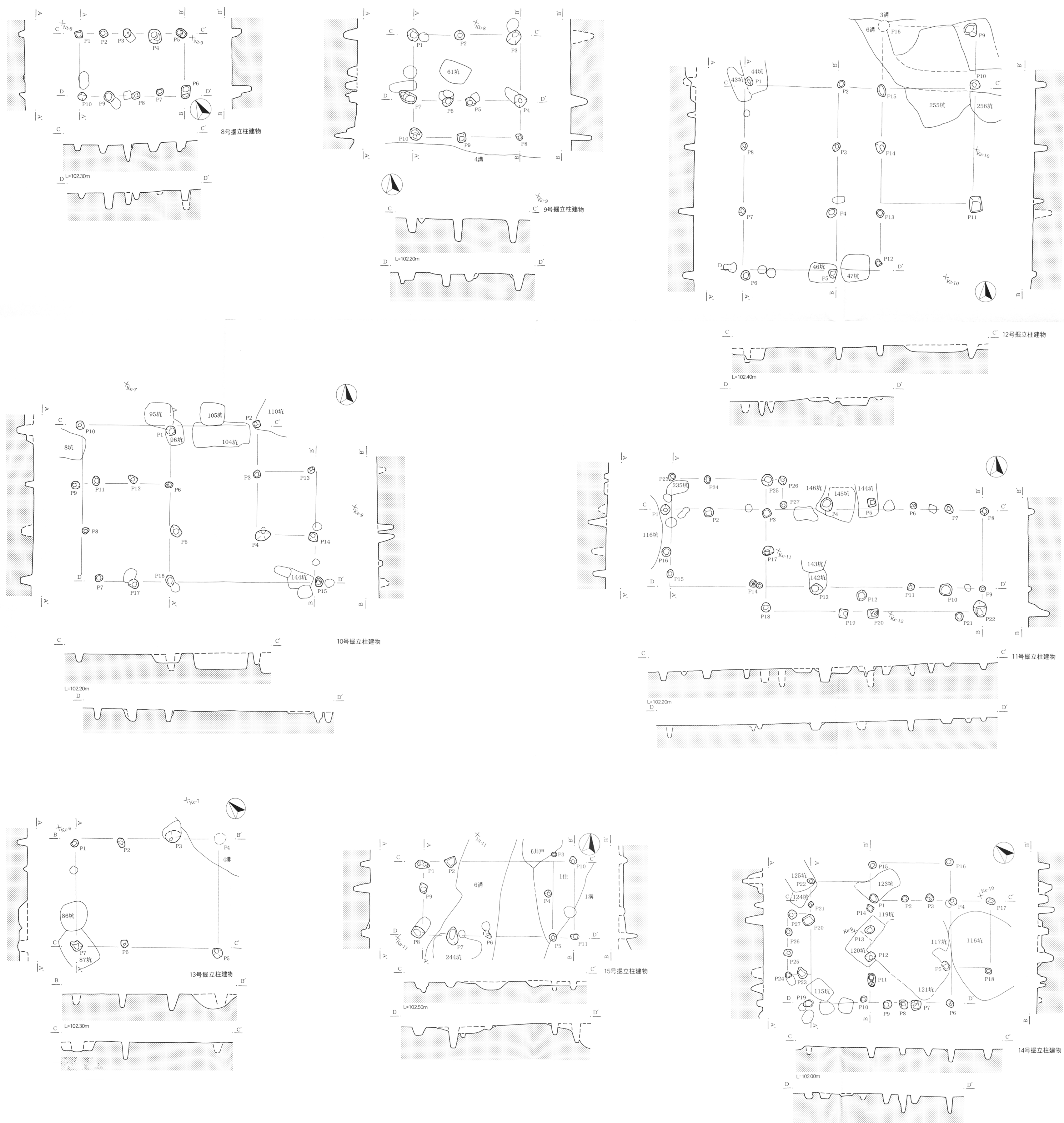
建物の規模 (m)	柱穴			形状	面積 (㎡)	柱穴間の間隔 (m)			主軸方位	底	南・西・東
	No.	長さ	短径			No.	長さ	短径			
北辺 (4.30)	1	44	43	円	4.30	13	43	38	円	1.36	南
東辺 (9.91)	2	51	32	円	2.56	11	62	50	円	P6-1.05	西
南辺 (7.23)	3	50	28	円	2.80	15	58	41	円	1.72	東
西辺 (9.77)	4	40	46	円	2.48	16	37	36	円	0.84	北

建物の規模 (m)	柱穴			形状	面積 (㎡)	柱穴間の間隔 (m)			主軸方位	底	西
	No.	長さ	短径			No.	長さ	短径			
北辺 (6.90)	1	31	30	方	2.03	11	21	28	方	1.97	東
東辺 (3.56)	2	31	28	円	2.03	12	31	22	方	1.72	南
南辺 (6.95)	3	31	33	円	1.90	13	30	29	方	P1-1.12	西
西辺 (6.44)	4	14	10	方	1.48	14	54	28	方	1.00	東

建物の規模 (m)	柱穴			形状	面積 (㎡)	柱穴間の間隔 (m)			主軸方位	底	南
	No.	長さ	短径			No.	長さ	短径			
北辺 (8.84)	1	48	31	円	1.91	11	40	40	円	2.03	東
東辺 (4.10)	2	60	49	円	2.04	12	38	28	不明	P1-4.33	西
南辺 (6.53)	3	40	33	円	1.58	13	41	40	円	1.93	北
西辺 (4.22)	4	32	32	円	2.35	14	41	42	円	4.23	東

付図3 荒砥諏訪西遺跡2区の掘立柱建物(1)





**8号掘立柱建物 (N1-8グリッド)**

建物全体の規模				面積	主軸方位				北-南			
4×1間				9.79㎡	N-65°-E				-			
桁・梁行の規模(m)	柱穴No.	規模(cm)		形状	次ピットとの間隔(m)	桁・梁行の規模(m)	柱穴No.	規模(cm)		形状	次ピットとの間隔(m)	
		長さ	短径					長さ	短径			深さ
北辺(3.82)	1	27	27	円	0.80	南辺(4.03)	6	51	37	方	1.00	
	2	33	30	円	1.00		7	27	25	方	0.92	
	3	32	32	円	0.98		8	32	26	円	1.07	
	4	55	48	円	0.97		9	<40>	38	60	円	1.06
東辺(2.23)	5	42	32	円	2.23	西辺(2.36)	10	30	28	円	P 1へ2.36	

**9号掘立柱建物 (Kb-7グリッド)**

建物全体の規模				面積	主軸方位				北-南				
2(3)×1間				16.25㎡	N-65°-W				南				
桁・梁行の規模(m)	柱穴No.	規模(cm)		形状	次ピットとの間隔(m)	桁・梁行の規模(m)	柱穴No.	規模(cm)		形状	次ピットとの間隔(m)		
		長さ	短径					長さ	短径			深さ	
北辺(3.92)	1	49	42	円	1.80		6	43	37	円	1.50		
	2	37	35	円	2.13	西辺(2.49)	7	72	38	28	円	P 1へ2.49	
東辺(3.54)	3	55	45	88	円	2.54	南辺(4.08)	8	26	23	円	2.26	
南辺(4.18)	4	49	45	円	0.93		9	35	34	82	方	1.81	
	5	38	32	28	方?	0.80		10	48	45	76	円	P 7へ1.43

**10号掘立柱建物 (Ke-8グリッド)**

建物全体の規模				面積	主軸方位				北-南				
1×2間				50.38㎡	N-29°-E				南				
桁・梁行の規模(m)	柱穴No.	規模(cm)		形状	次ピットとの間隔(m)	桁・梁行の規模(m)	柱穴No.	規模(cm)		形状	次ピットとの間隔(m)		
		長さ	短径					長さ	短径			深さ	
北辺(3.33)	1	39	35	円	2.31		10	31	29	31	円	P 1へ3.51	
	2	32	28	40	円	1.83		11	32	30	46	円	1.35
東辺(1.16)	3	31	28	37	円	2.23		12	36	30	44	円	P 6へ1.38
南辺(3.39)	4	58	40	58	円	P 11へ1.94		13	27	22	36	円	2.53
西辺(3.90)	5	49	39	50	円	1.88		14	35	33	63	円	1.80
	6	30	25	33	円	P 1へ2.03	南辺(8.48)	15	38	32	39	円	5.70
	7	30	26	40	円	1.86		16	(41)	(30)	45	円	1.45
	8	27	24	37	円	1.85		17	(40)	31	37	円	P 7へ1.35
	9	32	31	41	円	2.27							

**11号掘立柱建物 (Kd-11グリッド)**

建物全体の規模				面積	主軸方位				北-南			
7×2(1)間				49.30㎡	N-60°-W				北-南			
桁・梁行の規模(m)	柱穴No.	規模(cm)		形状	次ピットとの間隔(m)	桁・梁行の規模(m)	柱穴No.	規模(cm)		形状	次ピットとの間隔(m)	
		長さ	短径					長さ	短径			深さ
北辺(12.37)	1	37	34	32	円	1.66	15	22	24	48	円	0.87
	2	38	36	24	方	2.21	16	34	36	53	円	P 1へ1.60
	3	32	32	17	円	2.34	17	42	33	36	円	2.80
	4	32	17	54	円	1.78	18	35	35	68	円	3.12
	5	32	31	78	方	1.83	19	33	32	67	方	1.13
	6	26	23	42	円	1.32	20	40	34	75	方	3.24
	7	38	30	11	円	1.46	21	32	32	19	円	0.81
東辺(12.97)	8	31	28	26	円	2.97	22	63	48	75	円	P 9へ0.92
南辺(12.08)	9	23	19	13	円	1.44	23	37	26	16	円	1.37
	10	48	46	20	円	1.37	24	31	25	35	円	2.33
	11	27	21	42	円	1.90	25	47	40	53	円	0.55
	12	38	36	30	円	1.88	26	29	29	57	円	0.95
	13	(50)	40	30	円	2.36	27	26	24	63	円	-
	14	29	26	21	円	3.25						

**12号掘立柱建物 (Ns-9グリッド)**

建物全体の規模				面積	主軸方位				北-南				
1×3間+1×3(2)間				61.73㎡	N-20°-W				-				
桁・梁行の規模(m)	柱穴No.	規模(cm)		形状	次ピットとの間隔(m)	桁・梁行の規模(m)	柱穴No.	規模(cm)		形状	次ピットとの間隔(m)		
		長さ	短径					長さ	短径			深さ	
西縁北辺(3.38)	1	32	28	51	円	3.58	9	(37)	38	33	円	2.14	
	2	29	27	23	円	2.41	(6.80)	10	38	31	54	円	1.46
	3	33	26	53	円	2.51	南辺(3.70)	11	61	46	13	方	P 13へ3.70
	4	42	38	68	円	2.37		12	32	22	10	方	1.91
南辺(3.36)	5	32	28	7	円	3.36	西辺(7.03)	13	30	29	22	円	2.51
西辺(7.47)	6	36	35	41	円	2.50		14	42	38	43	円	2.21
	7	30	28	55	円	2.49		15	47	31	32	円	P 2へ1.62
	8	29	23	41	円	P 1へ2.49		16	不明	不明	不明	欠	

**13号掘立柱建物 (Kc-6グリッド)**

建物全体の規模				面積	主軸方位				北-南				
3(2)×1間				22.82㎡	N-45°-E				-				
桁・梁行の規模(m)	柱穴No.	規模(cm)		形状	次ピットとの間隔(m)	桁・梁行の規模(m)	柱穴No.	規模(cm)		形状	次ピットとの間隔(m)		
		長さ	短径					長さ	短径			深さ	
北辺(3.34)	1	31	25	37	円	1.82	南辺(5.30)	5	42	38	41	円	3.51
	2	36	26	40	円	1.90	西辺(3.91)	6	30	28	62	円	1.30
	3	38	65	41	円	(1.65)		7	38	35	39	円	3.91
東辺(4.35)	4	不明	不明	不明	欠	(1.35)							

**14号掘立柱建物 (Kc-9グリッド)**

建物全体の規模				面積	主軸方位				北-南				
3×4間				33.96㎡	N-18°-E				東-北				
桁・梁行の規模(m)	柱穴No.	規模(cm)		形状	次ピットとの間隔(m)	桁・梁行の規模(m)	柱穴No.	規模(cm)		形状	次ピットとの間隔(m)		
		長さ	短径					長さ	短径			深さ	
北辺(3.00)	1	34	31	35	円	1.22	15	30	30	15	円	2.90	
	2	27	27	25	円	1.00	16	30	29	36	円	P 4へ1.47	
東辺(3.98)	3	32	30	25	円	0.78	東縁(2.68)	17	35	26	32	円	2.08
	4	31	(27)	19	円	2.59		18	28	25	51	円	P 5へ1.38
南辺(3.05)	5	35	31	25	円	1.45	西縁(4.58)	19	(32)	24	23	円	3.14
	6	30	28	60	円	1.33		20	45	36	67	方	0.62
	7	42	39	62	円	0.47		21	20	15	33	方	0.91
	8	40	32	68	円	0.67		22	23	22	79	方	0.62
	9	38	34	35	円	0.84	西副柱(2.32)	23	42	33	43	方	0.81
西辺(1.09)	10	27	26	23	円	1.06		24	26	24	48	方	0.38
	11	21	22	36	円	0.74		25	33	28	55	円	0.80
	12	39	32	64	円	1.10		26	29	27	28	円	0.69
	13	(38)	(31)	43	円	0.80		27	33	32	56	円	P 20へ0.30
	14	27	23	63	円	P 1へ0.43							

**15号掘立柱建物 (Nc-11グリッド)**

建物全体の規模				面積	主軸方位				北-南				
1×2間				11.10㎡	N-81°-W				東				
桁・梁行の規模(m)	柱穴No.	規模(cm)		形状	次ピットとの間隔(m)	桁・梁行の規模(m)	柱穴No.	規模(cm)		形状	次ピットとの間隔(m)		
		長さ	短径					長さ	短径			深さ	
北辺(1.01)	1	38	32	37	円	1.05	7	67	45	81	円	1.35	
	2	41	33	18	方	4.04	西辺(2.67)	8	45	40	31	円	1.73
東辺(3.21)	3	18	16	39	円	1.56		9	35	29	61	円	P 1へ0.94
	4	29	26	51	円	1.72	東縁(2.89)	10	27	24	31	円	2.39
南辺(3.32)	5	29	28	16	円	1.38		11	29	22	69	円	P 5へ0.86
	6	(30)	18	27	円	1.38							

付図4 荒砥諏訪西遺跡2区の掘立柱建物(2)